

WILCOMM

ウィルフォームス操作ガイド

DES005 (Last Update : 2002/11/12)

WilComm AS400 V7.15

© Copyright 2000

K.I.S.S. Inc.



本解説書は、フォームデザイナーの操作につきまして解説しています。

目次

1 . フォームデザイナーの実行	4 頁
2 . フォームデザイナー・メニュー / アイコンの説明	5 頁
3 . 新規フォームの作成	3 8 頁
4 . レイアウトの作成	4 3 頁
5 . フィールドの作成	5 8 頁
6 . フォーム作成テクニック集	8 8 頁
6 - 1 . 複数オブジェクトの配置 / サイズの均等	8 8 頁
6 - 2 . オブジェクトの固定 (ロック)	9 7 頁
6 - 3 . 単一フィールドのコピー	1 0 2 頁
6 - 4 . 複数オブジェクトの一括コピー / 移動	1 0 7 頁
6 - 5 . テーブル設定	1 1 2 頁
6 - 6 . 作成フォームの保管 / 印刷	1 2 0 頁
6 - 7 . WilComm からの出力イメージの確認	1 2 2 頁
6 - 8 . ロゴの挿入	1 3 3 頁

6 - 9 . バーコードの作成	1 3 5 頁
7 . マッピング作業事前準備	1 4 1 頁

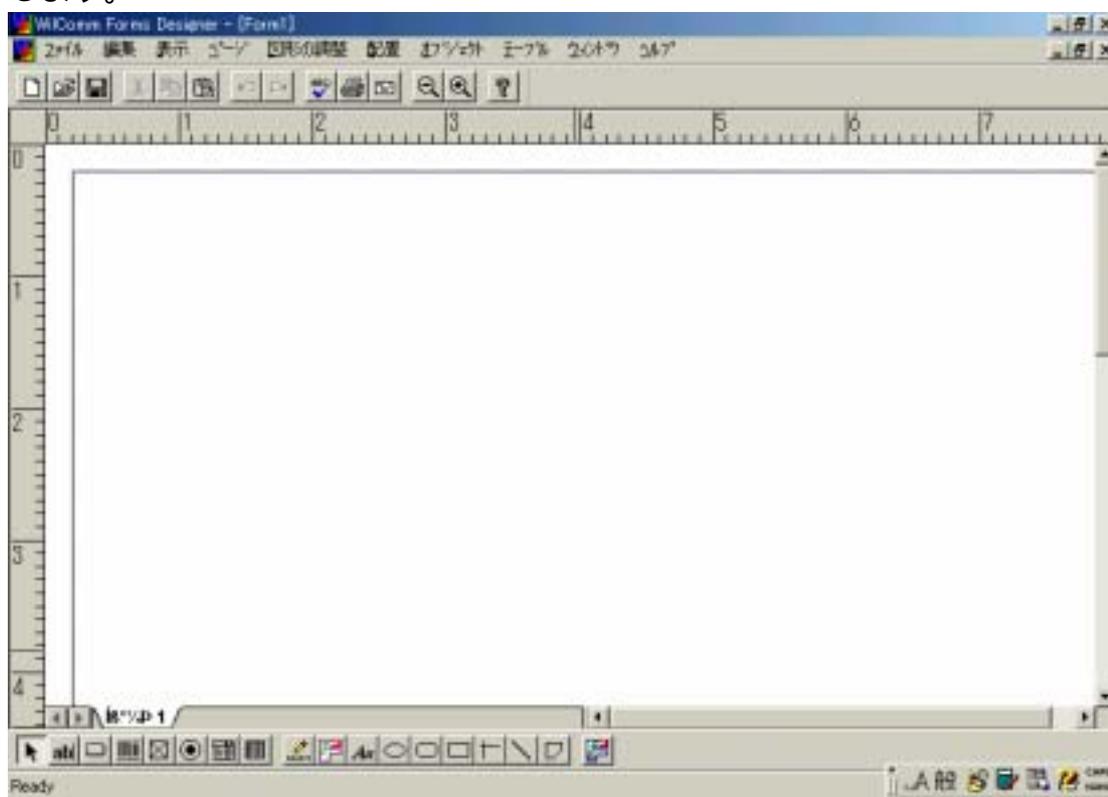
1. フォームデザイナーの実行

フォームデザイナーは、ウィルコムของกลุ่ม製品で使用されるフォーム（専用帳票）を作成するツールです。

フォームデザイナーの導入方法につきましては、マニュアル「導入手順書(INS001)」を参照してください。

フォームデザイナーの起動

[スタート] / [プログラム] / [WilComm Universal] / [Forms Designer]を実行します。



**注意：フォームデザイナーで作成されるファイルの拡張子は「F3t」です。
このファイルをダブルクリックしてフォームデザイナーを実行すると
使用できない機能があります。（使用できない機能は後述参照）
実行は、ショートカットを作成しそこから実行または、上記手順に
より実行するようにしてください**

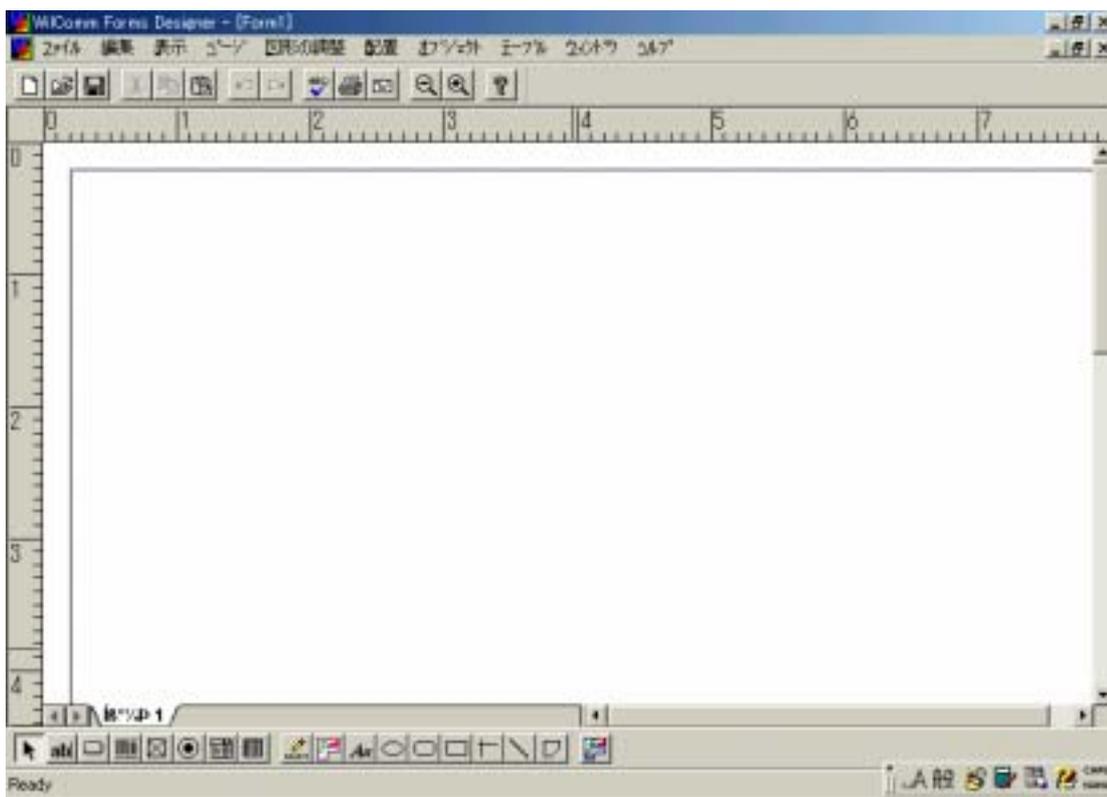
2. フォームデザイナー・メニュー / アイコンの説明

フォームデザイナー・メニュー

フォームデザイナーの操作性は Windows に準拠しています。

MS Office 製品と同様な機能となっています。

以下の説明は、簡略に記述させていただきます。



<ファイル>

新規作成

- 新規にフォーム・デザイン画面が追加されます。
- 画面上部の下記アイコンと対応します。



新規作成アイコン

開く

- 保存されているフォームを開きます。
- 画面上部の下記アイコンと対応します。



開くアイコン

閉じる

- 開いているフォームを閉じます。(手が加わっているのであれば更新する / しないメッセージが表示されます。



上書き保存

- 開かれているフォームを上書き保存します。
- 画面上部の下記アイコンと対応します。



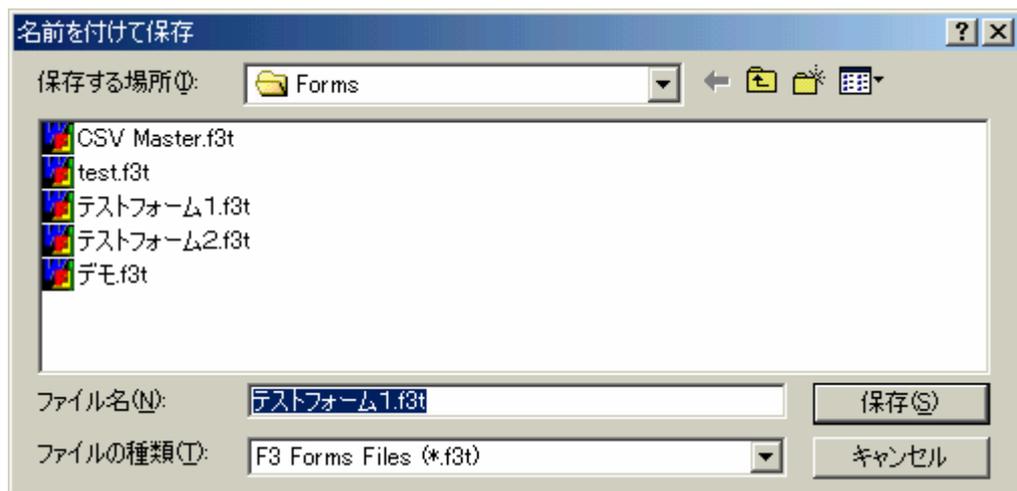
上書き保存アイコン

上書き保存をする場合は、必ずデザインモードで行ってください。

詳細は後述 6 - 6 「作成フォームの保管 / 印刷」を参照してください。

名前をつけて保存

- 開かれているフォームを名前をつけて保存します。



保存をする場合は、必ずデザインモードで行ってください。

詳細は後述 6 - 6 「作成フォームの保管 / 印刷」を参照してください。

注意：WilComm が導入されている PC Server に格納する場合は、必ず以下のフォルダーに格納します。

¥Program Files¥Wilkinson¥WilComm Universal¥F3Forms¥Forms

WilComm が導入されていない PC でフォーム作成を行っている場合は保存先は任意指定です。ただし、WilComm が導入されている PC Server へコピーを行うときは、上記フォルダーにコピーしてください。

変数の抽出

- スプールファイルとフォームの重ね合わせ（マッピング）を定義するために、フィールド名の抽出を行います。

詳細は後述7「マッピング作業事前準備」を参照してください。

データベース

- ODBC 経由で PC に存在するデータベース（例：Microsoft Access）を設定します。

（詳細についてはマニュアル「ウィルフォームス Forms Designer Tutorial <補足資料> (DES004)」を参照してください）

データアクセス

- ODBC 経由で PC に存在するデータベース（例：Microsoft Access）を設定します。

（詳細についてはマニュアル「ウィルフォームス Forms Designer Tutorial <補足資料> (DES004)」を参照してください）

印刷

- 開かれているフォームを印刷します。
- 画面上部の下記アイコンと対応します。



印刷アイコン

フォームデザイナーで作成されたフォームを印刷する場合は、
フィルターモード（後述6 - 6「作成フォームの保管 / 印刷」参照）にて
印刷をするようにしてください。

印刷プレビュー

- 開かれているフォームの印刷プレビューを行います。
フォームデザイナーで作成されたフォームを印刷する場合は、
フィルターモード（後述 6 - 6 「作成フォームの保管 / 印刷」参照）にて
印刷をするようにしてください。

印刷設定

- 印刷するためのプリンター、プリンターオプションを設定します。
フォームデザイナーで作成されたフォームを印刷する場合は、
フィルターモード（後述 6 - 6 「作成フォームの保管 / 印刷」参照）にて
印刷をするようにしてください。

プリファレンス

- 将来機能拡張用です。現時点では機能しません。

フォーム設定

- フォームの用紙サイズ、用紙向きなどを設定します。
詳細は、後述 3 「新規フォームの作成」を参照してください。

フィルターモード

- Wi IComm で処理 / 出力（送信）イメージの確認ができます。
- 画面上部の下部アイコンと対応します。



フィルターモード・アイコン

- Wi IComm で処理 / 出力（送信）イメージの確認については、後述 6 - 7
「Wi IComm からの出力イメージの確認」をしてください。

送信

- 将来機能拡張用です。現時点では機能しません。

ルーティングスリップの編集

- 将来機能拡張用です。現時点では機能しません。

サマリー情報

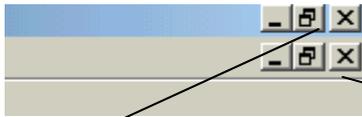
- 将来機能拡張用です。現時点では機能しません。

過去に開いたフォーム名一覧（過去4回分）

- 下記のように今までに開いたフォームがリスト表示されます。（過去4件）

終了

- フォームデザイナーを終了します。
- 以下のウィンドウの「x」ボタンも同様です。



- フォームデザイナー「終了」ボタン フォームの「閉じる」ボタン
- 開いてあるフォームに手が加わっているのであれば更新する / しないメッセージが表示されます。



< 編集 >

元に戻す

- 画面操作を元に戻します。
- 画面上部の下記アイコンと対応します。



元に戻す・アイコン

注意：元に戻るのは操作の現時点から過去1回までです。また、テーブル編集時（テーブル編集については後述5「フィールドの作成」を参照）の元に戻るは、機能しないことに注意してください。

繰り返し

- **将来機能拡張用です。現時点では機能しません。**

切り取り

- 選択されたオブジェクトを切り取ります。
- 画面上部の下記アイコンと対応します。



切り取り・アイコン

コピー

- 選択されたオブジェクトを切り取ります。
- 画面上部の下記アイコンと対応します。



コピー・アイコン

貼り付け

- 切り取り / コピーされたオブジェクトを貼り付けます。
- 画面上部の下記アイコンと対応します。



貼り付け・アイコン

削除

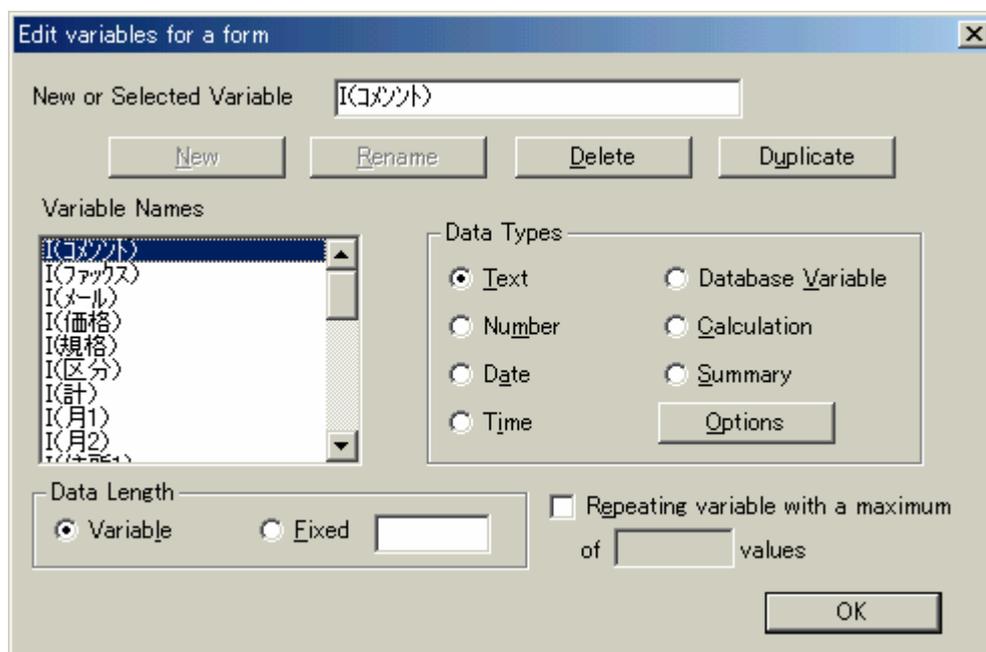
- 選択されたオブジェクトを削除します。

全て選択

- 開かれたフォームにあるオブジェクト全てを選択します。

変数の編集

- 作成済みフィールドの一覧が下記画面のように表示されます。
フィールドの編集を行うことができます。



設定についての詳細は後述5「フィールドの作成」を参照してください。

アクションの名前付け

- 将来機能拡張用です。現時点では機能しません。

スペルチェック

- 将来機能拡張用です。現時点では機能しません。

新しいオブジェクトの挿入

- 新しいオブジェクトをフォーム以外のファイル形式で作成し、挿入することができます。
- フォームデザイナー以外のファイル形式（例：bmp、Word図など）で作成されたオブジェクトをフォーム上に挿入することができます。

注意：オブジェクトの挿入を行う際に、当機能を使用することはお奨めできません。なぜなら、会社のロゴなどを挿入する場合に挿入する時の大きさが指定できないからです。また、挿入してからロゴなどの大きさは変更できますが、縦・横の比率を無視しての変更になってしまいます。会社のロゴなどは縦・横の比率は決まっていますので、ロゴなどの挿入は後述 6 - 8 「ロゴの挿入」を参照してください。

リンク

- 将来機能拡張用です。現時点では機能しません。

オブジェクト

- 将来機能拡張用です。現時点では機能しません。

ロック

- 作成したレイアウト/フィールドを固定することができます。
詳細につきましては後述 6 - 2 「オブジェクトの固定（ロック）」を参照してください。

<表示>

Paper Color

- 下記画面により用紙全体の色の設定ができます。



Show Objects

- 当機能をチェックする / しないで、フォームデザイナー以外のファイル形式（例：bmp、Word図など）で作成されたオブジェクト（ロゴなど）を表示 / 非表示にすることができます。

Toolbar

- 当機能をチェックする / しないで、下記の画面のようにツールバーを表示 / 非表示にすることができます。



(ツールバーを表示)



(ツールバーを非表示)

Object Toolbar

- 当機能をチェックする / しないで、下記の画面のようにオブジェクトツールバーを表示 / 非表示にすることができます。



(オブジェクトツールバーを表示)



(オブジェクトツールバーを非表示)

Status Bar

- 当機能をチェックする / しないで、下記の画面のようにステータスバー表示 / 非表示にすることができます。



(ステータスバーを表示)

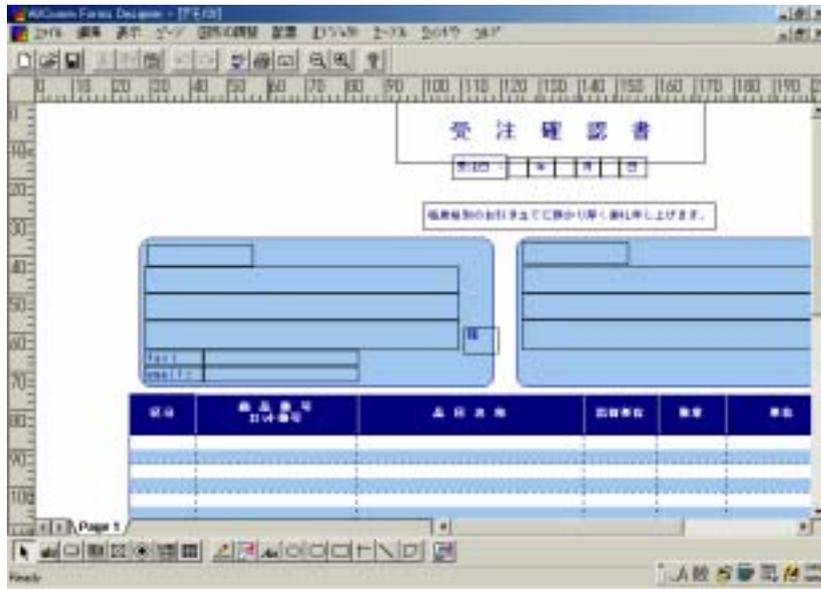


(ステータスバーを非表示)

Scale

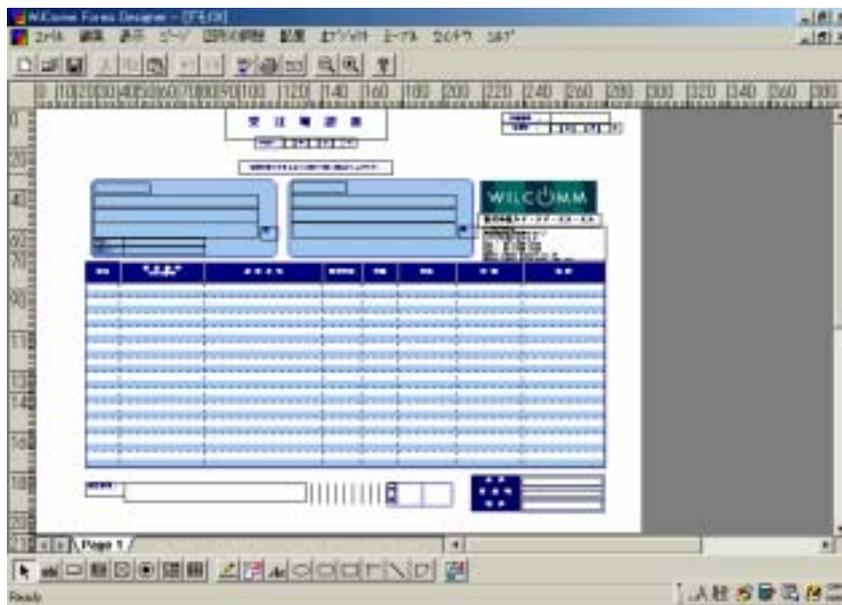
- Actual Size

- 用紙サイズにて作成中フォームを画面に表示します。



- Size to Fit

- 画面サイズに全体が表示できるように縮小表示します。



• Zoom In

- 作成中フォームを拡大表示します。
- 画面上部の下記アイコンと対応します。



Zoom In (拡大)・アイコン

• Zoom Out

- 作成中フォームを縮小表示します。
- 画面上部の下記アイコンと対応します。



Zoom Out (縮小)・アイコン

注意：Scale 機能を使用して、作成途中のフォームを縮小 / 拡大表示を行うと、既に配置されたレイアウト / フィールドが微妙にズれる事があります。

フォームデザイナーの縮小 / 拡大がシステム規定値（未公開かつ変更 / 設定不可）により等倍率で行われます。

配置されたフィールド / レイアウトの座標を等倍率で乗算、減算できない場合は、フォームデザイナーが自動調整を行い、配置を行ってしまいます。

フォーム作成中は、Scale 機能は「Actual Size」を使用することをお奨めします。

< ページ >

追加

- 1つのフォーム・ファイルに新しいフォームデザインシートを**最後**に追加します。



(フォームデザインシートの追加)



追加した新しいフォームデザインシートは文字化けします。
これにつきまして、後述の「名前の変更」機能の参照をお願いします。

挿入

- 1つのフォーム・ファイルに新しいフォームデザインシートを選択されているフォームデザインシートの**直前**に追加します。

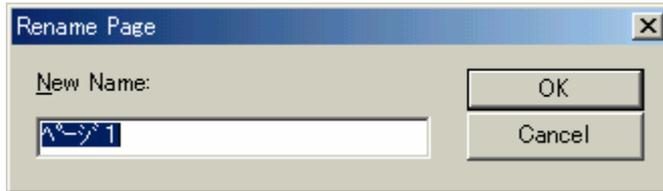
追加した新しいフォームデザインシートは文字化けします。
これにつきまして、後述の「名前の変更」機能の参照をお願いします。

削除

- 選択されたフォームデザインシートの削除を行います。

名前の変更

- 新規に作成されるフォームデザインシートのシート名は文字が化けて表示されます。これは、現時点では日本語対応されていないためです。
シート名はWi1Commの処理（出力）では、影響はありません。
- フォームデザインシートのシート名の変更が可能です。



日本語を英語に変える



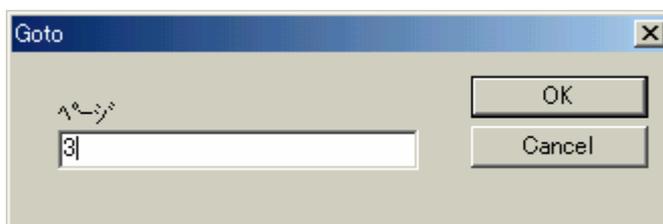
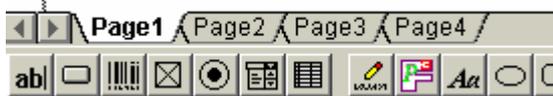
[OK]ボタンを押す



シート名が正しく表示されます。

ジャンプ

- 複数のフォームデザインシートが存在する場合のみ機能します。
- 指定されたページのフォームデザインシートへ遷移します。



(遷移したいページを指定します。)



シートが一番左が1ページ目です。
順に2, 3, ...ページとなります。

< 図形の調整 >

選択

- レイアウト（オブジェクト）/フィールドをクリックすることにより選択します。
- 画面下部の下記アイコンと対応します。



選択・アイコン

編集

- 単一フィールドを作成します。
- 画面下部の下記アイコンと対応します。



編集・アイコン

詳細は後述5「フィールドの作成」を参照してください。

ボタン

- **将来機能拡張用です。現時点では機能しません。**
- 画面下部の下記アイコンと対応します。



ボタン・アイコン

バーコード

- バーコード・フィールド（単一フィールド）を作成します。
- 画面下部の下記アイコンと対応します。



バーコード・アイコン

詳細は後述 6 - 9 「バーコードの作成」を参照してください。

チェックボックス

- 将来機能拡張用です。現時点では機能しません。
- 画面下部の下記アイコンと対応します。



チェックボックス・アイコン

ラジオボタン

- 将来機能拡張用です。現時点では機能しません。
- 画面下部の下記アイコンと対応します。



ラジオボタン・アイコン

コンボボックス

- 将来機能拡張用です。現時点では機能しません。
- 画面下部の下記アイコンと対応します。



コンボボックス・アイコン

テーブル

- テーブル・フィールドを作成します。
- 画面下部の下記アイコンと対応します。



テーブル・アイコン

詳細は後述5「フィールドの作成」を参照してください。

署名

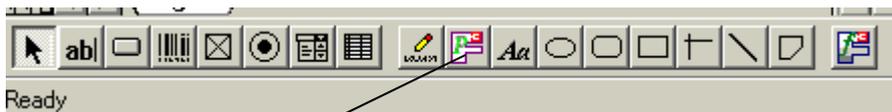
- 将来機能拡張用です。現時点では機能しません。
- 画面下部の下記アイコンと対応します。



署名・アイコン

パワーデザイナー

- 将来機能拡張用です。現時点では機能しません。
- 画面下部の下記アイコンと対応します。



パワーデザイナー・アイコン

Static Text

- テキスト（見出し）・フィールドを作成します。
- 画面下部の下記アイコンと対応します。

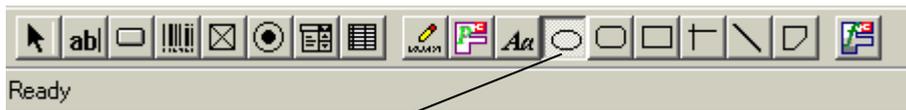


テキスト（見出し）・アイコン

詳細は後述4「レイアウトの作成」を参照してください。

Eiiipse

- オブジェクト（図）：円を作成します。
- 画面下部の下記アイコンと対応します。



オブジェクト（図）：円・アイコン

詳細は後述4「レイアウトの作成」を参照してください。

Round Rectangle

- オブジェクト（図）：四角（角なし）を作成します。
- 画面下部の下記アイコンと対応します。



オブジェクト（図）：四角（角なし）・アイコン

詳細は後述4「レイアウトの作成」を参照してください。

Rectangle

- オブジェクト (図): 四角を作成します。
- 画面下部の下記アイコンと対応します。



オブジェクト (図): 四角・アイコン
詳細は後述4「レイアウトの作成」を参照してください。

Constrained Line

- オブジェクト (図): 直線を作成します。
- 画面下部の下記アイコンと対応します。



オブジェクト (図): 直線・アイコン
詳細は後述4「レイアウトの作成」を参照してください。

Line

- オブジェクト (図): 斜め線を作成します。
- 画面下部の下記アイコンと対応します。



オブジェクト (図): 斜め線・アイコン
詳細は後述4「レイアウトの作成」を参照してください。

Polygon

- オブジェクト (図): ポリゴン線を作成します。
- 画面下部の下記アイコンと対応します。



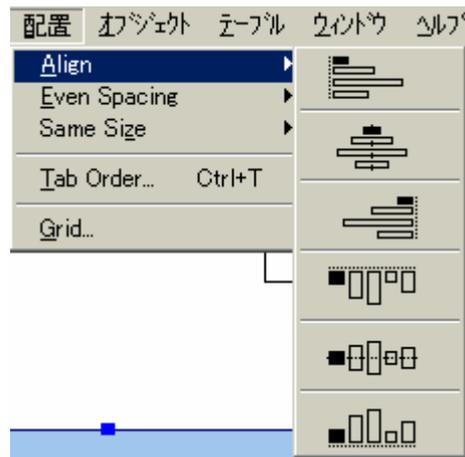
オブジェクト (図): ポリゴン線・アイコン
詳細は後述4「レイアウトの作成」を参照してください。

< 配置 >

Align

- 複数オブジェクト / フィールドを基準となるオブジェクト / フィールドに位置を合わせることができます。

詳細は後述 6 - 1 「複数オブジェクトの配置 / サイズの均等」を参照してください。



黒塗りされた箇所を基準として位置を自動で合わせます

注意：フォームデザイナーで作成されるファイルの拡張子は「F3t」です。このファイルをダブルクリックしてフォームデザイナーを実行すると当機能は使用できません。

< ダブルクリックした場合 >



Even Spacing

- 複数オブジェクト/フィールドを基準となるオブジェクト/フィールドを基にオブジェクト/フィールドの間隔を等間隔にすることができます。

詳細は後述 6 - 1 「複数オブジェクトの配置/サイズの均等」を参照してください。



黒塗りされた箇所を基準として
間隔を自動で等間隔にします

注意：フォームデザイナーで作成されるファイルの拡張子は「F3t」です。このファイルをダブルクリックしてフォームデザイナーを実行すると当機能は使用できません。

<ダブルクリックした場合>



Same Size

- 複数オブジェクト/フィールドを基準となるオブジェクト/フィールドを
基にオブジェクト/フィールドの大きさを合わせることができます。

詳細は後述 6 - 1 「複数オブジェクトの配置/サイズの均等」を
参照してください。



黒塗りされた箇所を基準として
大きさを自動で合わせます。

**注意：フォームデザイナーで作成されるファイルの拡張子は
「F3t」です。このファイルをダブルクリックして
フォームデザイナーを実行すると当機能は使用できません。**

<ダブルクリックした場合>

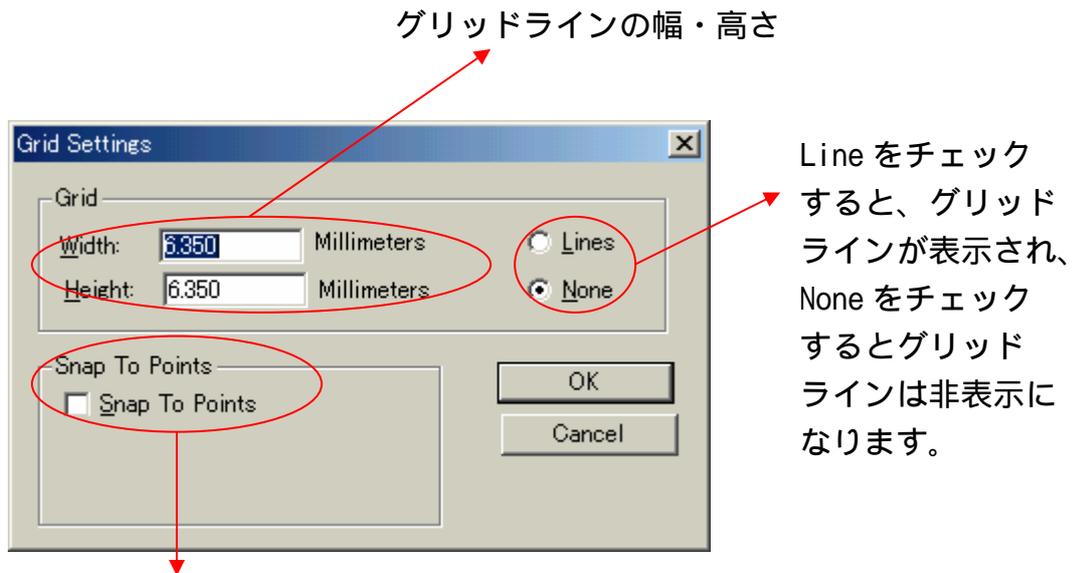


Tab Order

- 将来機能拡張用です。現時点では機能しません。

Grid

- フォームデザインシート全体にグリッドラインを表示することができます。
- 表示されるグリッドラインの幅、高さを設定します。
- オブジェクト/フィールドの移動がグリッドラインを基準に、グリッドライン間隔で行うことが可能です。



グリッドライン間隔でオブジェクト/フィールドの移動が可能になります。

詳細は後述 6 - 1 「複数オブジェクトの配置/サイズの均等」を参照してください。

注意：用紙のマージンが ZERO の場合は、当機能は機能しません。
(用紙マージンについては後述 3 「新規フォームの作成」を参照)

<オブジェクト>

プロパティ

- オブジェクト/フィールドを選択し、当機能を実行するとプロパティの編集が可能です。

詳細は後述4「レイアウトの作」、5「フィールドの作成」を参照してください。

グループ化

- 複数のオブジェクト/フィールドを選択し、当機能を実行すると複数のオブジェクト/フィールドがグループ化されます。

詳細は後述6 - 4「複数オブジェクトの一括コピー/移動」を参照してください。

グループ解除

- 上記“グループ化”でグループ化されたものを、解除します。

詳細は後述6 - 4「複数オブジェクトの一括コピー/移動」を参照してください。

最前面へ移動

- 複数のオブジェクト/フィールドが重なりあっている場合に、選択したオブジェクト/フィールドを最前面に移動します。

最背面へ移動

- 複数のオブジェクト/フィールドが重なりあっている場合に、選択したオブジェクト/フィールドを最背面に移動します。

前面へ移動

- 複数のオブジェクト/フィールドが重なりあっている場合に、選択したオブジェクト/フィールドを前面に移動します。

背面へ移動

- 複数のオブジェクト/フィールドが重なりあっている場合に、選択したオブジェクト/フィールドを背面に移動します。

<テーブル>

行

詳細は後述5「フィールドの作成」を参照してください。

・挿入

- 選択されたテーブルに行を挿入します。
(PF11キーが同一機能をサポート)

・削除

- 選択されたテーブル内で、選択された行を削除します。

・ヘダー

- 選択されたテーブルの行見出しを表示します。
(チェックを外すと行見出しは非表示になります)

	A	B	C	D
1				
2				
3				
4				
5				
6				

(チェックを外す)

A	B	C	D

・高さ

- 選択されたテーブル内で、選択された行の高さを指定(入力)することができます。



- ・均等

- 選択されたテーブル内の、全ての行の高さを均等にします。

- ・グリッドライン

- 選択されたテーブルの行のグリッドラインを表示します。

- (チェックを外すとグリッドラインは非表示になります)

	A	B	C	D
1				
2				
3				
4				
5				
6				

(チェックを外す)

	A	B	C	D
1				
2				
3				
4				
5				
6				

列

詳細は後述5「フィールドの作成」を参照してください。

・挿入

- 選択されたテーブルに列を挿入します。
(P F 1 2 キーが同一機能をサポート)

・削除

- 選択されたテーブル内で、選択された列を削除します。

・ヘダー

- 選択されたテーブルの列見出しを表示します。
(チェックを外すと列見出しは非表示になります)

	A	B	C	D
1				
2				
3				
4				
5				
6				

(チェックを外す)

1				
2				
3				
4				
5				
6				

・幅

- 選択されたテーブル内で、選択された列の幅を指定 (入力) することができます。



・均等

- 選択されたテーブル全ての列の高さを均等にします。

・グリッドライン

- 選択されたテーブルの列のグリッドラインを表示します。
(チェックを外すとグリッドラインは非表示になります)

	A	B	C	D
1				
2				
3				
4				
5				
6				

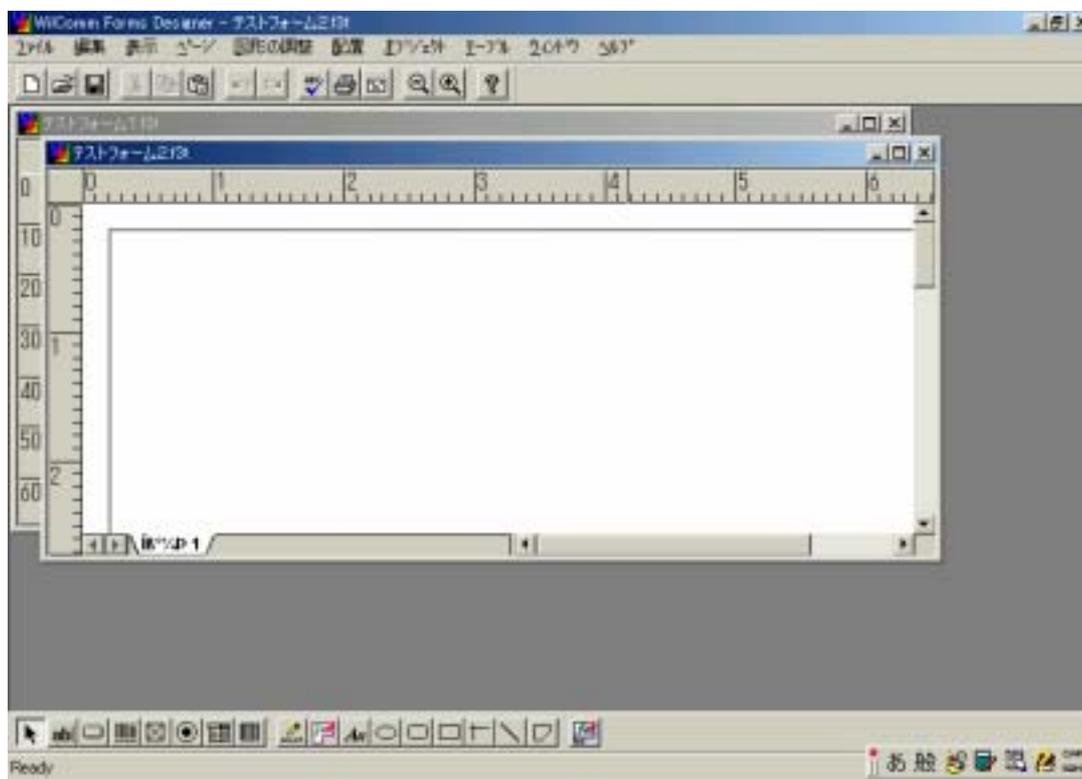
(チェックを外す)

	A	B	C	D
1				
2				
3				
4				
5				
6				

<ウィンドウ>

重ねて表示

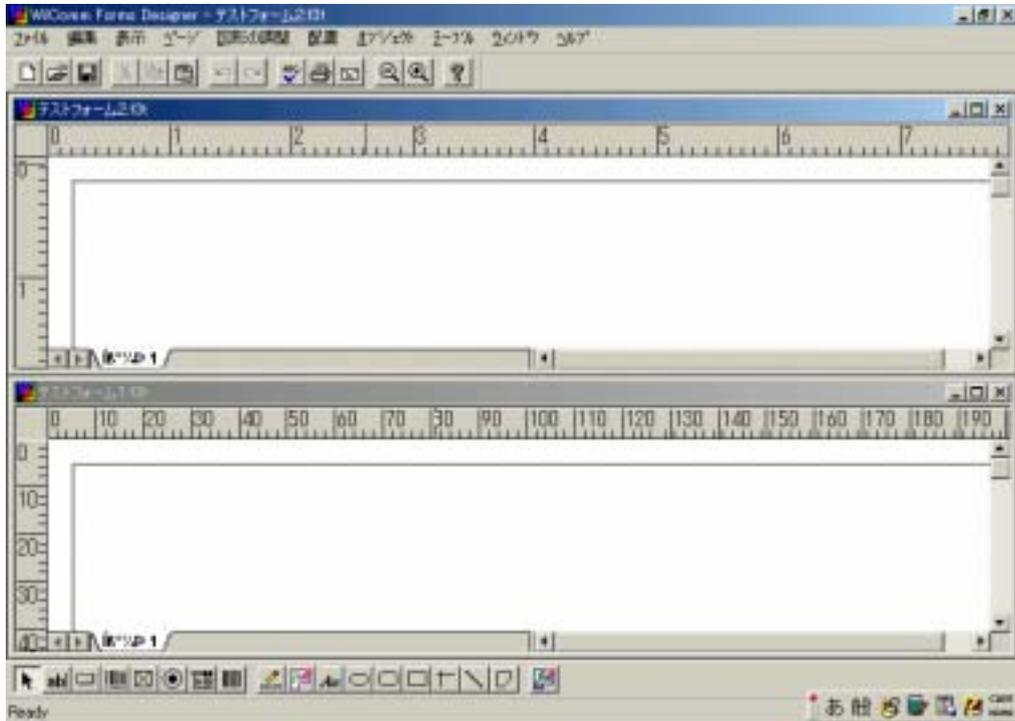
- 複数開いたフォームが下記画面のように表示されます。



ここでは、テストフォーム1とテストフォーム2が開かれています。

並べて表示

- 複数開いたフォームが下記画面のように表示されます。



ここでは、テストフォーム1とテストフォーム2が開かれています。

アイコンの整列

- 将来機能拡張用です。現時点では機能しません。

開いているフォーム

- 現在、開いているフォーム名がリストされ表示されます。

<ヘルプ>

内容

- ヘルプの内容が表示されます。ただし、現在のバージョンは英語で表示されます。

検索

- ヘルプの内容を検索できます。ただし、現在のバージョンは英語で表示されます。

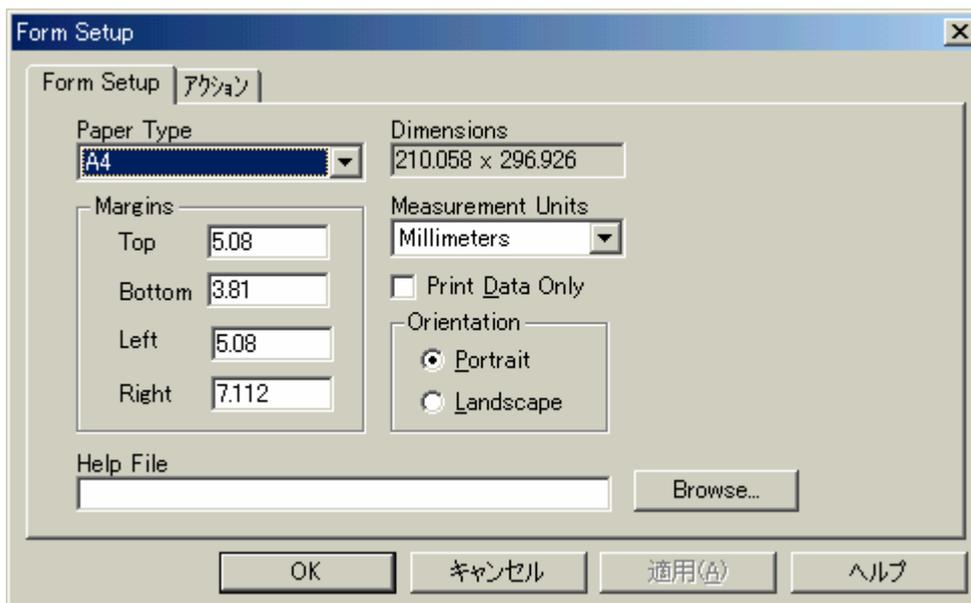
ウィルフォームについて

- フォームデザイナーのバージョンが確認できます。
最新のバージョンは、「F3 Forms Designer R3.11」です。

3 . 新規フォームの作成

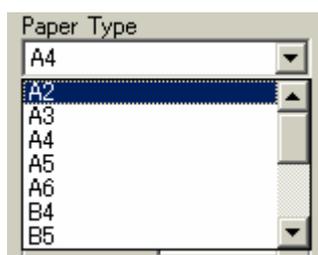
作成するフォーム（専用帳票）の用紙サイズの設定を行います。
[ファイル] / [フォーム設定] を実行します。

タブシート [Form Setup]



Paper Type

- 作成するフォーム（専用帳票）にあった用紙サイズを矢印ボタンを押して選択します。



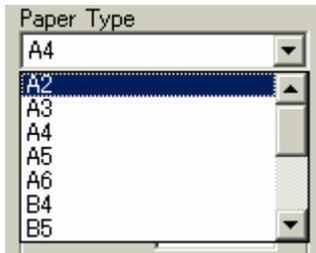
使用可能な用紙サイズは上記の通りです。

上記に存在しない用紙サイズを指定する場合（例：ストックフォーム）は、上記画面をスクロールし「Custom」を選択します。



Dimensions

- 用紙サイズが下記の場合は、既に設定されている用紙寸法が表示されます。(入力不可)

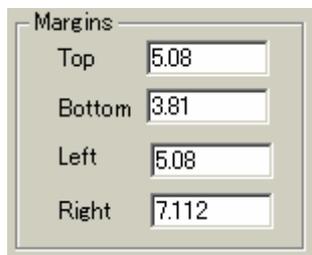


- 用紙サイズが下記 (Custom) の場合は、作成する用紙の寸法を指定 (入力) します。



Margins

- 上・下・右・左の用紙の余白を設定します。



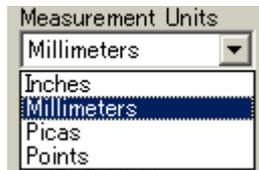
注意：用紙の余白は、プリンターによつての印字可能領域によつて変わります。

また、FAX送信にて使用する場合は、プリンターへの出力した場合の余白と異なる事に注意してください。

上記で説明した2「フォームデザイナー・メニュー/アイコンの説明」の配置メニューのGridを使用する場合は、余白はZEROより大きな値を設定してください。

Measurement Units

- フォーム（専用帳票）の設定単位を、矢印ボタンを押して選択します。



一般的には、Missimeters（ミリメートル）、Inches（インチ）が使用されます。

Print Data Only

- 将来機能拡張用です。現時点では機能しません。



Orientation

- 用紙の縦向き / 横向きを指定します。



Protrait : 縦向き
Landscape : 横向き

Help File (Browse ボタン)

- 将来機能拡張用です。現時点では機能しません。



タブシート [アクション]

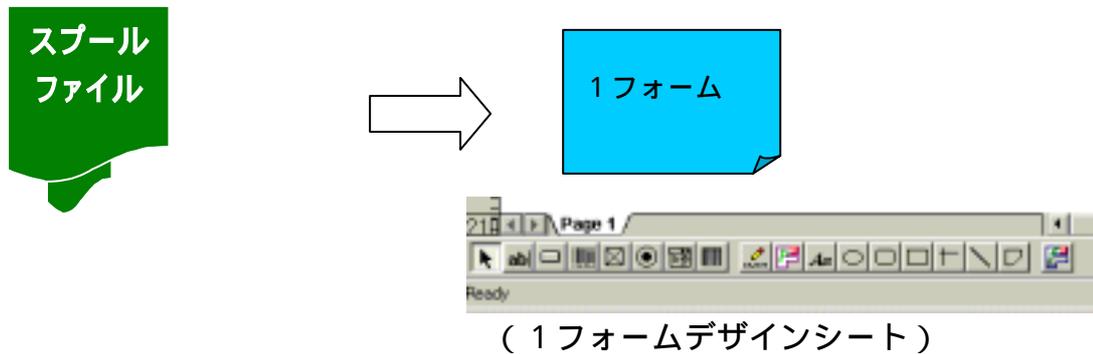
- 将来機能拡張用です。現時点では機能しません。

【フォーム作成での注意点】

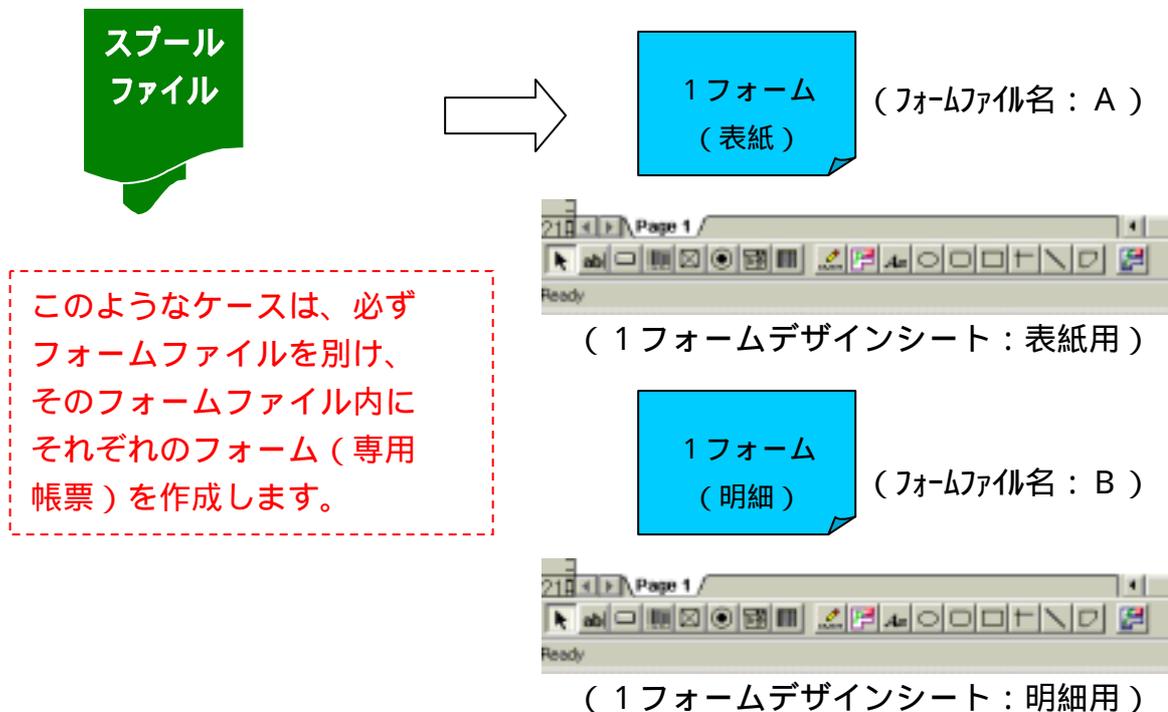
WilCommでは、スプールファイルの1ページ毎に、どのフォーム（専用帳票）を使用し、処理をするのかを定義します。

このため、1つのフォーム・ファイルに格納されるフォーム（専用帳票）は原則1フォーム（1フォームデザインシート）となります。

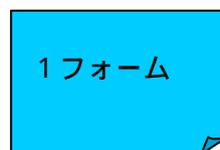
例）スプールファイルの全ページが一つのフォーム（専用帳票）を使用する場合



例）スプールファイルには表紙、明細というように印字され、各ページでそれぞれのフォーム（専用帳票）を使用する場合



例) スプールファイルの1ページ毎に、必ず体裁の違うフォームを複数種類印字(出力)する場合



このようなケースは、前述の例とは違い、フォームファイルを別けるのではなく、1ページで印字(出力)するフォーム(専用帳票)全てを、フォームデザインシートを別けて作成します。



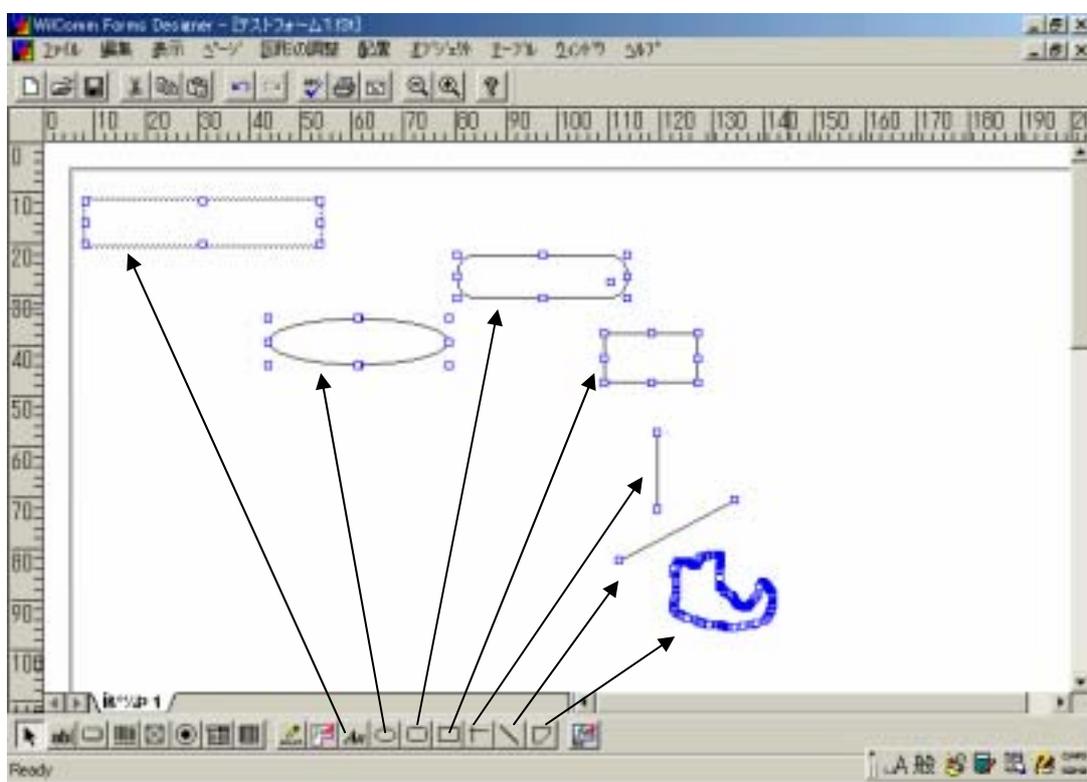
(複数のフォームデザインシート)

4 . レイアウトの作成

図形や罫線、テキスト（スプールファイルから印字しないデータ）を配置 / 作成を行います。

図形 / 罫線、テキストの配置 / 作成

各種アイコンを選択（クリック）し、配置 / 作成したい箇所にカーソルをあわせ、ドラックすることにより図形 / 罫線、テキストの配置 / 作成を行います。



テキストの入力（新規作成）

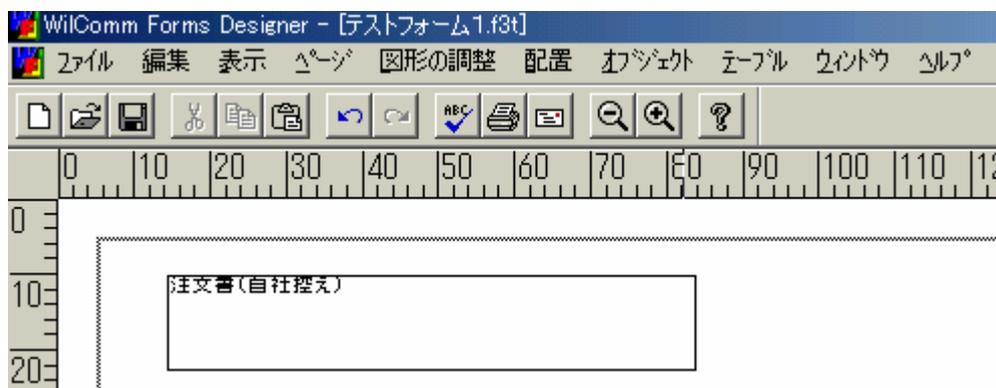
テキスト（見出し）・アイコンを選択（クリック）し、配置／作成したい箇所にカーソルをあわせ、ドラックすることによりテキストの配置／作成を行います。



次に、表示（印字）させたい内容をキーボードより打鍵し、設定します。

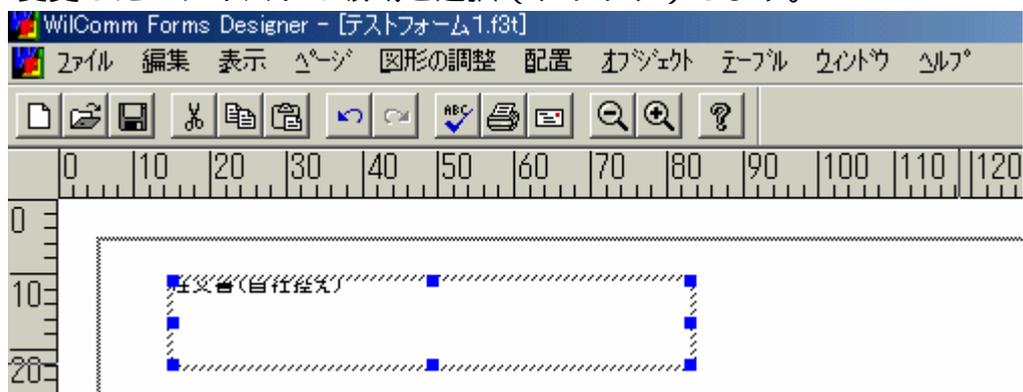


違う領域にカーソルをあわせ、クリックすることにより打鍵した内容が設定されます。



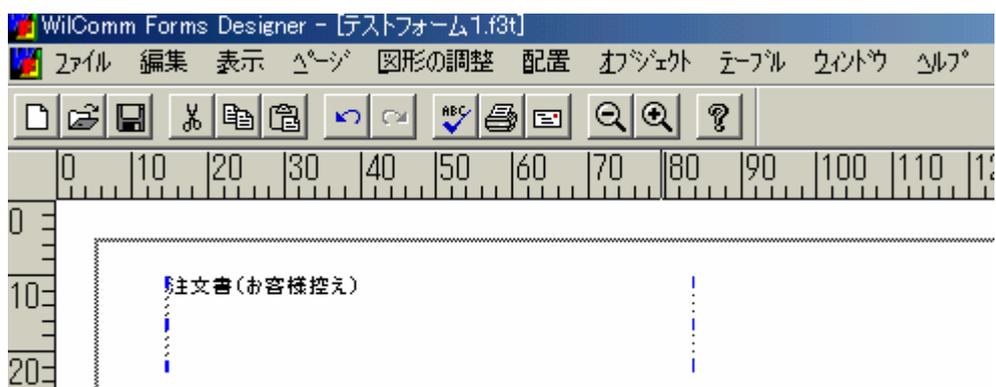
テキストの入力（変更）

変更したいテキストの領域を選択（クリック）します。



<< 変更方法 1 >>

この状態で、再度設定したい内容を直接、打鍵 / 入力します。



<< 変更方法 2 >>

変更したい、テキストの領域を、ゆっくりダブルクリックし、入力モードにし、入力します。



フォームデザイナーがご認識をし、後述いたしますプロパティが表示されてしまうケースがあります。

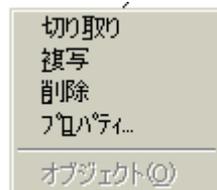
図形 / 罫線の線の種類やテキストの文字のフォントなどの設定
フォームデザイナーで作成される図形 / 罫線、テキストの全てに対して
プロパティーがあります。

<< プロパティーの呼び出し方その1 >>

- ・ 該当の図形 / 罫線やテキストをダブルクリックすると自動で呼び出されます。

<< プロパティーの呼び出し方その2 >>

- ・ 該当の図形 / 罫線やテキストを選択し、マウスを右クリックし、呼び出します。



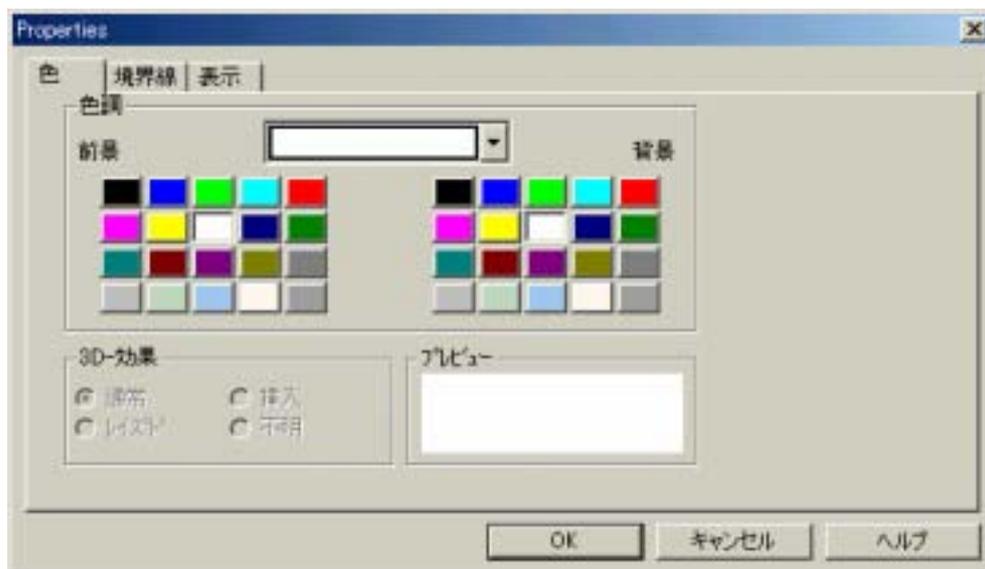
<< プロパティーの呼び出し方その3 >>

- ・ 該当の図形 / 罫線やテキストを選択し、[オブジェクト] メニューから呼び出します。

【図形 / 罫線のプロパティ】

タブシート “色”

(直線や斜め線の場合は、このタブシートは非表示になります。)



- 前景、背景とありますが、前景のみが機能します。
- 3D - 効果は将来機能拡張用です。現時点では機能しません。

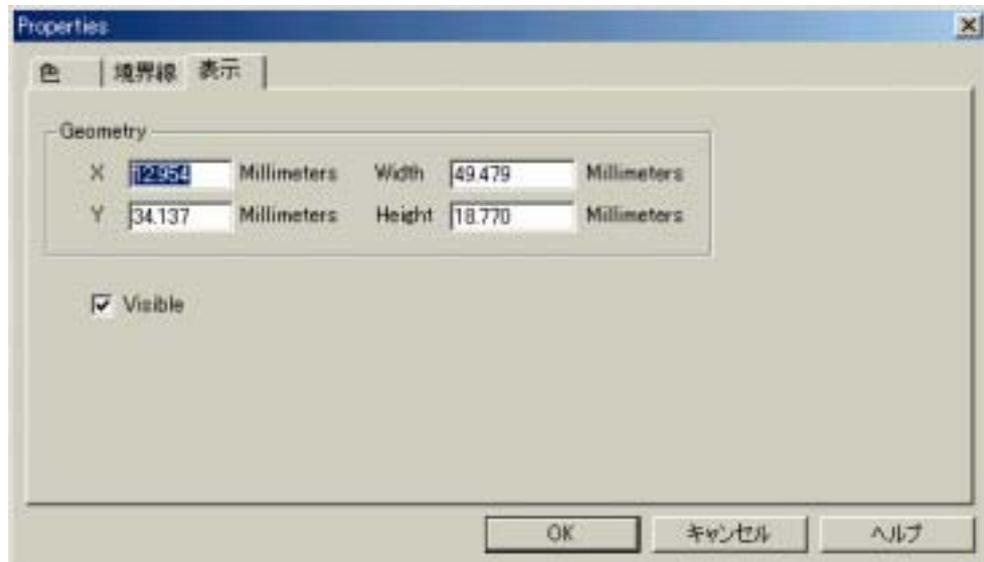
タブシート “境界線”



- 図形の罫線の線種類を選択 / 設定します。
- 図形の罫線の線の色を選択 / 設定します。

Wi IComm では当画面に表示されている線種類のみ設定可能です。
ここで表示されている以外の線種類を指定する場合は、Wordなどで図形（罫線）を作成し、その図（罫線）をフォーム上にコピーして使用します。詳細は後述6 - 8「ロゴの挿入」を参照してください。

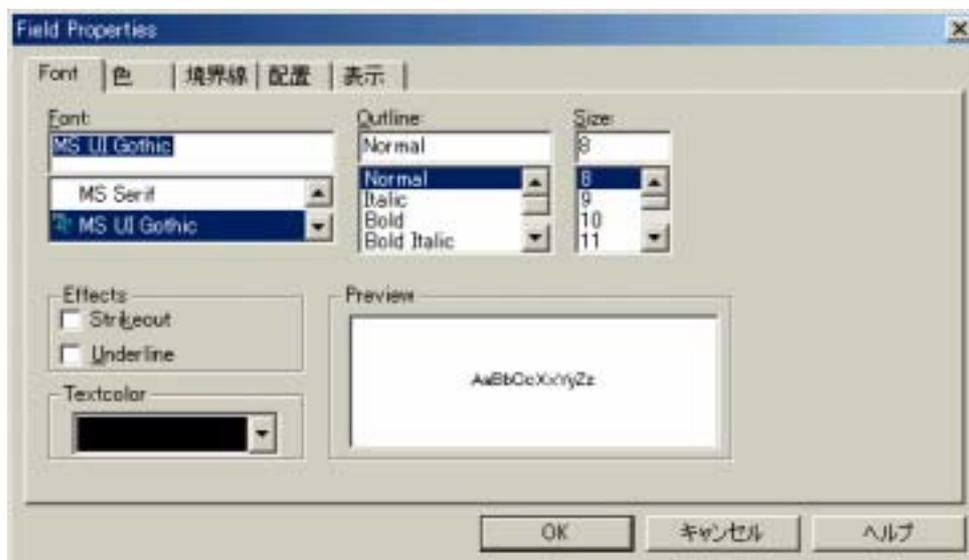
タブシート “表示”



- 配置位置の座標、幅・高さを設定します。
- Visible は表示 / 非表示の設定です。
チェックあり：表示、チェックなし：非表示

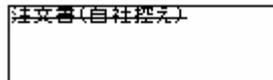
【テキストのプロパティ】

タブシート“Font”

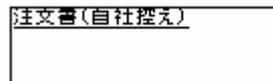


- Font : テキストのフォントを選択 / 設定します。
Wi IComm が導入されている PC Server に存在しないフォントは使用しないでください。
- Outline : 文字の太さや体裁を選択 / 設定します。
Normal...通常 of 太さ
Italic...斜め文字
Bold...太字
Bold Italic...太字 / 斜め文字
- Size : 文字のサイズを選択 / 設定します。
注意：画面に表示されないサイズ（7以下）も設定する事は可能です。ただし、各種設定の後（違うタブも含む）最後に Size の設定を行い、[OK] を押すようにしてください。

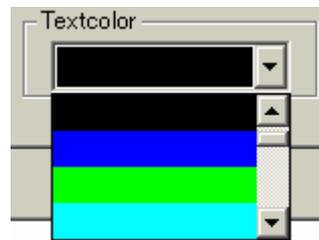
- Effects : 文字に線を引きます。
(Strikeout をチェック)



- (Onderline をチェック)

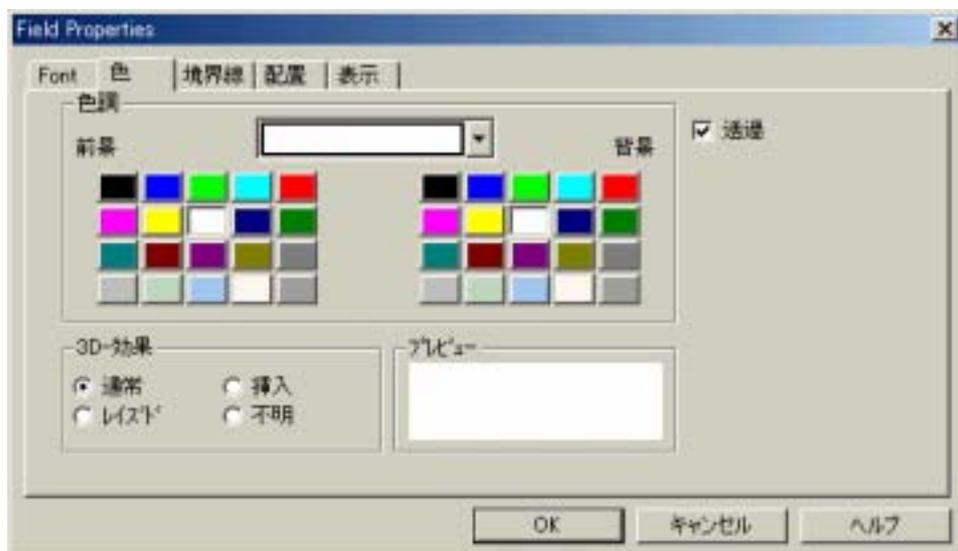


- Textcolor : 文字の色を選択 / 設定します。

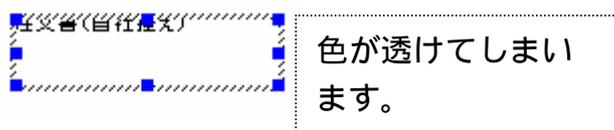


- Preview : 設定された内容のプレビューが表示されます。

タブシート“色”



- 前景、背景とありますが、前景のみが機能します。
- 3D-効果は将来機能拡張用です。現時点では機能しません。
- 透過 : テキスト領域の色の透過を設定します。
(チェックあり)



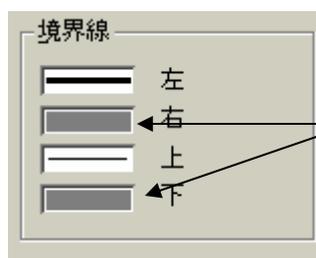
(チェックなし)



タブシート“境界線”



- 境界線 : テキスト領域の罫線を下記のタイプより選択 / 設定します。



この状態は、線種類が未設定を表します。印字（出力）した際、印字（表示）されません。

- タイプ : 線種類を選択します。
Wi1Comm では当画面に表示されている線種類のみ設定可能です。ここで表示されている以外の線種類を指定する場合は、Wordなどで図形（罫線）を作成し、その図（罫線）をフォーム上にコピーして使用します。詳細は後述 6 - 8 「ロゴの挿入」を参照してください。
- 色 : 線の色を選択 / 設定します。

タブシート“配置”



- 水平方向 : テキスト領域中に打鍵（入力）された文字列をどのように配置するか選択／設定します。（不明は選択しないようにしてください）
- 垂直方向 : テキスト領域中に打鍵（入力）された文字列をどのように配置するか選択／設定します。（不明は選択しないようにしてください）
- 包み込み、自動サイズ、入力許可、自動スクロール : **将来機能拡張用です。現時点では機能しません。初期表示値から変更しないでください。**

タブシート“表示”



- テキスト領域の配置位置の座標、幅・高さを設定します。
- Visible は表示 / 非表示の設定です。
チェックあり：表示、チェックなし：非表示

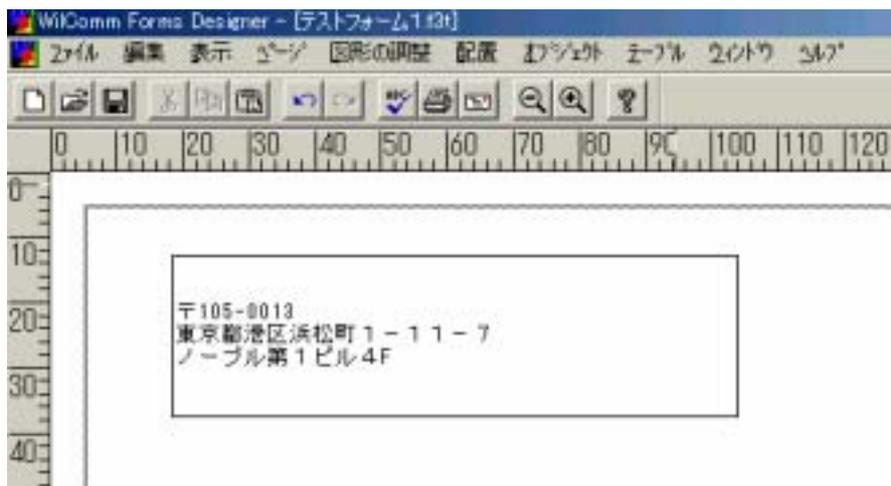
テキストの入力の注意

下記の例のように複数行からなるデータ（文字列）をテキストとしてフォームに設定する場合に注意があります。

〒105-0013
東京都港区浜松町 1 - 1 1 - 7
ノーブル第 1 ビル 4 F

フォームデザイナーでは、改行キーを用いての改行ができない事に注意をしてください。

下記のように、一つのテキストフィールドで、高さを十分取り、幅を調整し、あたかも改行をしているかのように設定ができます。



この方法は行と行の間にスペースを埋め込み、フィールドの幅に収まるように設定をしています。

このフィールドの幅に収まるような折り返しは、フォームデザイナーが自動で行っています。

この自動折り返しは、出力するプリンタードライバーなどによっては正しい位置で折り返しされない場合がありますので、フィールドの幅による自動折り返しは使用しないようにします。

複数行からなるデータ（文字列）の設定は下記のように設定します。



- 1行単位でテキストフィールドを作成します。
- 配置は全て左詰で統一します。

[1行1フィールドで定義をします。](#)

5 . フィールドの作成

スプールファイルから転送されてくるデータ（変数）を印字（表示）するフィールドを作成します。

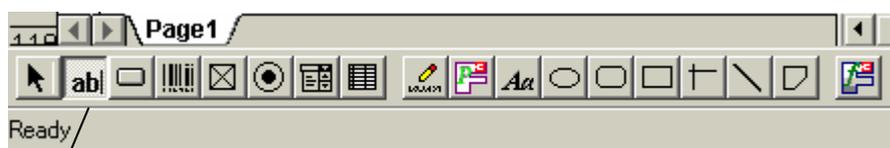
フィールドには以下の2つがあります。

- 1 . 単一フィールド : スプールファイルから転送されてくるデータが、1行分のみ（スプールファイルのX行目のXカラムからXバイト分）を印字するフィールドです。

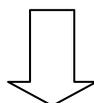
- 2 . テーブルフィールド : スプールファイルから転送されてくるデータが、n行（スプールファイルのn行目からn x 行目までのXカラムからXバイト分）を印字するフィールドです。
転送されるn行とフォームデザイナーのテーブルフィールドのn行の対応はW i l C o m mが行います。

単一フィールドの作成

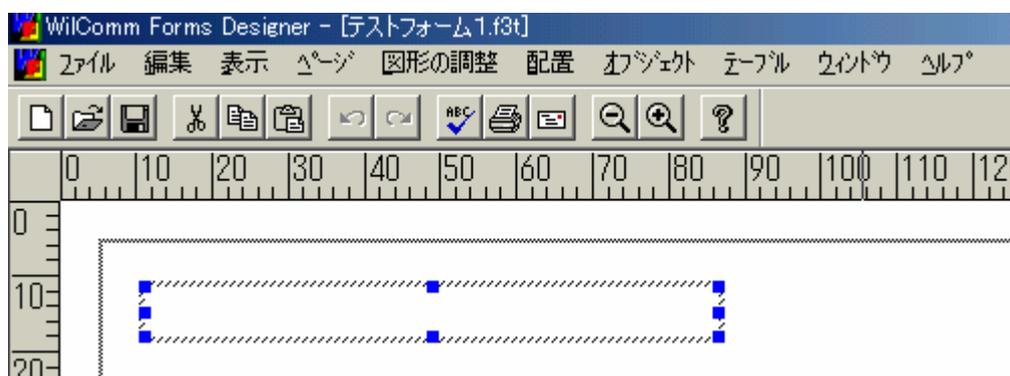
編集・アイコンを選択（クリック）し、配置 / 作成したい箇所にカーソルをあわせ、ドラックすることにより単一フィールドの配置 / 作成を行います。



編集・アイコン



選択（クリック）



配置 / 作成した箇所にカーソルを合わせドラッグ

単一フィールドのフィールド名称の設定

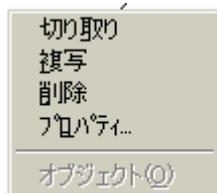
- スプールファイルから転送されてくるデータ（変数）を印字（表示）する単一フィールドには、必ずフィールド名称をつける必要があります。
- 単一フィールドは個々にプロパティを持ち、フィールド名称の他に文字フォント、サイズ、配置などを設定します。

<< プロパティの呼び出し方その1 >>

- ・ 該当の単一フィールドをダブルクリックすると自動で呼び出されます。

<< プロパティの呼び出し方その2 >>

- ・ 該当の単一フィールドを選択し、マウスを右クリックし、呼び出します。

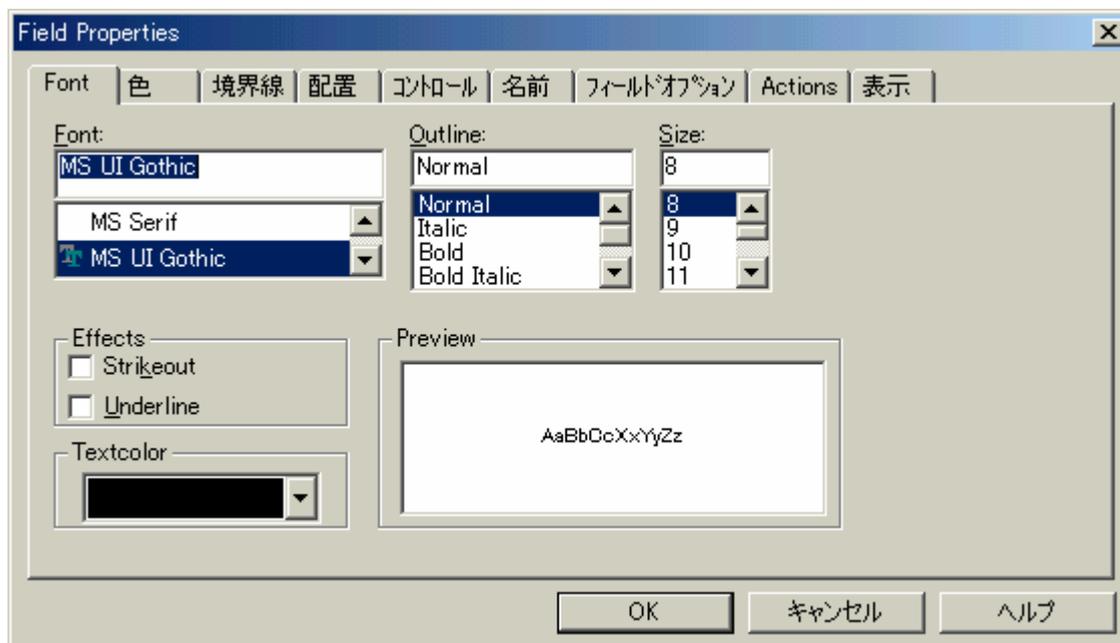


<< プロパティの呼び出し方その3 >>

- ・ 該当の単一フィールドを選択し、[オブジェクト]メニューから呼び出します。

【単一フィールドプロパティ】

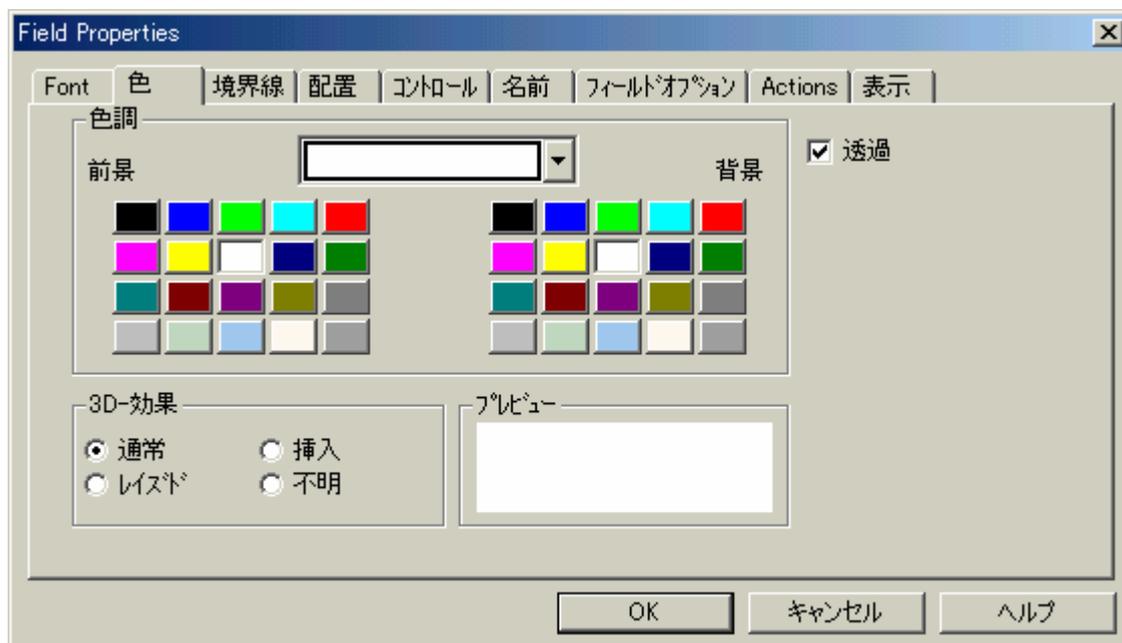
タブシート“Font”



- スプールファイルから転送されてくるデータ（変数）を印字（表示）する際の文字のフォント、サイズなどを設定します。

各項目説明は前述4「レイアウトの作成」の同一タブシートの箇所を参照してください。

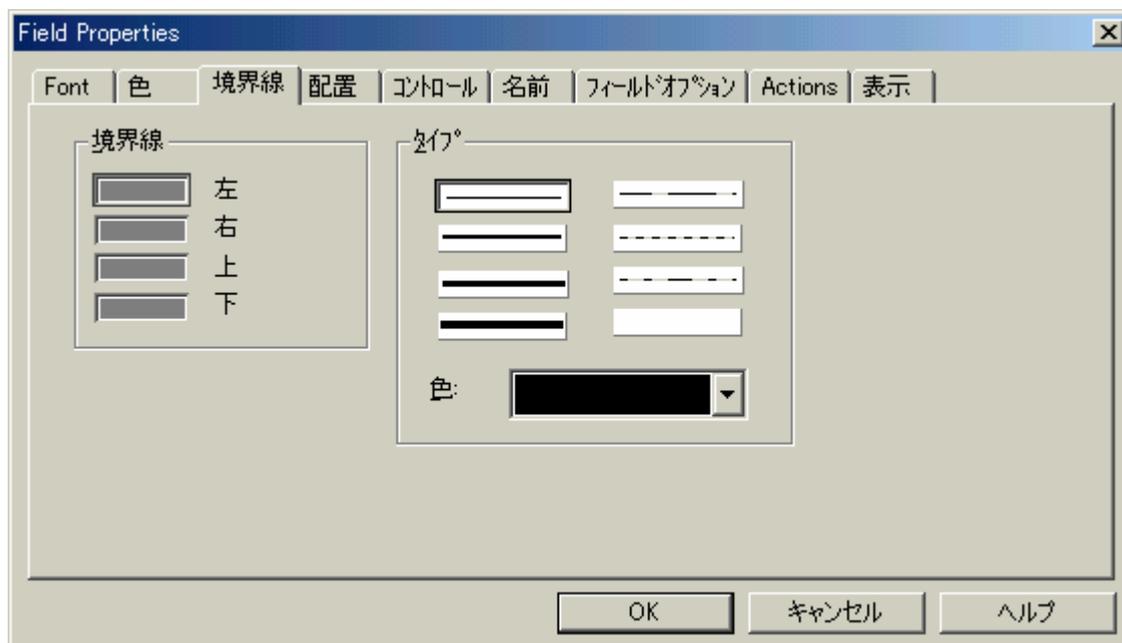
タブシート “色”



- スプールファイルから転送されてくるデータ（変数）を印字（表示）する単一フィールドの前景色（背景色）を設定します。

各項目説明は前述4「レイアウトの作成」の同一タブシートの箇所を参照してください。

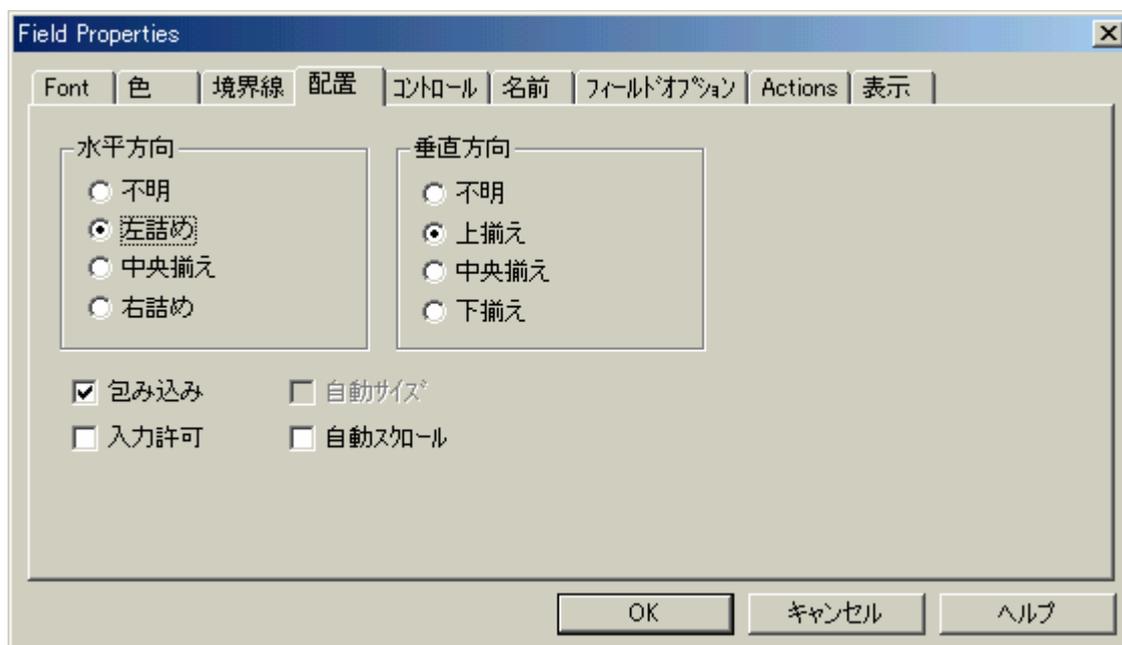
タブシート “境界線”



- スプールファイルから転送されてくるデータ（変数）を印字（表示）する単一フィールドの境界線を設定します。

各項目説明は前述4「レイアウトの作成」の同一タブシートの箇所を参照してください。

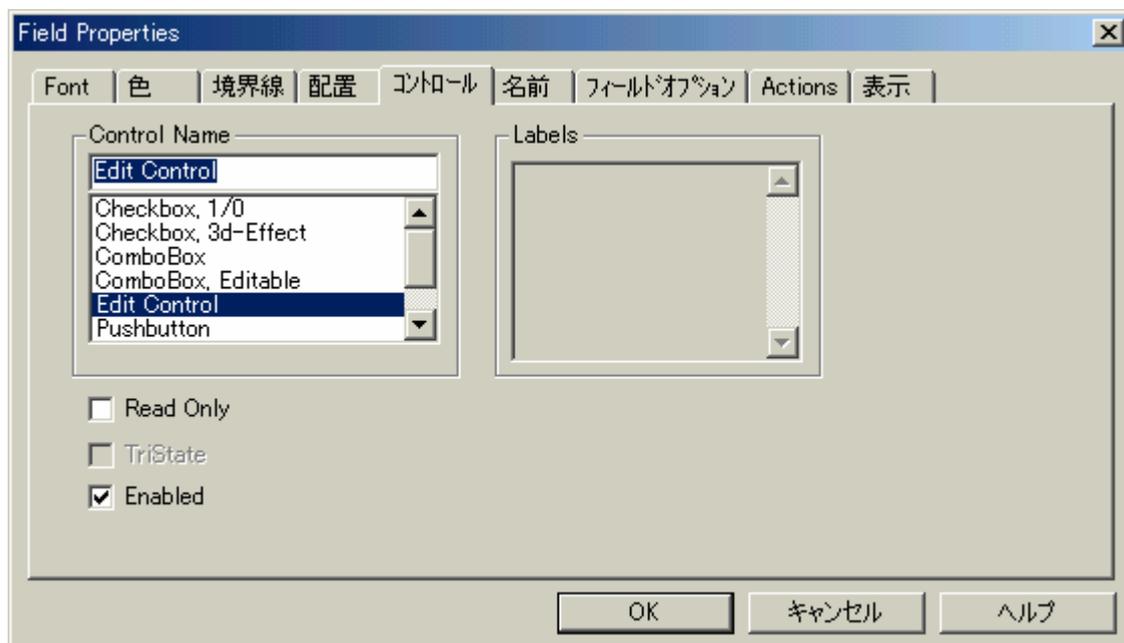
タブシート “ 配置 ”



- スプールファイルから転送されてくるデータ（変数）を印字（表示）するデータを単一フィールド領域にどのように配置するかを設定します。

各項目説明は前述4「レイアウトの作成」の同一タブシートの箇所を参照してください。

タブシート “コントロール”



- 将来機能拡張用です。現時点では機能しません。

タブシート “名前”

Field Properties

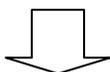
Font | 色 | 境界線 | 配置 | コントロール | 名前 | フィールドオプション | Actions | 表示

フォーム上のフィールド名
現在のフィールド名: F1

フォーム変数オプション
現在の変数名:
使用可能な変数名:
編集

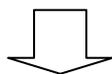
OK キャンセル ヘルプ

- 現在のフィールド名 : デフォルト値はF?と表示されます。
ふさわしい名前を入力します。
ただし、先頭1桁は半角英数字を使用します。
(例: 1(住所) 1(品名)など)
ここで設定する名前は、実際のスプールファイルから転送されてくるデータの受け渡しフィールド(変数)ではありません。実際の受け渡しフィールド(変数)は次ページで定義します。
ここで付ける名前は、デザインシート上のフィールドの名称になります。



フォーム変数オプション
現在の変数名:
使用可能な変数名:
編集

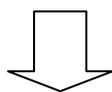
現在のフィールド名にふさわしい名前を入力したら、以下の[編集]ボタンを押します。



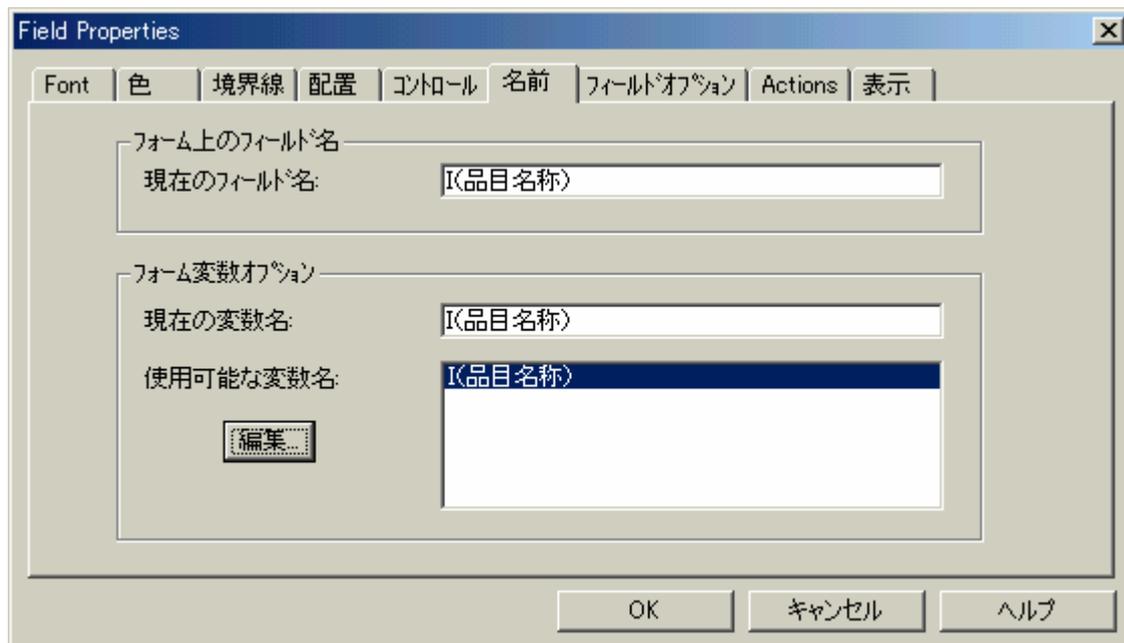
当画面にて、実際のスプールファイルから転送されてくるデータの受け渡しフィールド（変数）が定義（設定）されます。

- New or Selected Variable に上記画面で入力した名前が表示（上記画面では I(品目名称)）され、Variable Names に入力した名前がリストされます。
- Data Length、Repeating variable with maximum はフォームデザイナーが自動設定します。設定値の変更はしないでください。
- Data Types は、ODBC 経由での処理をしない限り、必ず“Text”を設定します。スプールファイルから転送されるデータ値が数値であっても、必ず“Text”となります。
ODBC 経由での処理の場合は、Database Variable を使用します。
Number, Date, Time, Calculation, Summary は将来拡張用機能です。現時点では機能しません。言い換えるならば、日付編集、時刻編集、カンマ編集などはできないということです。各編集はスプールファイルの作成時に編集処理を行なうようにしてください。

- [OK] ボタン ... 入力した名前に間違いがない場合に押します。(設定の確定)
- [Delete] ボタン ... 入力した名前にミスがあり、キャンセルを行う場合に押します。
[OK] ボタンを押して前の処理に戻り再度処理を繰り返します。
- [New] ボタン ... 違う名前で受け渡しフィールドを作成する場合に、新たな受け渡しフィールドを New or Selected Vakiabile に入力し、ボタンを押すと新たな受け渡しフィールドが作成されます。
- [Rename] ボタン ... 既にある受け渡しフィールドの名前を New or Selected Vakiabile に入力した名前に変更します。
- [Option] ボタン ... 後述 6 - 7 「WilComm からの出力イメージの確認」を参照してください。



設定完了後に [OK] を押します。



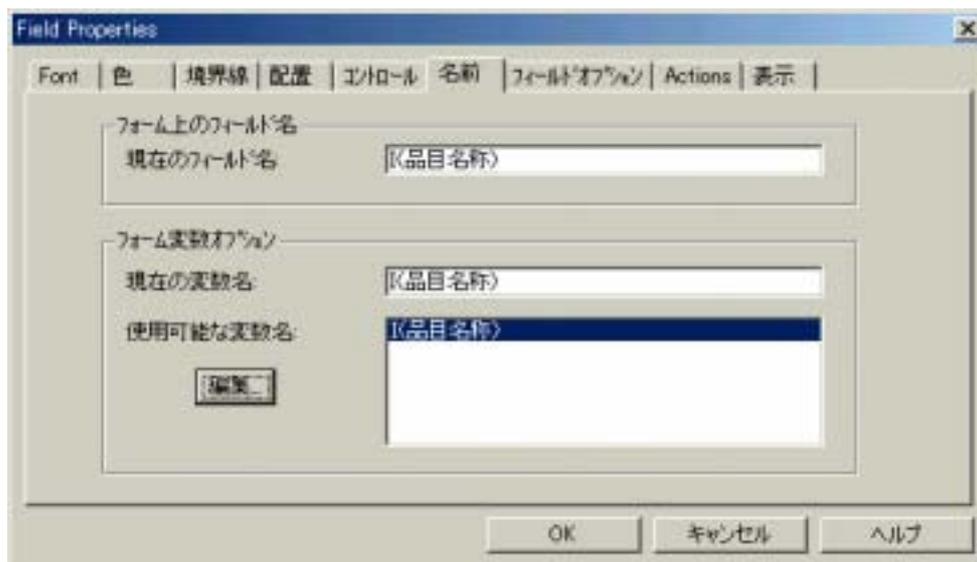
- 現在の変数名 : 前述で設定（登録）した、スプールファイルから転送されてくるデータの受け渡しフィールド（変数）が表示されます。
- 使用可能な変数名 : 前述で設定（登録）した、スプールファイルから転送されてくるデータの受け渡しフィールド（変数）の一覧が表示されます。

現在のフィールド名はフォームデザインシート上のフォームです。前述したスプールファイルから転送されてくるデータの受け渡しフィールドが、必ず現在の変数名に設定（ここにセットされる名前は、使用可能な変数名の一覧に存在すること）されていることを必ず確認してください。

WilComm の処理では、まず受け渡しフィールドにスプールファイルのデータを格納します。次に、この受け渡しフィールドに格納されたデータ値を現在のフィールド名に指定された名前にセットします。このような処理により、印字（表示）が可能となっています。

1つのスプールファイルから転送されてくるデータの受け渡しフィールド（変数）を使用して、この値を複数の箇所に印字（表示）する場合の例

まず、1つ目の現在のフィールド名及びデータの受け渡しフィールド（変数）を作成すると以下のような画面になります。

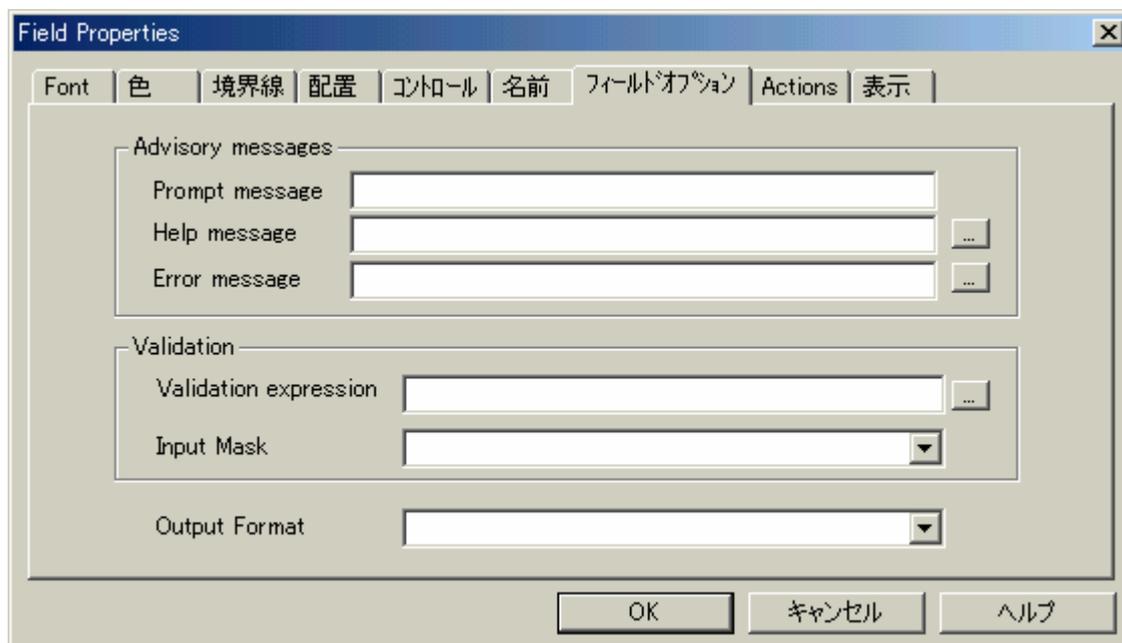


次に、2つ目（複数目）の現在のフィールド名を設定します。下記のように、現在のフィールド名に新しい名前を入力し、データの受け渡しフィールド（変数）を使用可能な変数名から選択し、現在の変数名に設定を行います。



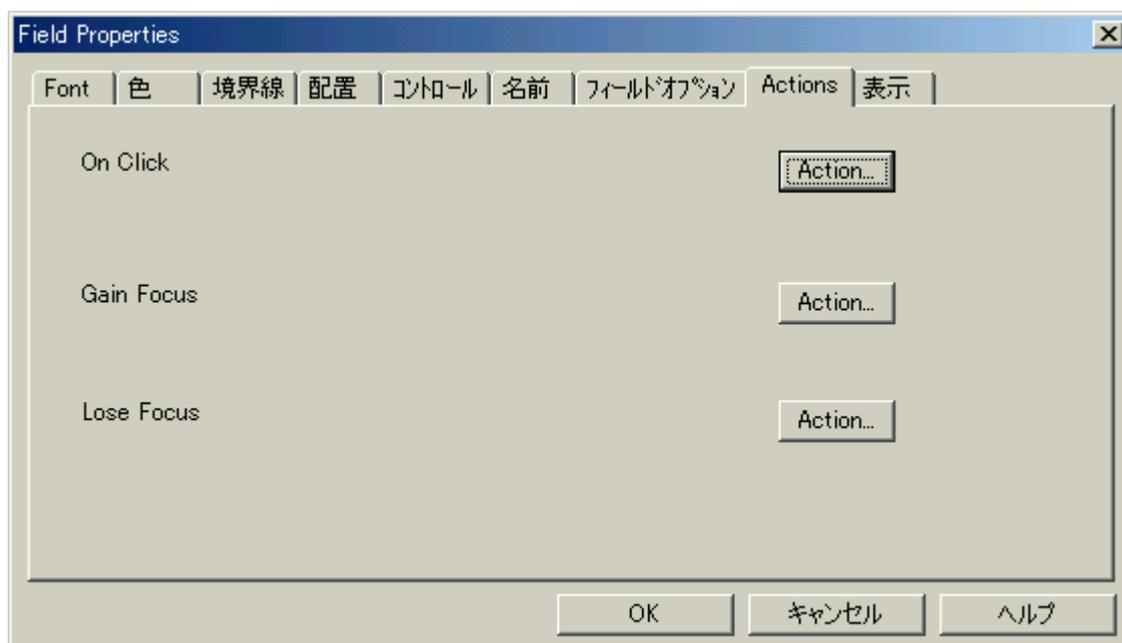
このような指定により、一つのデータの受け渡しフィールド（変数）で、複数の現在のフィールド名に同じ値の設定が可能。

タブシート“フィールドオプション”



- 将来機能拡張用です。現時点では機能しません。

タブシート“Actions”



- ODBC 経由で PC に存在するデータベース（例：Microsoft Access）を設定します。（詳細については、マニュアル「ウィルフォームス Forms Designer Tutorial < 補足説明 > (DES004)」を参照してください。

タブシート “表示”

- スプールファイルから転送されてくるデータ（変数）を印字（表示）するデータを単一フィールド領域の表示位置を設定します。



各項目説明は前述4「レイアウトの作成」の同一タブシートの箇所を参照してください。

単一フィールドの領域幅と文字フォント、サイズでの注意

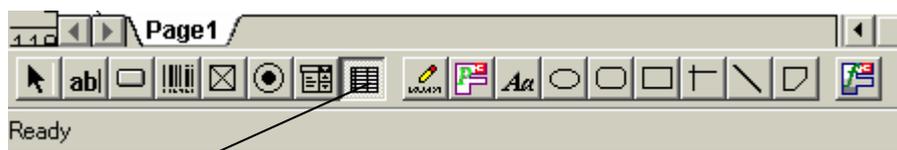
設定 / 配置された単一フィールドに指定された文字フォント、サイズを用いて、単一フィールドにスプールファイルのデータを表示させる場合に、単一フィールドの領域の幅が足りない場合は、予期しない箇所で文字が切れてしまう事や、高さがある場合は予期しない箇所で、折り返しが行われてしまうことがあります。

このため、定義する単一フィールドの領域は大きめに設定する事をお奨めいたします。

実際の表示（印字）され方の確認については、後述 6 - 7 「WilComm からの出力イメージの確認」を参照してください。

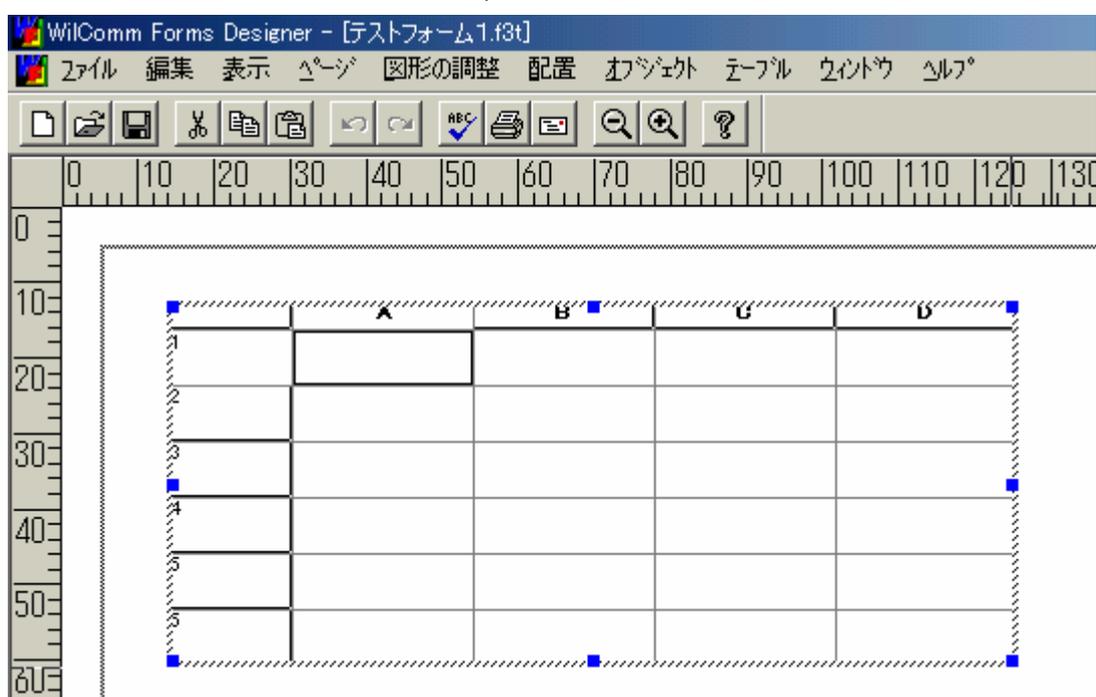
テーブルフィールドの作成

テーブル・アイコンを選択（クリック）し、配置／作成したい箇所にカーソルをあわせ、ドラックすることによりテーブルフィールドの配置／作成を行います。



テーブル・アイコン

選択（クリック）



配置／作成した箇所にカーソルを合わせドラッグ

テーブルフィールドの初期値として、6行4列のテーブルが作成されます。

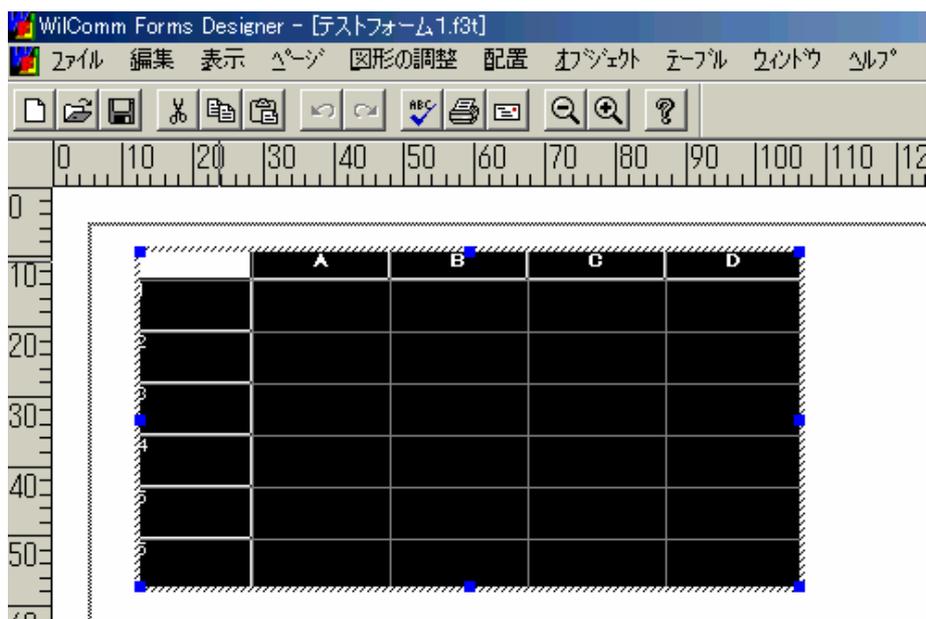
行／列の追加、削除や列幅／行の高さの設定は前述2「フォームデザイナー・メニュー／アイコンの説明」の<テーブル>の箇所を参照してください。

テーブルフィールドのプロパティ

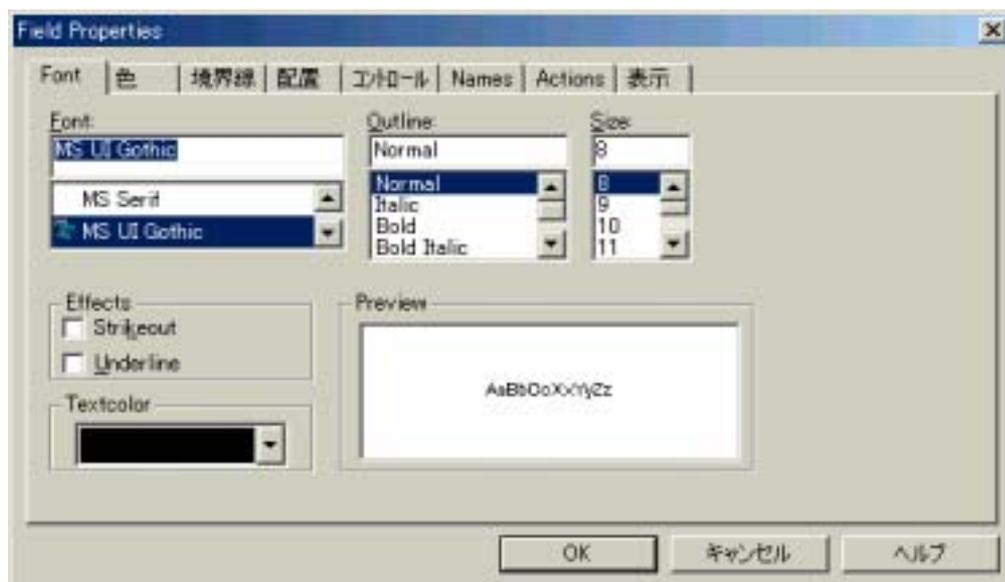
- テーブルフィールドは3つのプロパティを持っています。

Field Propertiesの呼び出し方

- このプロパティではテーブル全体の設定を行うことができます。



- 一番左上のマスをクリックをして、テーブル全体を選択します。
メニュー<オブジェクト>のプロパティを実行します。



タブシート “ Font ”

- 単一フィールドのプロパティのタブシートと同様です。

タブシート “ 色 ”

- 単一フィールドのプロパティのタブシートと同様です。

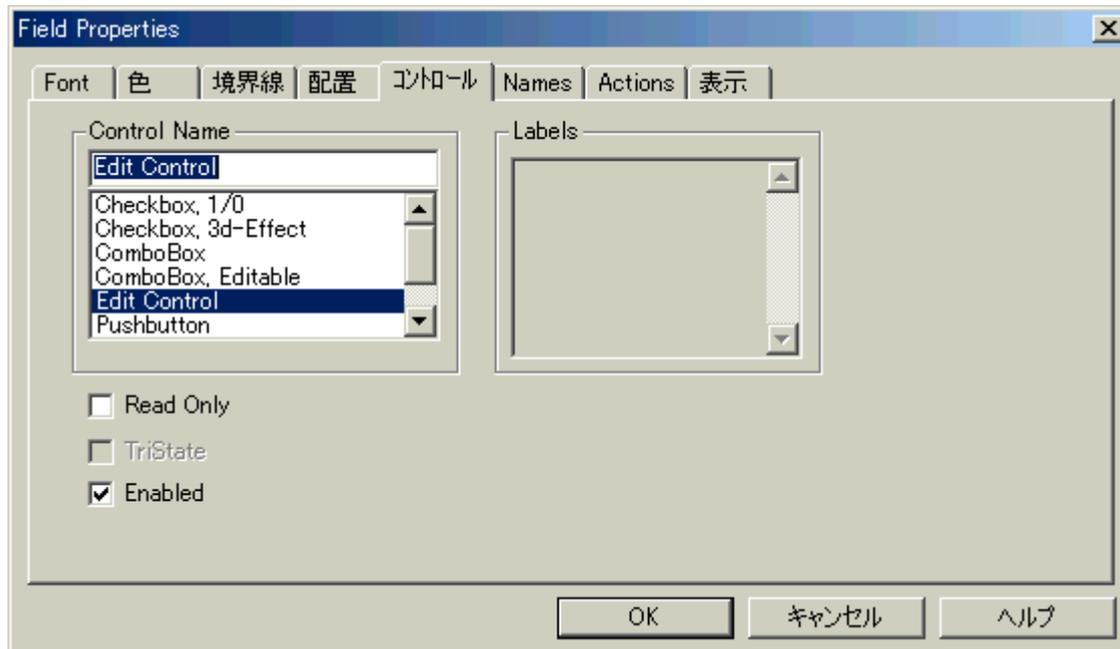
タブシート “ 境界線 ”

- 単一フィールドのプロパティのタブシートと同様です。

タブシート “ 配置 ”

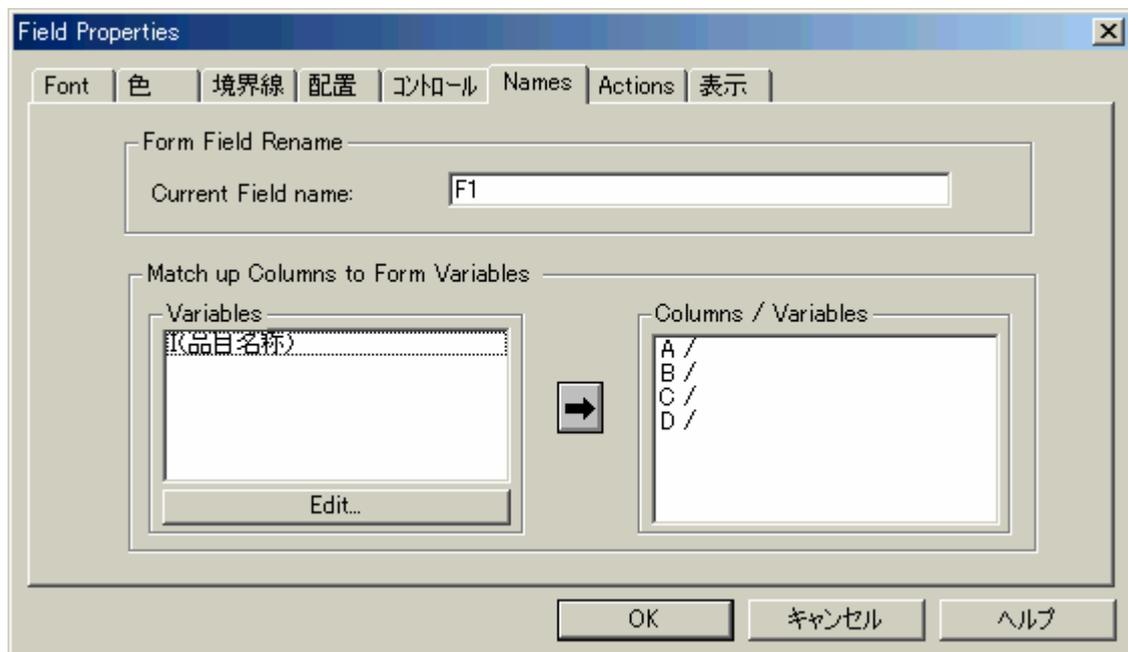
- 単一フィールドのプロパティのタブシートと同様です。

タブシート “ コントロール ”



- 将来機能拡張用です。現時点では機能しません。

タブシート “ Names ”



- 将来機能拡張用です。現時点では機能しません。

タブシート “ Actions ”

- 単一フィールドのプロパティのタブシートと同様です。

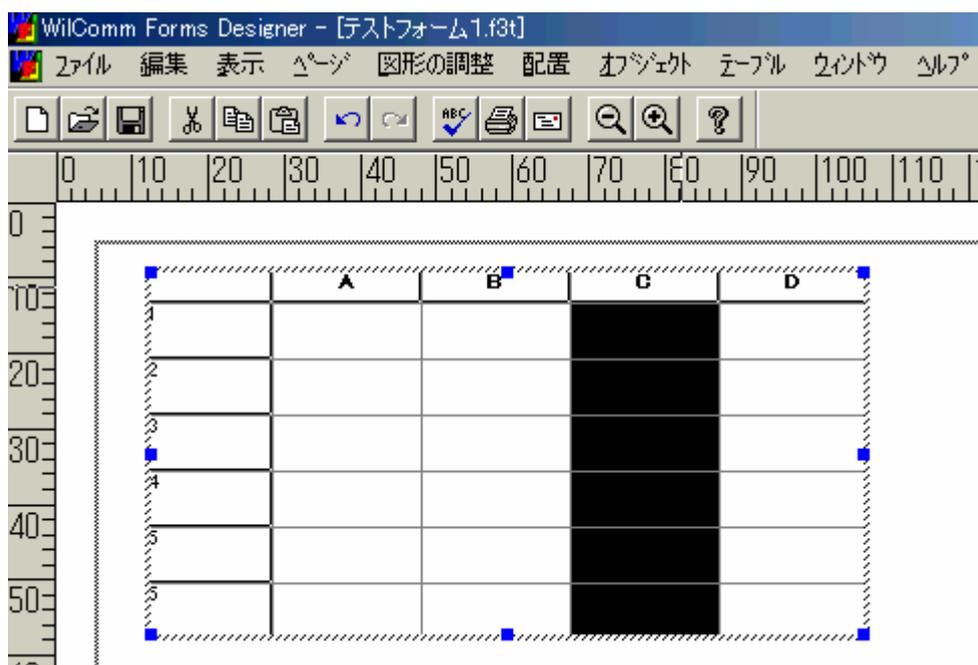
タブシート “ 表示 ”

- 単一フィールドのプロパティのタブシートと同様です。

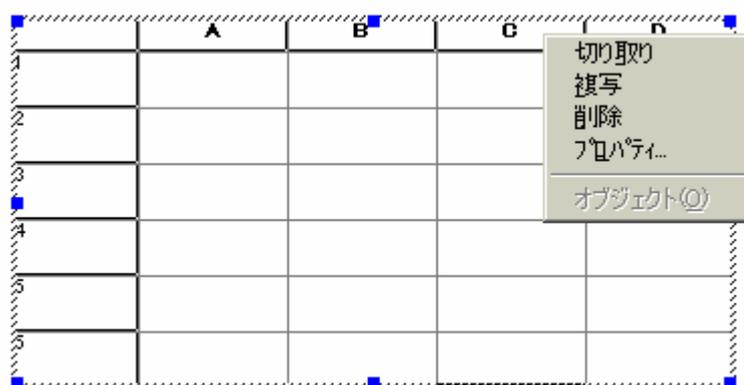
Cell Propertiesの呼び出し方

- このプロトタイプではカーソルの置かれた1つのセル、または列見出し / 行見出しの設定を行うことができます。

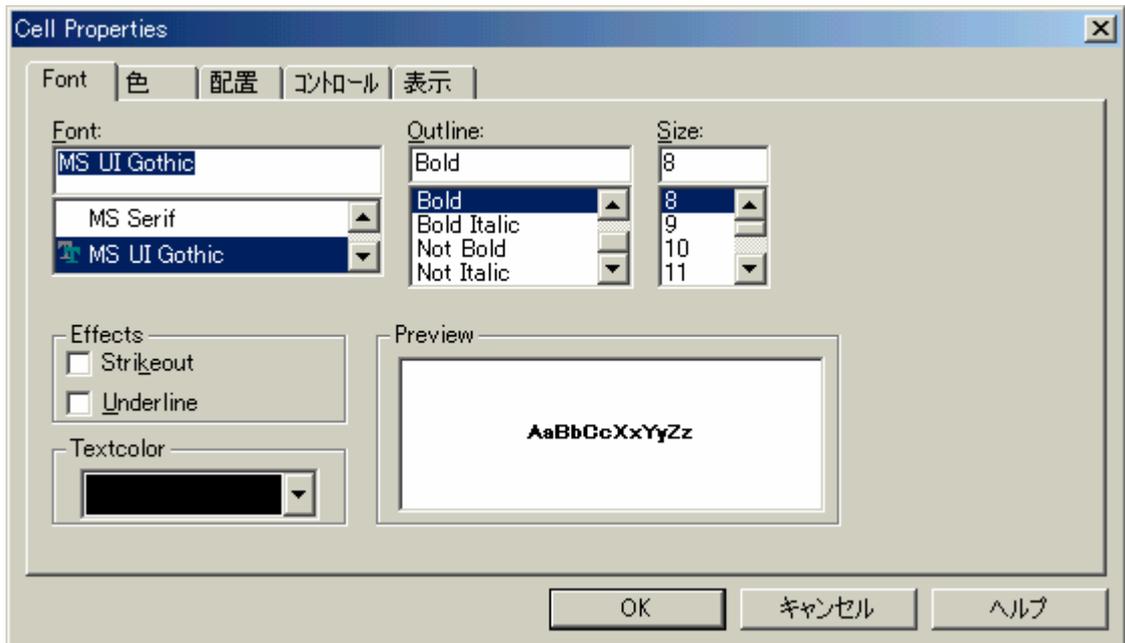
ここで設定するのは、スプールファイルから転送されてくるデータ（変数）に対してではないことに注意してください。



該当の列全体を選択（見出しの箇所をクリック）します。



次にカーソル位置を選択した列の見出しに合わせ、右クリックします。
（この段階で該当列全体は上記画面のような選択状態ではなくなります）
プロパティを実します。



注意：タブシート“境界線”はありません。行見出し、列見出しには境界線をつけることはできません。

タブシート“Font”

- 単一フィールドのプロパティのタブシートと同様です。
- 見出しに対しての設定となります。

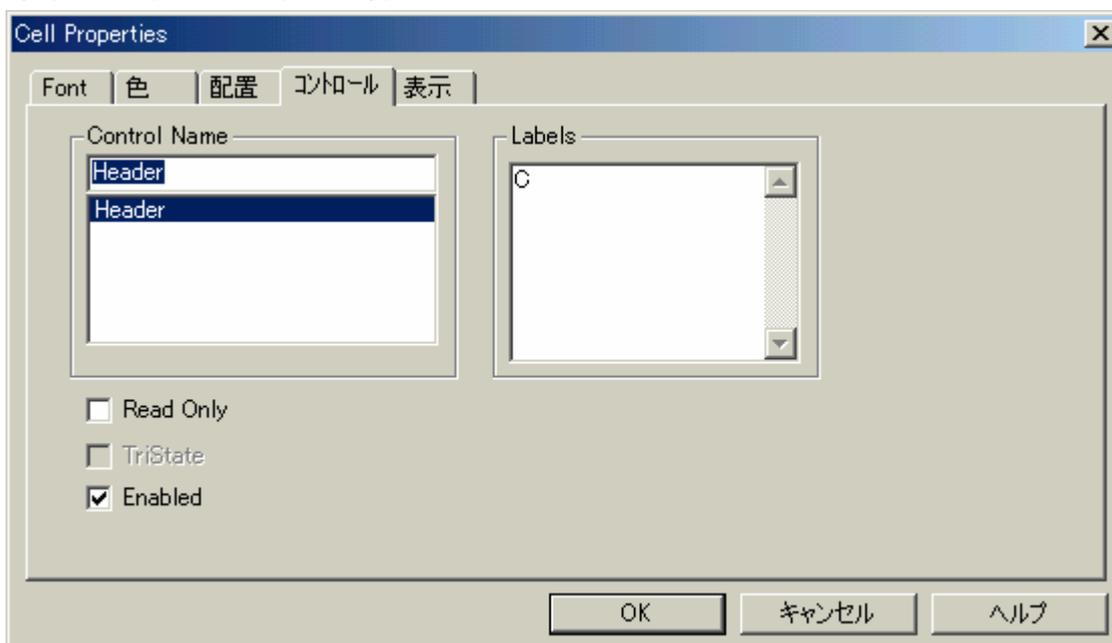
タブシート“色”

- 単一フィールドのプロパティのタブシートと同様です。
- 見出しに対しての設定となります。

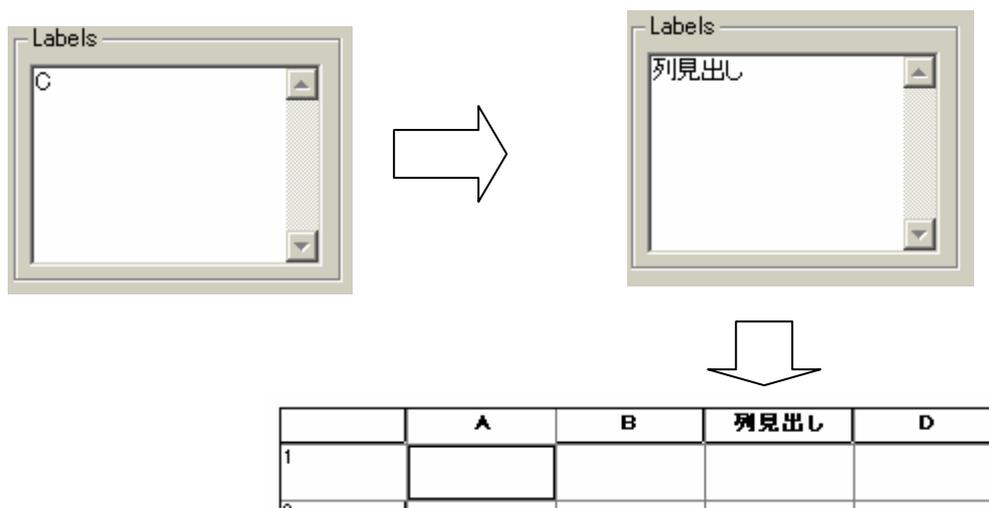
タブシート“配置”

- 単一フィールドのプロパティのタブシートと同様です。
- 見出しに対しての設定となります。

タブシート “コントロール”



- Control Name : “Heder” が表示されます。表示内容は変更しないでください。
- Read Only, Enable : 初期値のまま、変更しないでください。
- Labels : 列見出しが表示されます。この値を変更することにより列見出しを設定します。

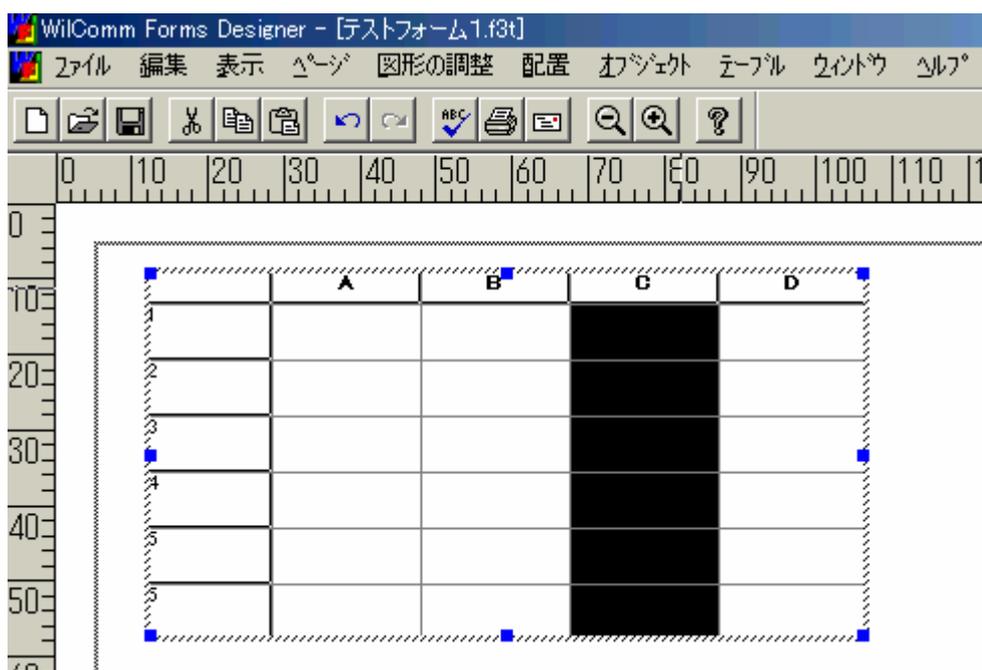


タブシート “表示”

- 単一フィールドのプロパティのタブシートと同様です。

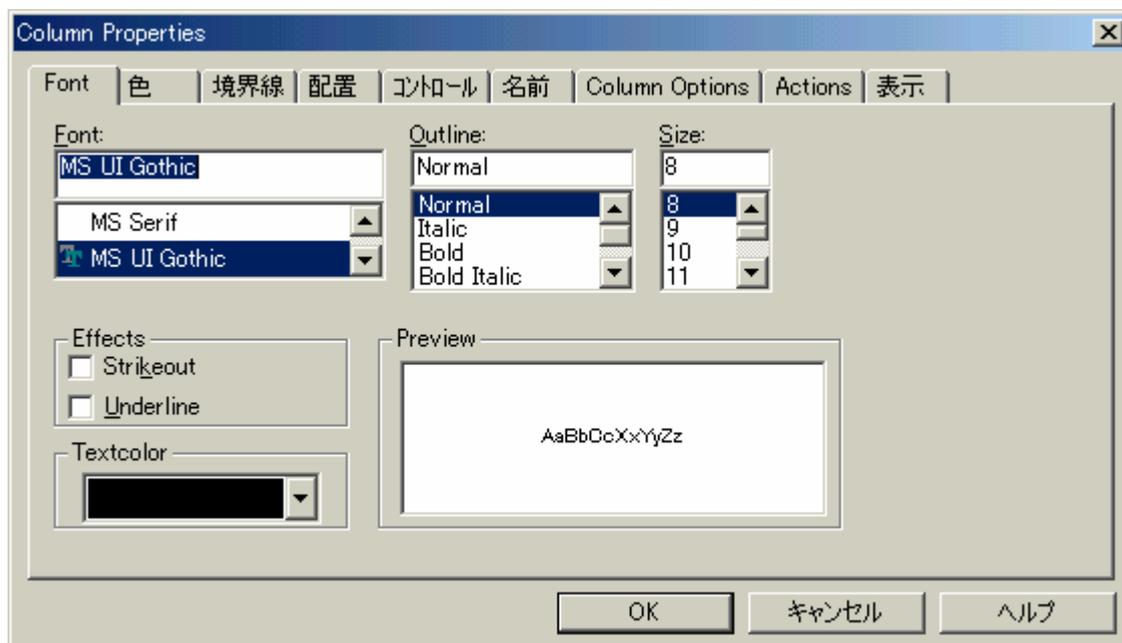
Column Propertiesの呼び出し方

- このプロパティでは選択された1列の設定を行うことができます・
テーブルフィールドも単一フィールドと同様に、スプールファイル
から転送されてくるデータ(変数)を印字(表示)するために、
必ず1列全体としてフィールド名称をつける必要があります。
このフィールド名称も、このプロパティで設定を行います。



該当の列全体を選択(見出しの箇所をクリック)します。

メニュー<オブジェクト>のプロパティを実行します。



タブシート“Font”

- 単一フィールドのプロパティのタブシートと同様です。

タブシート“色”

- 単一フィールドのプロパティのタブシートと同様です。

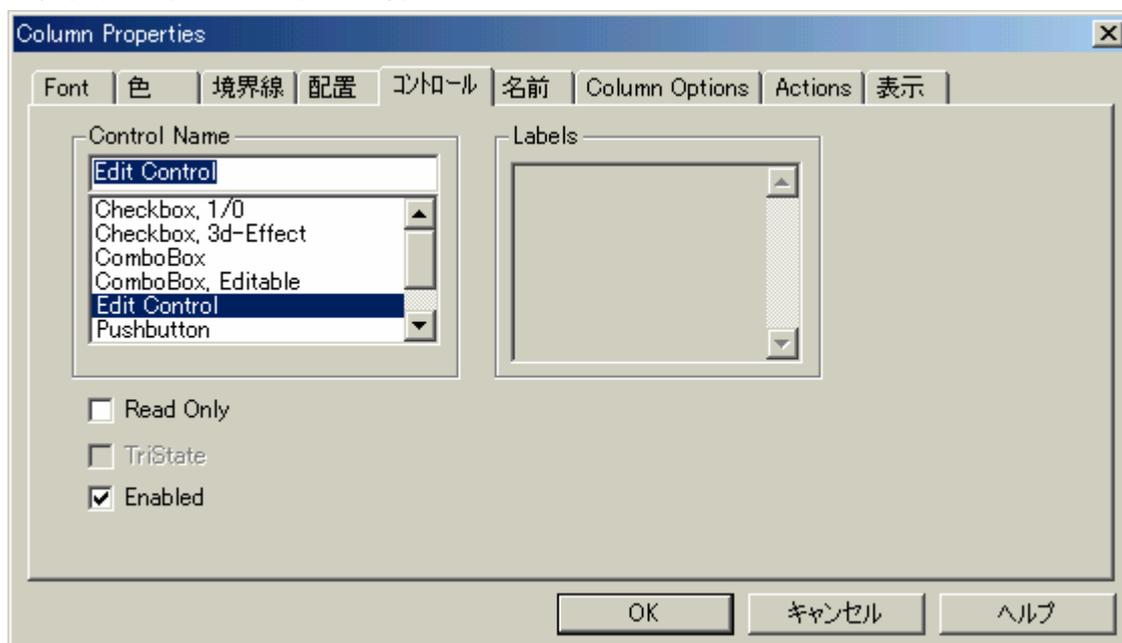
タブシート“境界線”

- 単一フィールドのプロパティのタブシートと同様です。

タブシート“配置”

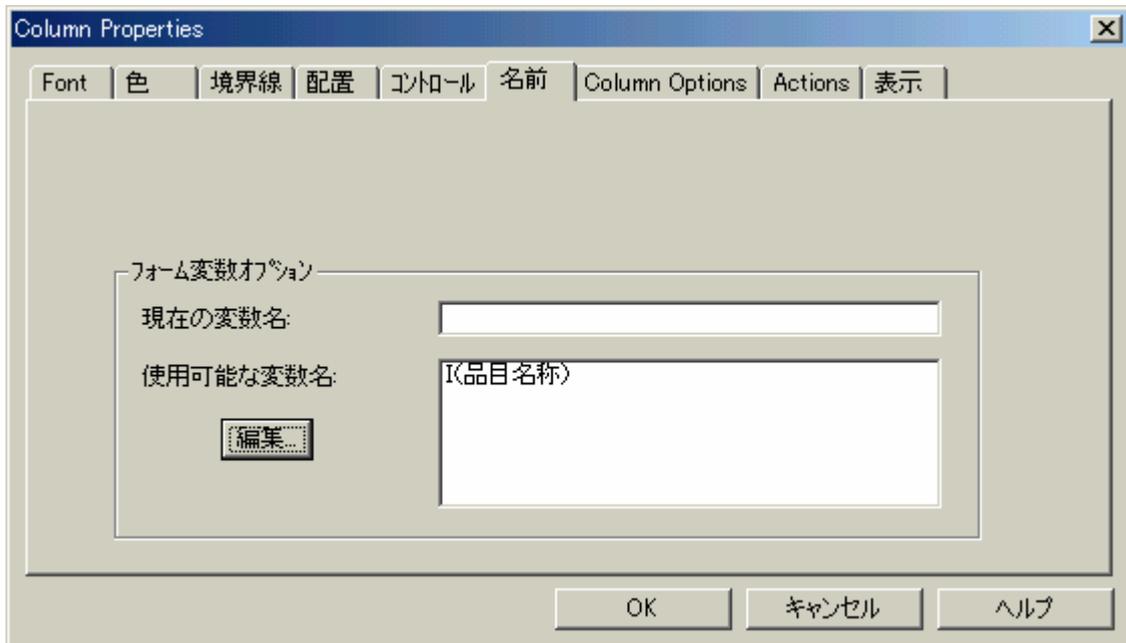
- 単一フィールドのプロパティのタブシートと同様です。

タブシート“コントロール”

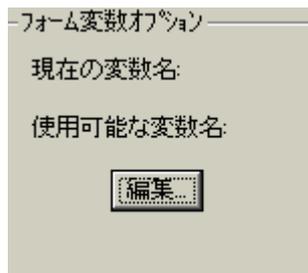
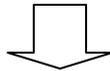


- 将来機能拡張用です。現時点では機能しません。

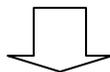
タブシート “名前”



- 現在の変数名 : ふさわしい名前を入力します。
ただし、先頭 1 桁は半角英数字を使用します。
(例：I(商品コード) I(品名) など)



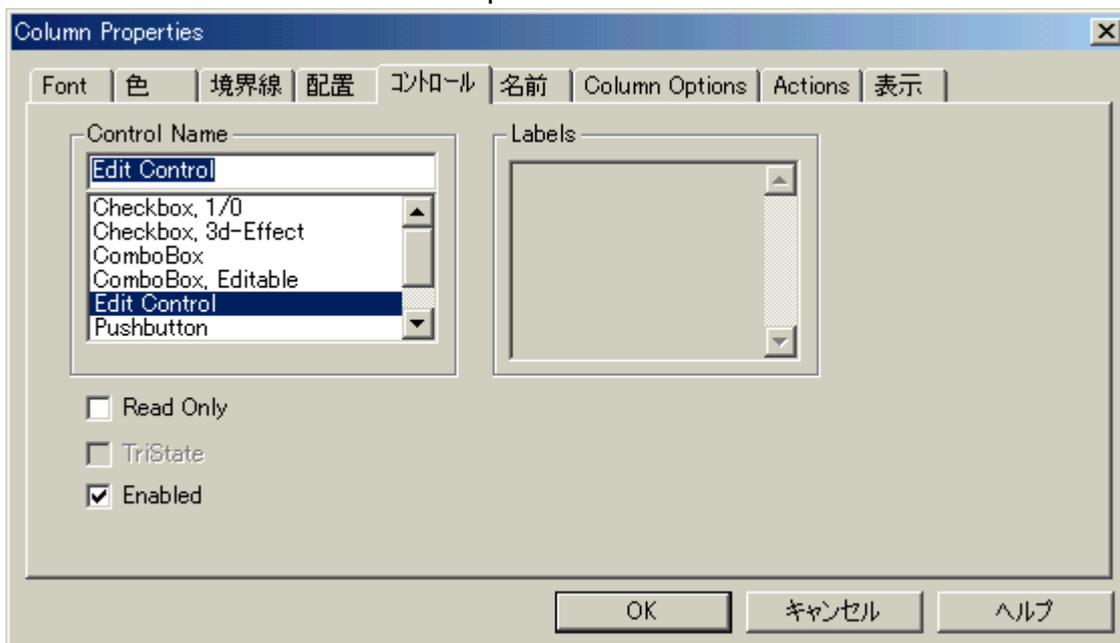
現在の変数名にふさわしい名前を入力したら、以下の [編集] ボタンを押します。



以下の処理は単一フィールドと同様です。

注意：テーブルフィールドは単一フィールドのような、「現在のフィールド名」(フォームデザインシート上の名前)はありません。定義される名前全てが実際のスプールファイルから転送されてくるデータの受け渡しフィールド(変数)になります。

タブシート“Column Options”



- 将来機能拡張用です。現時点では機能しません。

タブシート“Actions”

- 単一フィールドのプロパティのタブシートと同様です。

タブシート“表示”

- 単一フィールドのプロパティのタブシートと同様です。

テーブルフィールドの列幅と文字フォント、サイズでの注意

設定 / 配置されたテーブルフィールドに指定された文字フォント、サイズを用いて、テーブルフィールドにスプールファイルのデータを表示させる場合に、テーブルフィールドの列の幅が足りない場合は、予期しない箇所で文字が切れてしまう事や、列の高さがある場合は予期しない箇所で、折り返しが行われてしまうことがあります。このため、定義するテーブルフィールドの列幅は大きめに設定する事をお奨めいたします。

実際の表示（印字）され方の確認については、後述 6 - 7 「WilComm からの出力イメージの確認」を参照してください。

6 . フォーム作成テクニック集

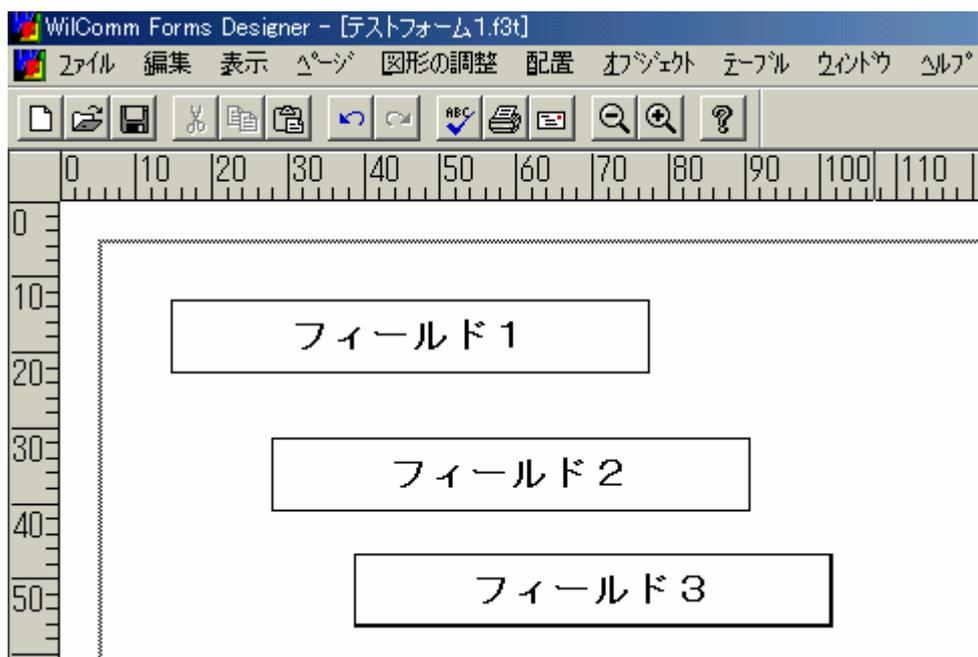
フォームデザイナーを使用してフォーム（専用帳票）を作成するときの注意点や便利機能を説明します。

6 - 1 . 複数オブジェクトの配置 / サイズの均等

選択された複数のレイアウト作成で作成された各種オブジェクト（図やテキスト）や、フィールド作成で作成された単一フィールド（テーブルフィールドは除く）を自動で、配置位置、幅、高さを均等にする機能です。

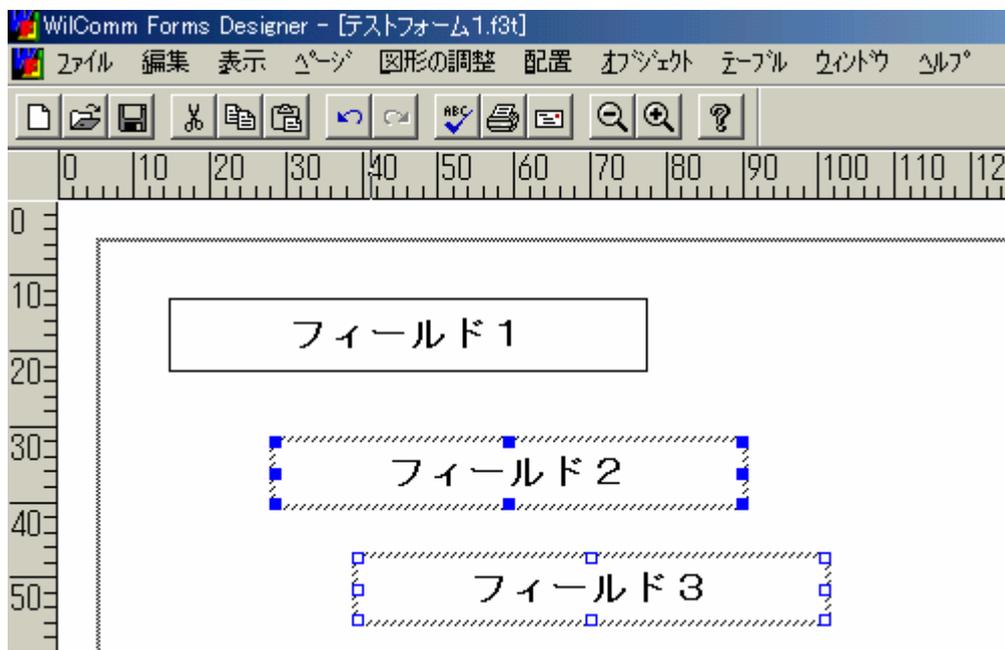
【配置位置を揃える】

例：左端を揃える場合（揃え方の種類は前述2「フォームデザイナー・メニュー / アイコンの説明」のメニュー：<配置>のAlignを参照してください。）

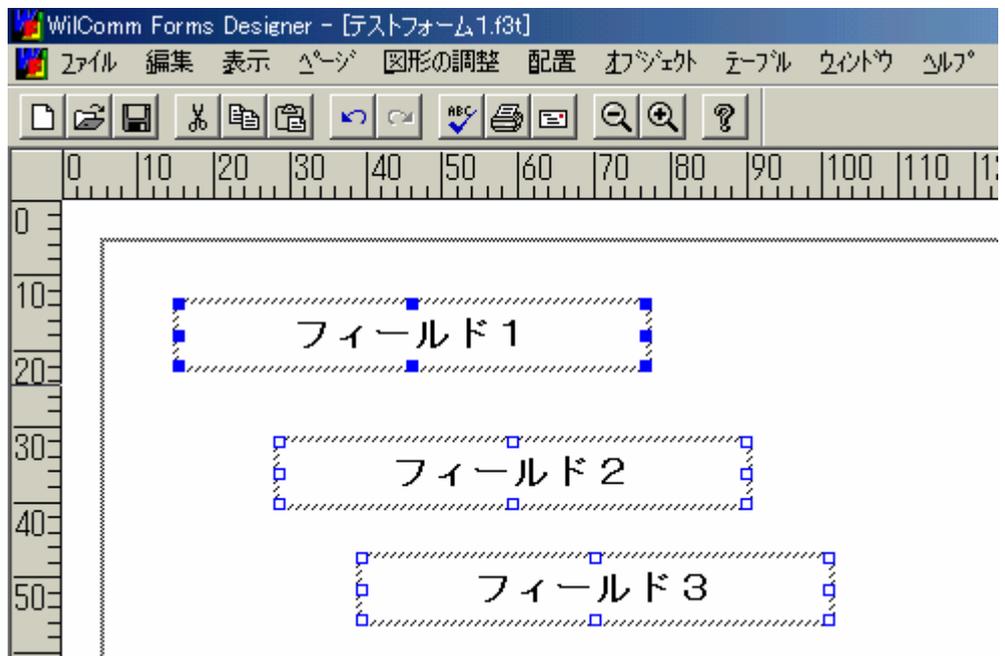


上記のようなフィールドの配置位置をフィールド1にあわせます。

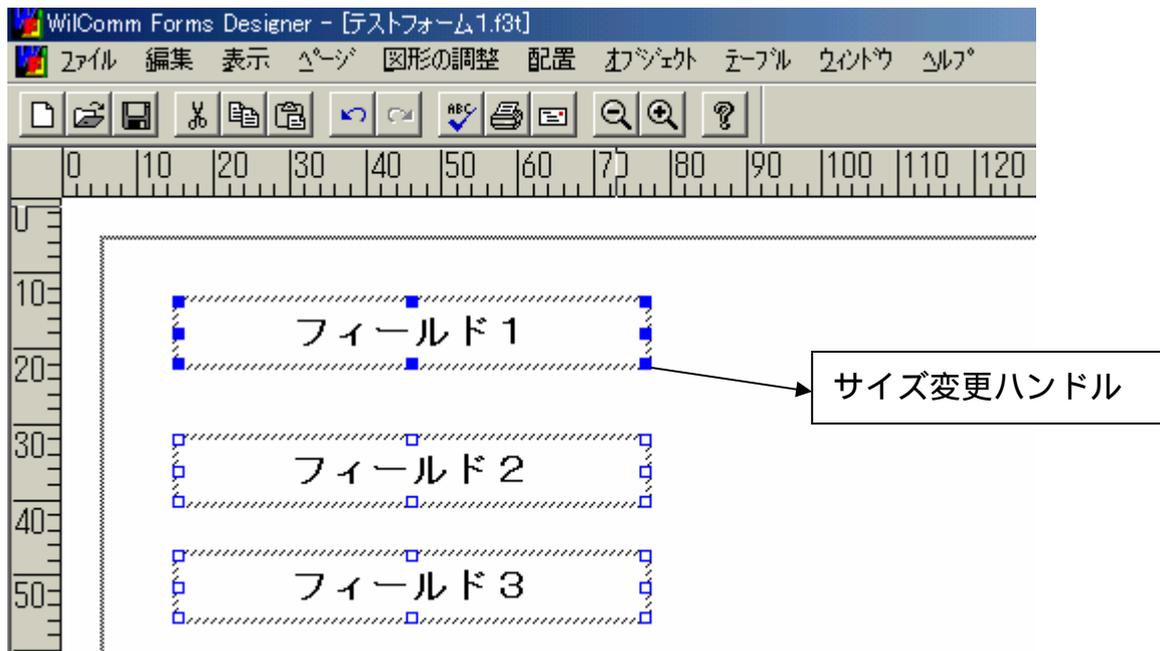
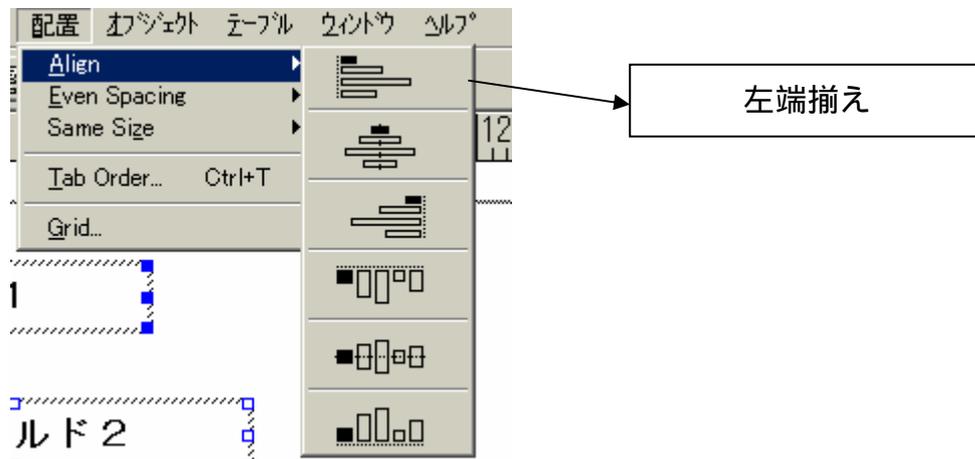
フィールド3、フィールド2を、シフトキーを押しながら、選択（クリック）します。



最後に、配置位置の基準となるフィールド（例ではフィールド1）を、シフトキーを押しながら選択（クリック）します。



メニュー<配置>のAlignの左端を実行します。

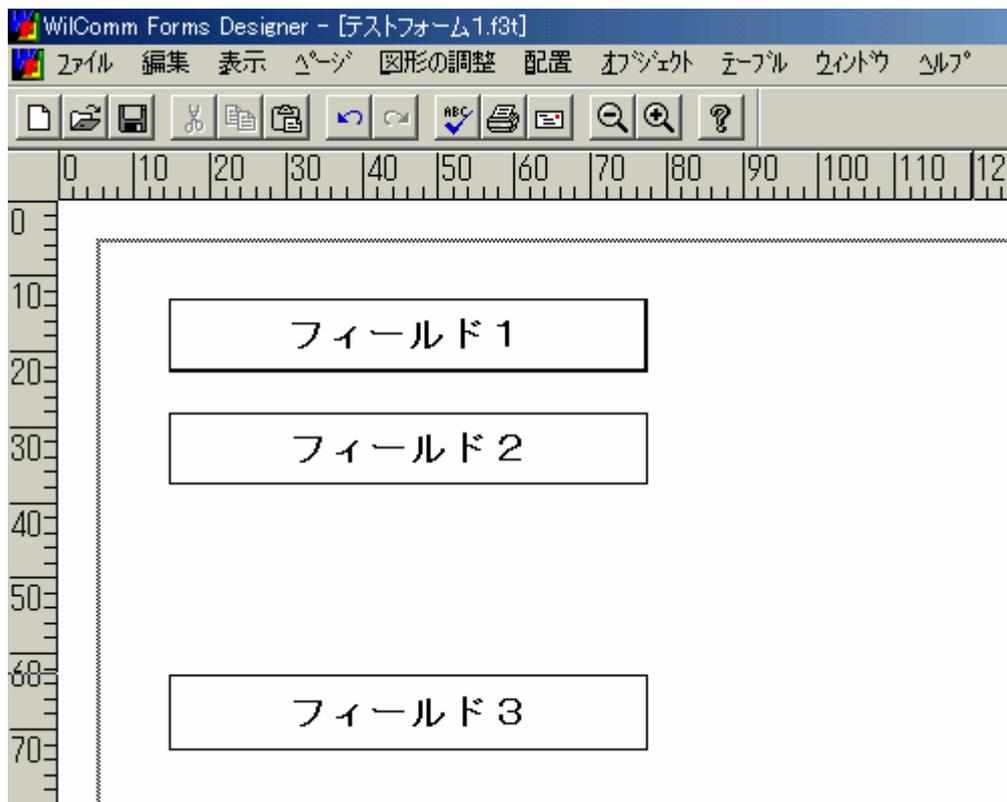


フィールド 1 を基準に左端に揃えられます。

必ず基準となるオブジェクト（例ではフィールド 1）は、一番最後に選択（クリック）されたもの（サイズ変更ハンドルが青のもの）となります。これは、どの配置位置を使用しても同じです。

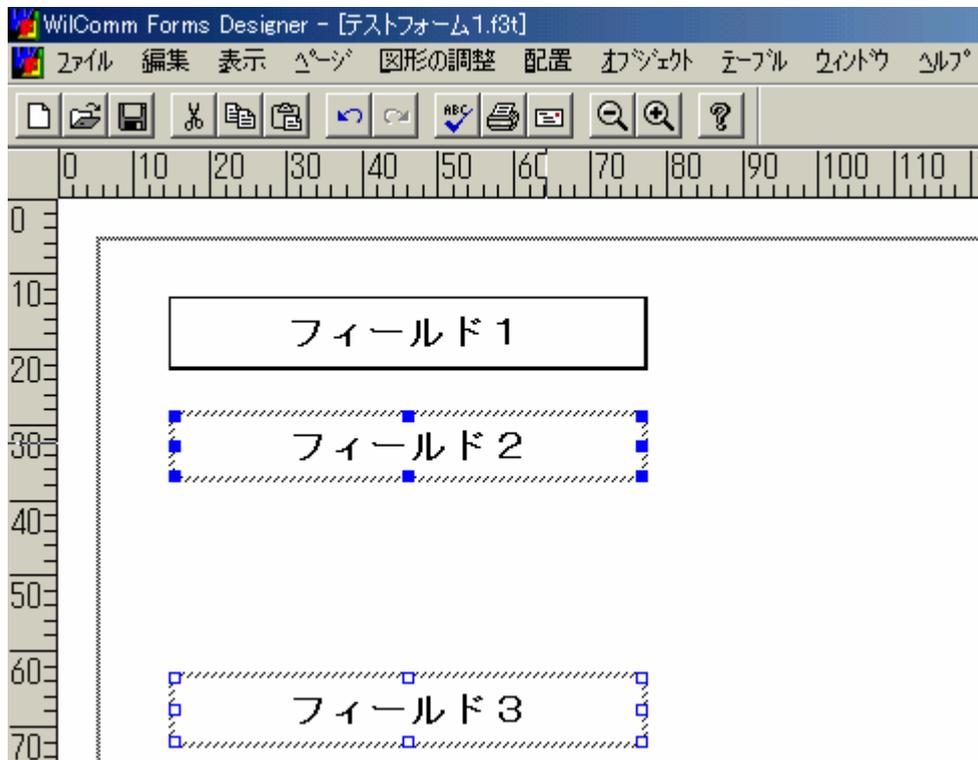
【配置間隔の均等】

例：縦に並んだフィールドの間隔を等間隔に揃える場合（揃え方の種類は前述2「フォームデザイナー・メニュー/アイコンの説明」のメニュー：<配置>のAlignを参照してください。）

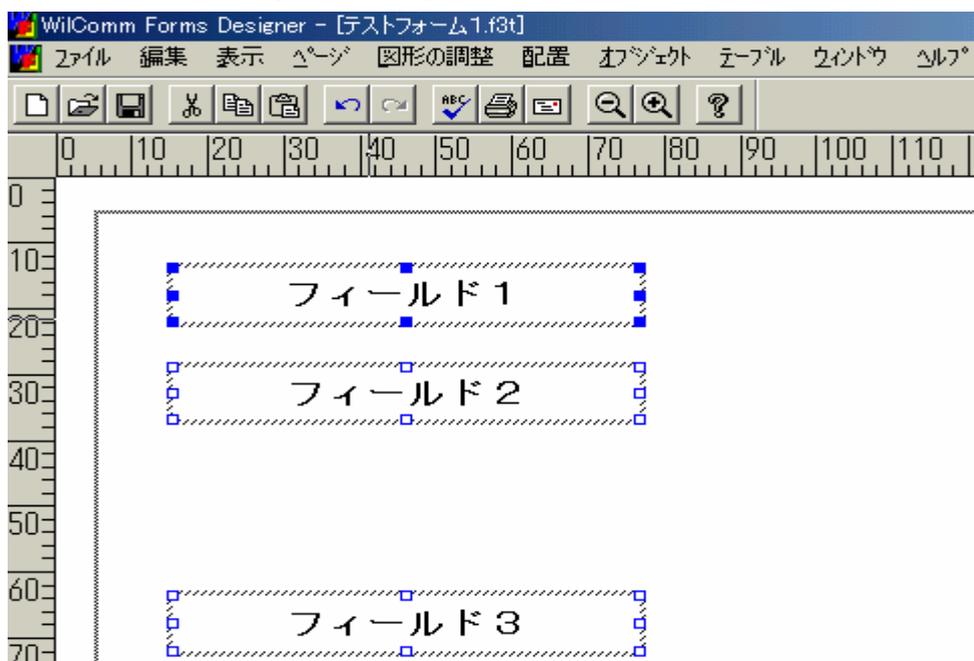


上記のようなフィールドの配置位置の間隔を等間隔にします。

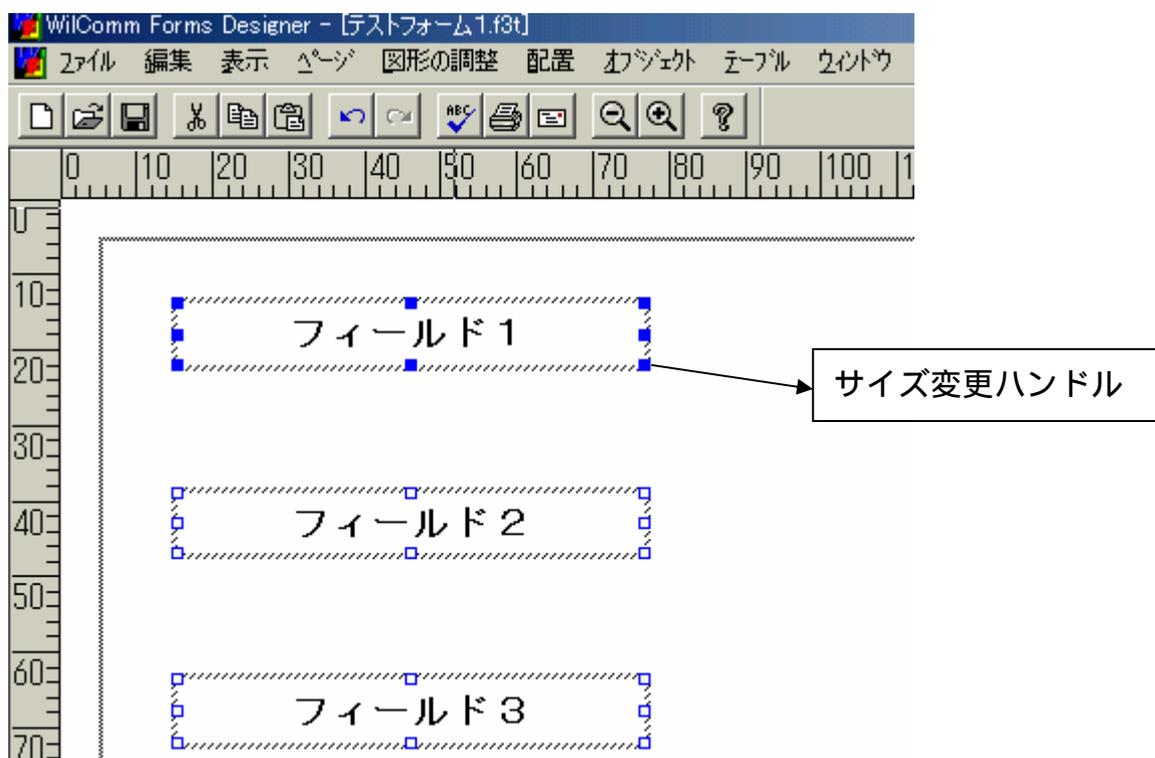
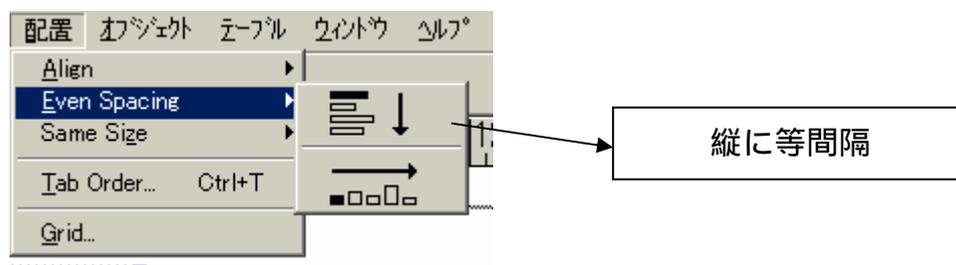
フィールド3、フィールド2を、シフトキーを押しながら、選択（クリック）します。



最後に、配置位置の基準となるフィールド（例ではフィールド1）を、シフトキーを押しながら選択（クリック）します。



メニュー<配置>のEven Spacingの縦に等間隔を実行します。

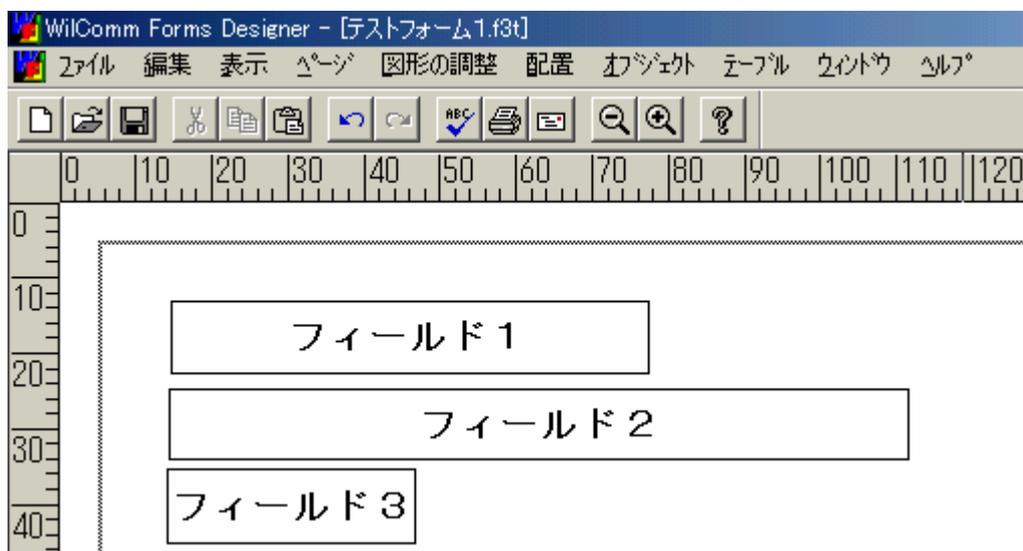


フィールド1、フィールド2、フィールド3が縦に等間隔に揃えられます。

必ず基準となるオブジェクト（例ではフィールド1）は、一番最後に選択（クリック）されたもの（サイズ変更ハンドルが青のもの）となります。これは、どの配置位置を使用しても同じです。

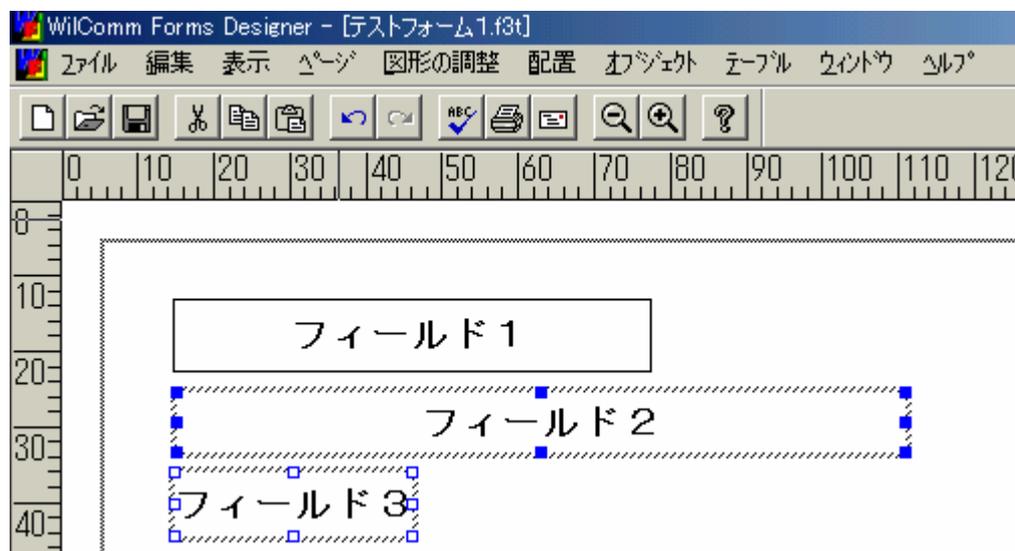
【サイズの均等】

例：横幅を揃える場合（揃え方の種類は前述2「フォームデザイナー・メニュー/アイコンの説明」のメニュー：<配置>のAlignを参照してください。）

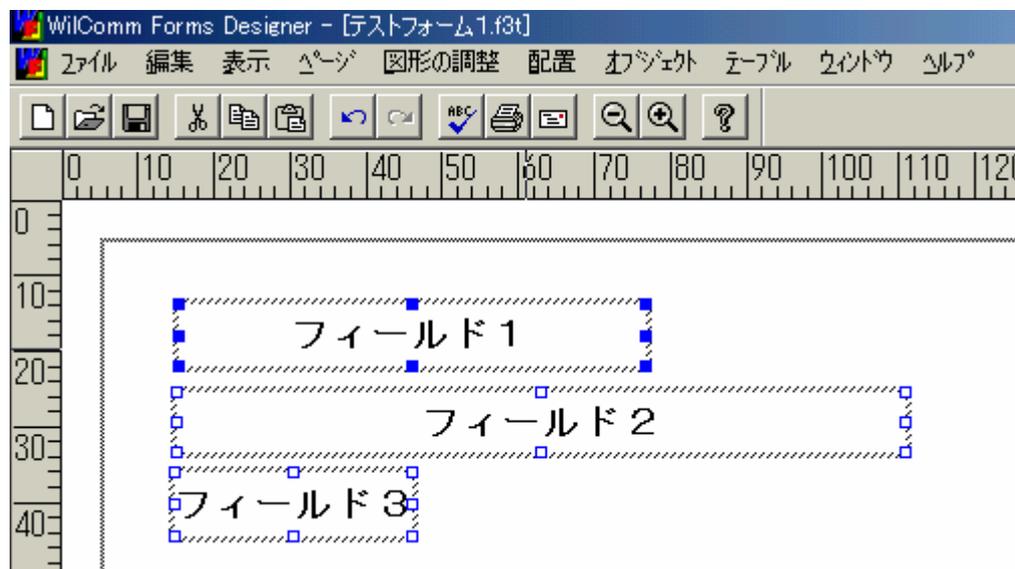


上記のようなフィールドの横幅をフィールド1にあわせます。

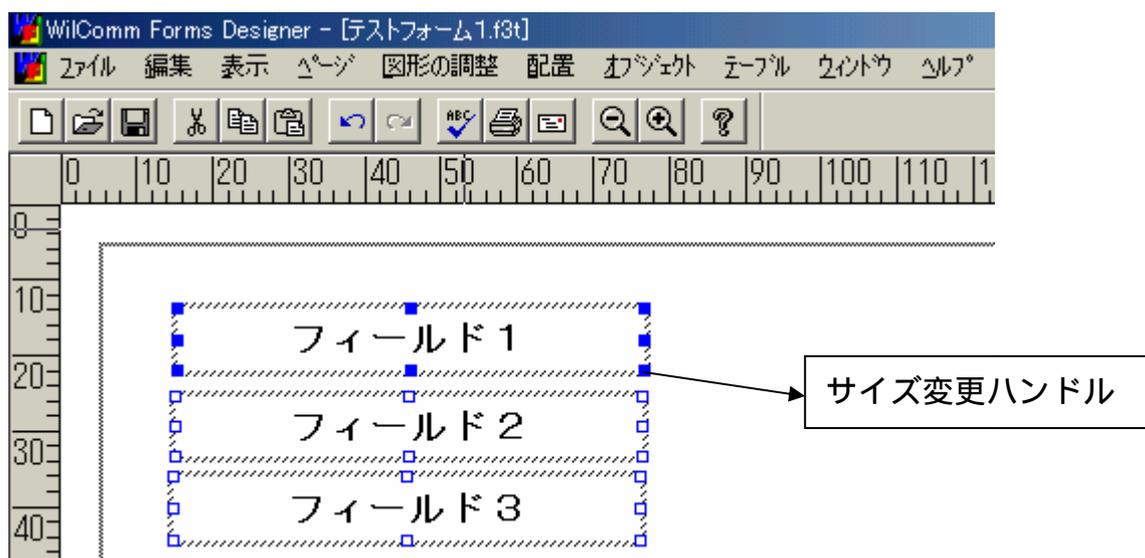
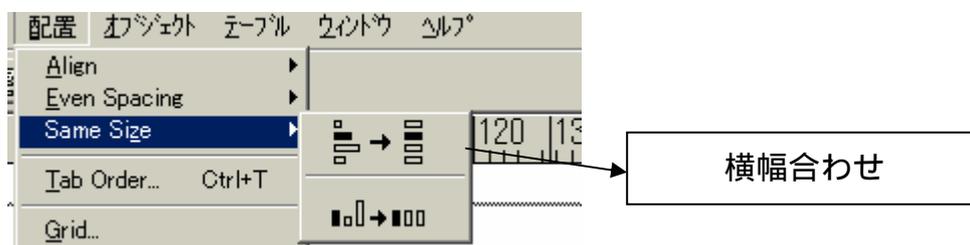
フィールド3、フィールド2を、シフトキーを押しながら、選択（クリック）します。



最後に、配置位置の基準となるフィールド（例ではフィールド1）を、シフトキーを押しながら選択（クリック）します。



メニュー<配置>のSame Sizeの横幅合わせを実行します。



フィールド1を基準に横幅が揃えられます。

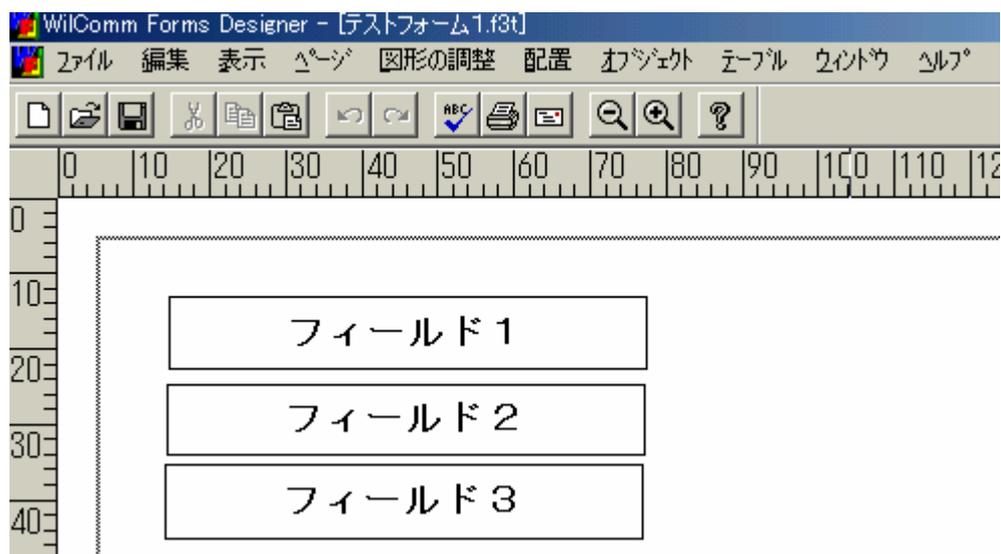
必ず基準となるオブジェクト（例ではフィールド1）は、一番最後に選択（クリック）されたもの（サイズ変更ハンドルが青のもの）となります。これは、横幅合わせ、高さ合わせを使用しても同じです。

6 - 2 . オブジェクトの固定 (ロック)

何らかの操作ミスにより、正確に配置したオブジェクト位置を変えてしまう事が、フォームデザイン中におこる事があります。

このミスによる配置位置の変更を防止するために、フォームデザイナーではオブジェクトを固定 (ロック) することができます。

【オブジェクトの固定 (ロック)】

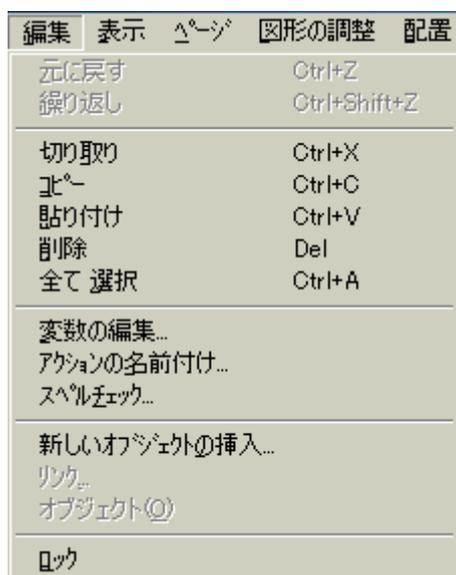


上記のように配置済みのフィールド1、フィールド2、フィールド3を固定 (ロック) します。

シフトキーを押しながら、フィールド3、フィールド2、フィールド1を選択（クリック）します。



メニュー<編集>のロックを実行します。



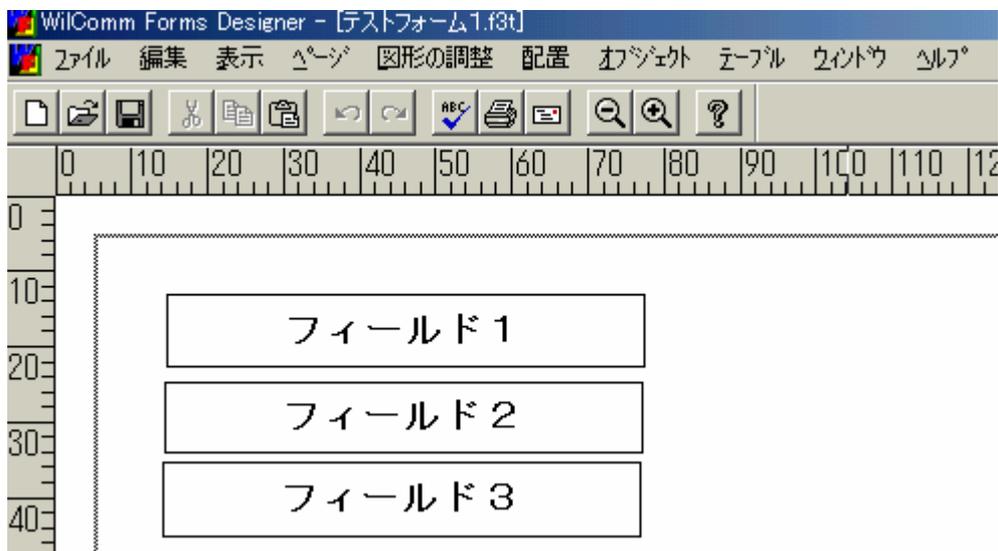


フィールド 1 ~ 3 がロックされます。違う箇所を選択し、フィールド 1 ~ 3 の選択を解除します。



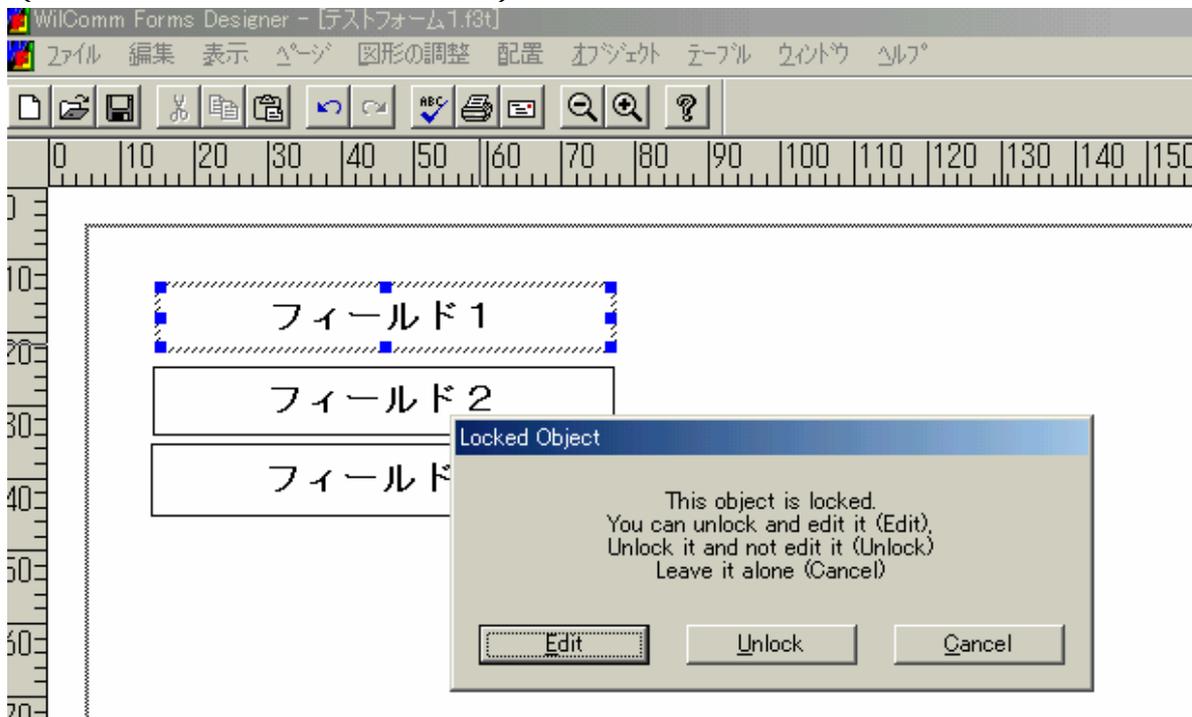
ロックされたフィールド 1 ~ 3 は選択 (クリック) しても、選択ができないようになります。(ロック状態)

【オブジェクトの固定解除（ロック解除）】



上記のように既に固定（ロック）されているオブジェクトの固定解除（ロック解除）を行います。

固定解除（ロック解除）を行う、該当オブジェクトをダブルクリックします。
（フィールド 1 をダブルクリック）



固定解除（ロック解除）の確認画面が表示されます。



- [E d i t] ボタン : 固定解除 (ロック解除) を行い、プロパティが表示されます。
- [U n l o c k] ボタン : 固定解除 (ロック解除) されます。
- [C a n c e l] ボタン : 固定解除 (ロック解除) 要求をキャンセルします。

注意：固定 (ロック) は複数のオブジェクトを同時に固定 (ロック) する事が可能ですが、固定解除 (ロック解除) は1つのオブジェクトずつの固定解除 (ロック解除) となります。(複数オブジェクトの一括ロック解除はできません)

6 - 3 . 単一フィールドのコピー

単一フィールド（詳細は前述5「フィールドの作成」を参照）をコピーして、同じ文字フォント/サイズ、配置で設定されるフィールドを作成する事ができます。

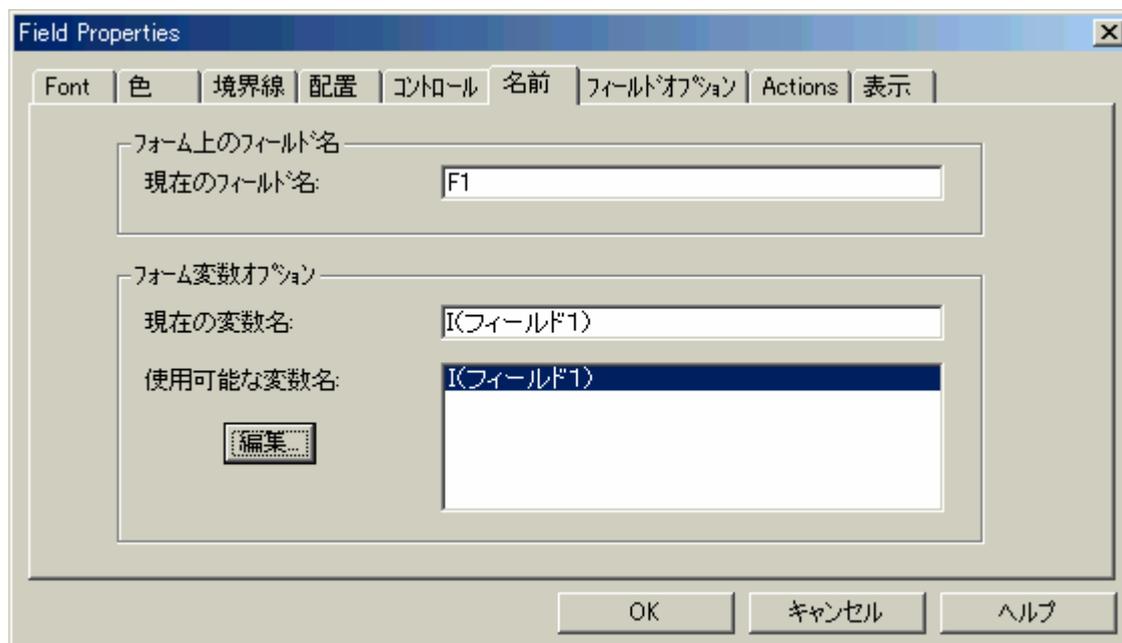
単一フィールドの現在のフォーム名と現在の変数名（スプールファイルから転送されてくるデータの受け渡しフィールド（変数））の設定（登録）を必ず行ってください。（テーブルフィールドも同様です）

単一フィールドをコピーした場合は、以下の手順に従い、現在のフォーム名と現在の変数名を設定（登録）してください。

The screenshot shows the 'Field Properties' dialog box with the '名前' (Name) tab selected. The 'フォーム上のフィールド名' (Form Field Name) section shows '現在のフィールド名' (Current Field Name) as 'I(フィールド1)'. The 'フォーム変数オプション' (Form Variable Options) section shows '現在の変数名' (Current Variable Name) as 'I(フィールド1)' and a list of '使用可能な変数名' (Available Variable Names) containing 'I(フィールド1)'. An '編集...' (Edit...) button is located below the list. The dialog has tabs for Font, 色 (Color), 境界線 (Border), 配置 (Layout), コントロール (Control), 名前 (Name), フィールドオプション (Field Options), Actions, and 表示 (Display). Buttons for OK, キャンセル (Cancel), and ヘルプ (Help) are at the bottom.

上記のような単一フィールドをコピーします。

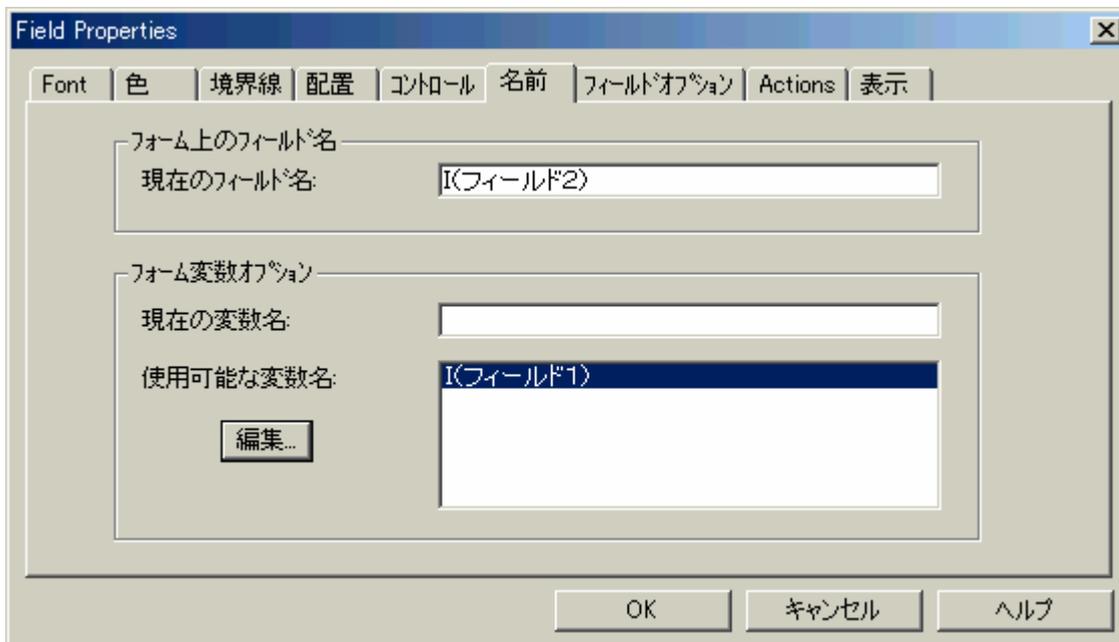
コピーされたフィールドのプロパティです。



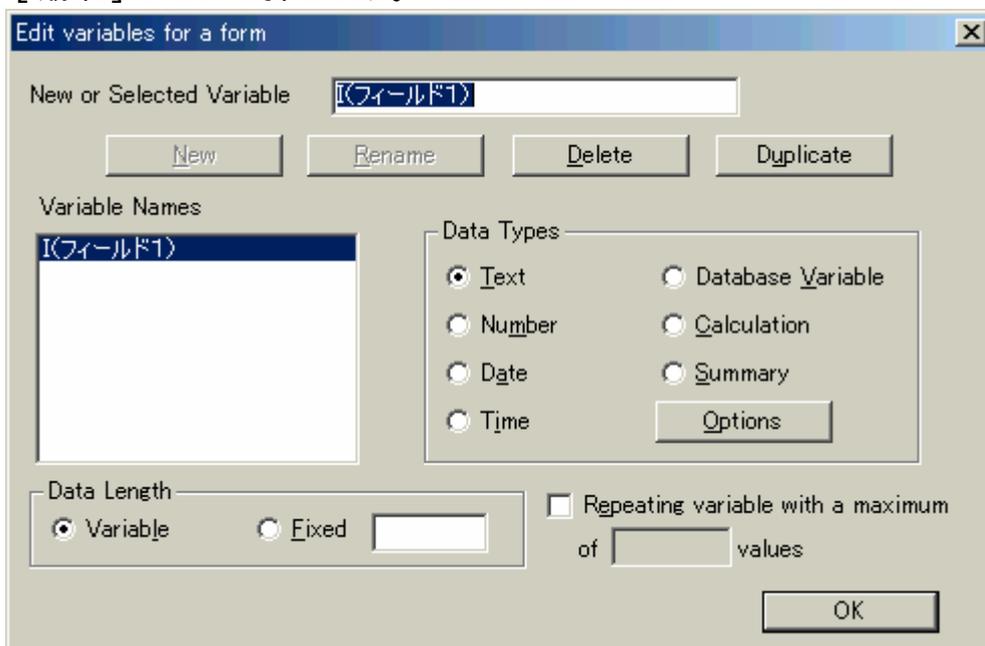
現在のフィールド名はフォームデザイナーが自動で作成した F ? が設定されます。

現在の変数名には、コピー元で設定されていた現在の変数名が設定されます。

現在のフィールド名に新しいフィールド名を設定（入力します。）
現在の変数名の設定（入力）値を Backspace キーまたは Delete キーを使用して、削除します。

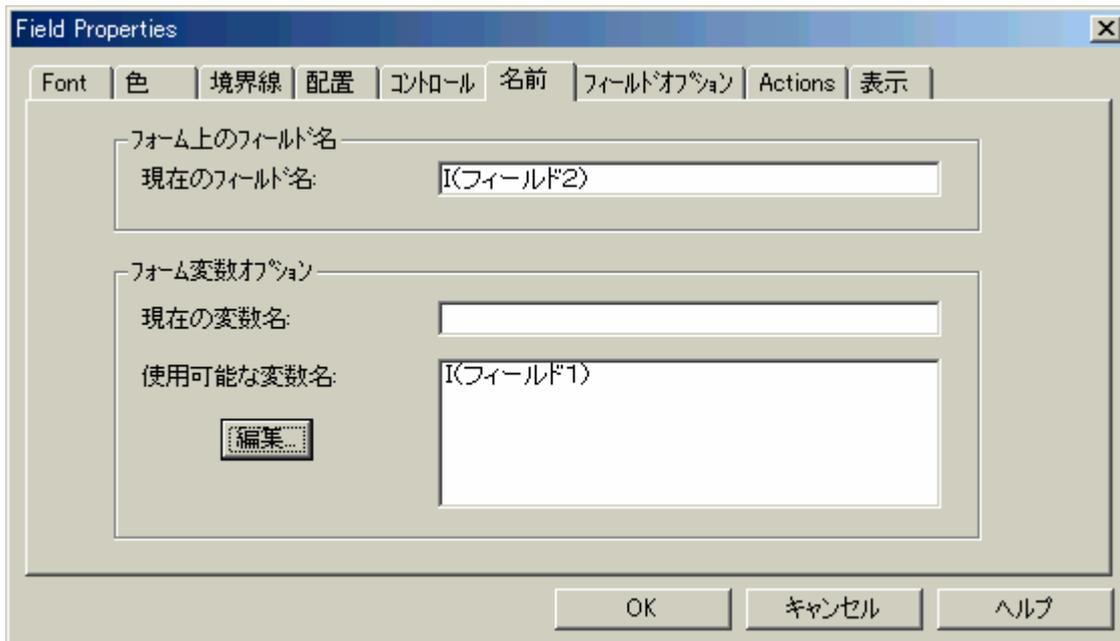


[編集] ボタンを押します。

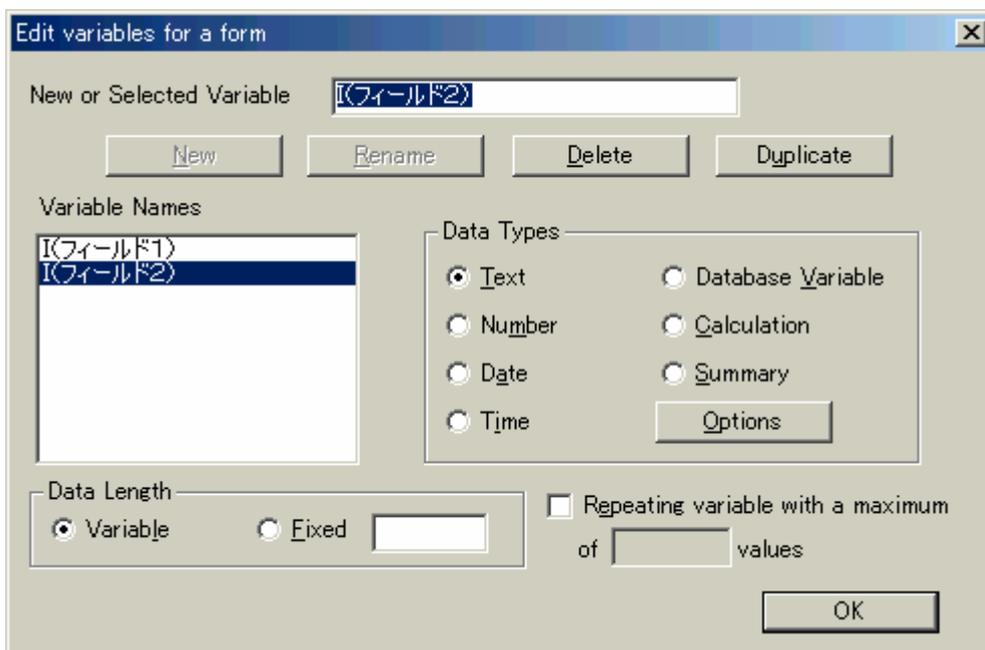


新規単一フィールドの作成時は、Variable Names にフィールドが追加されていましたが、コピーされたフィールドの場合は表示されない事に注意してください。

無条件に [OK] ボタンを押します。

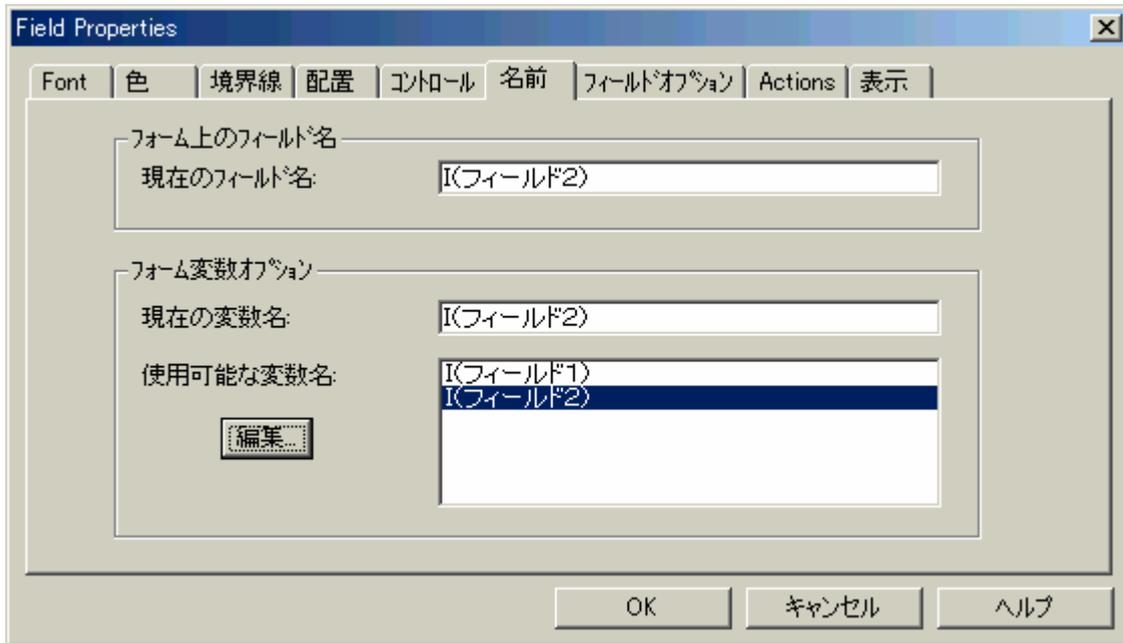


再度、ここで [編集] ボタンを押します。



2回目の [編集] ボタンにより、Variable Names にフィールド名が追加されます。

設定内容確認後に [OK] ボタンを押します。



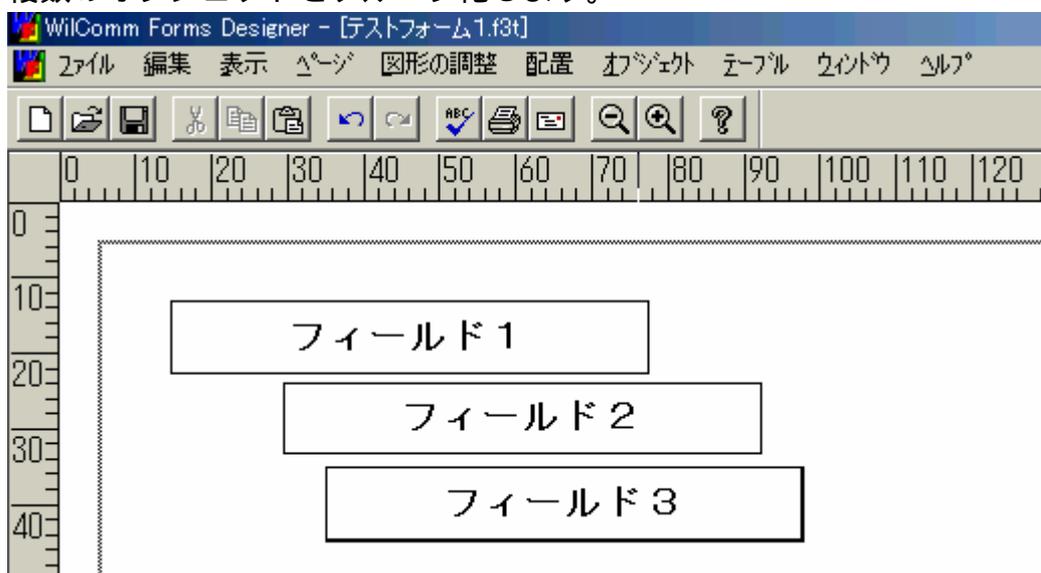
これまでの操作により、コピーされたフィールドの現在のフィールド名、現在の変数名が設定されます。

6 - 4 . 複数オブジェクトの一括コピー / 移動

フォームデザイナーで作成される複数のオブジェクトをグループ化することによって、複数フィールドを同時にコピー / 移動を行う事ができます。(グループ化しなくても、複数オブジェクトを選択 (シフトキーを押しながらクリック) しても、一括コピー / 移動は可能です)

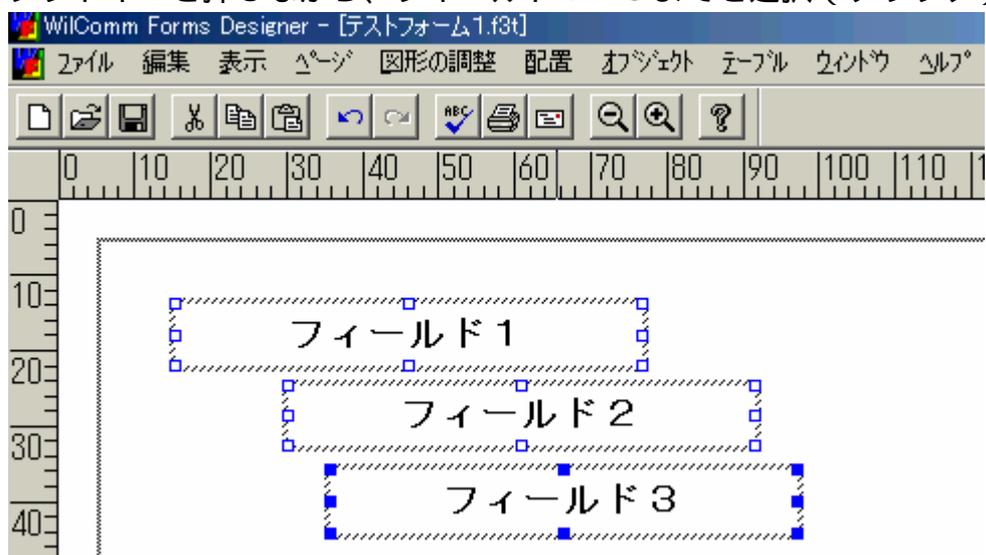
【グループ化】

複数のオブジェクトをグループ化します。



フィールド 1、フィールド 2、フィールド 3 をグループ化します。

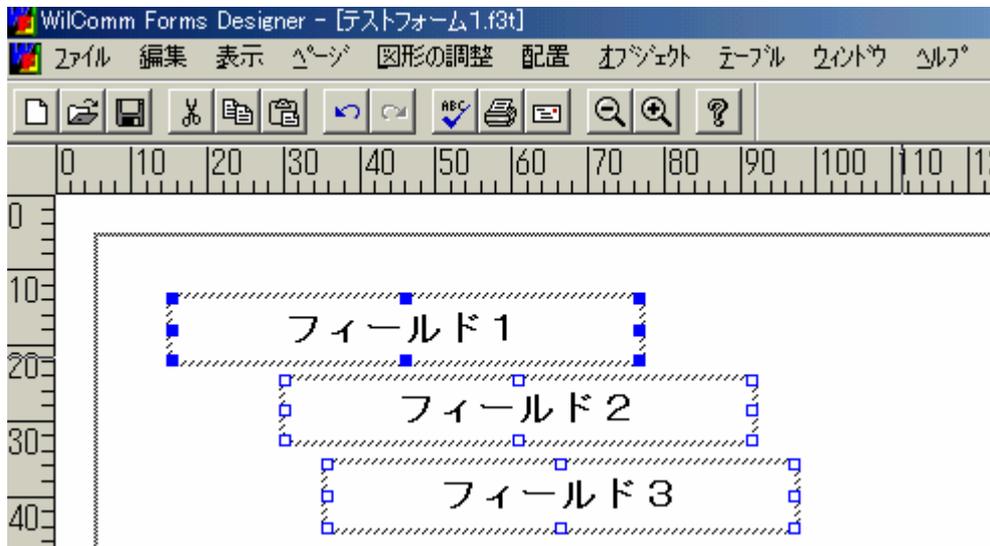
シフトキーを押しながら、フィールド 1 ~ 3 までを選択（クリック）します。



メニュー<オブジェクト>のグループ化を実行します。



違う領域を選択（クリック）して、フィールド1～3の選択を解除します。
一旦解除して、フィールド1またはフィールド2またはフィールド3を選択（クリック）します。

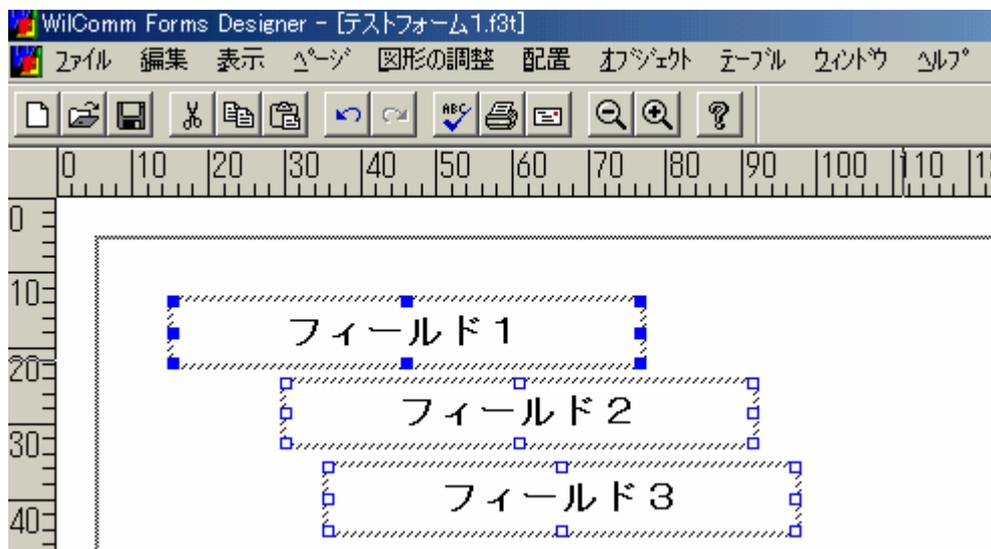


一度にフィールド1～3が選択されます。この状態でコピー操作や移動操作が可能です。

注意：グループ化したものをコピーし、コピーされた各オブジェクトのプロパティを表示する場合は、この後説明します“グループ解除”を行った後に、表示するようにしてください。
グループ化状態のまま、プロパティを表示した場合に、グループ化されている複数のオブジェクト中の、どのプロパティを表示するかはフォームデザイナーが自動で判別します。
そのため、意図したプロパティ以外が表示される場合があります。

【グループ解除】

グループ化されたフィールドを選択します。



メニュー<オブジェクト>のグループ解除を実行します。



グループ解除をする事により、オブジェクト一つのプロパティーが表示
できます。



6 - 5 . テーブル設定

フォームデザイナーで作成されるテーブル・フィールドには幾つかの注意点があります。

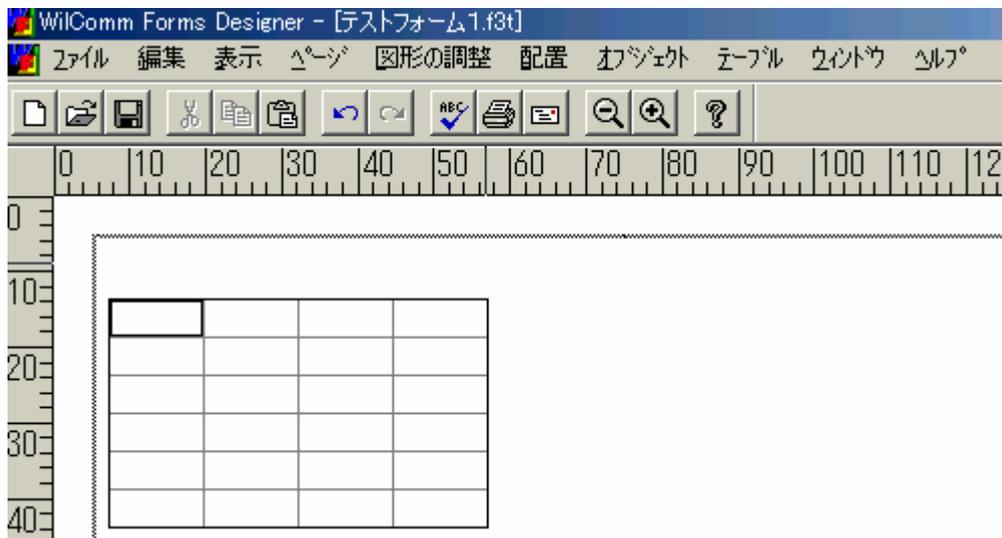
【行見出し / 列見出し】

行見出し / 列見出しの罫線について

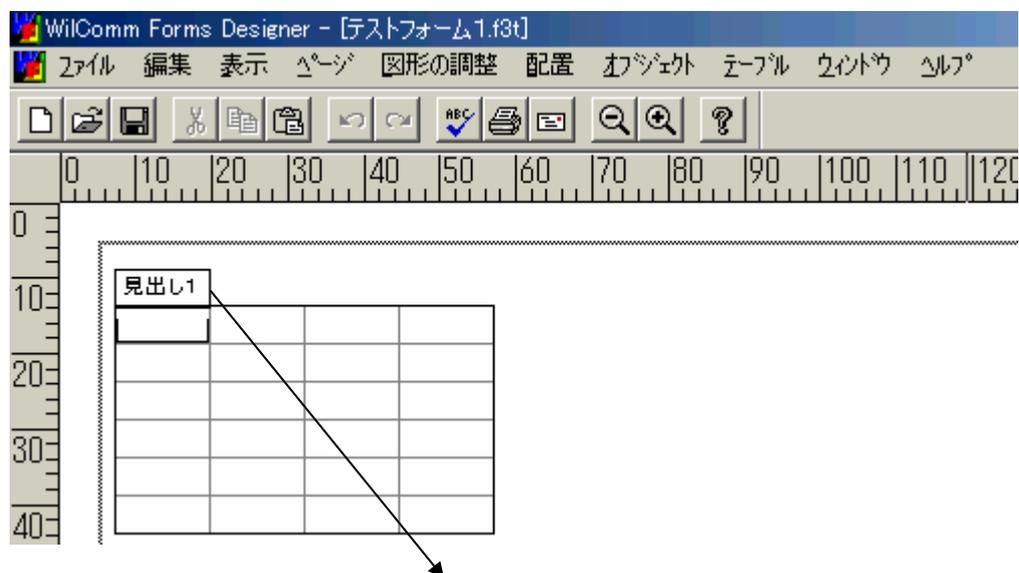
行見出し、列見出しのプロパティ (Cell Properties) には、タブシート “境界線” はありません。 そのため見出し部に境界線を引くことはできません。
また、列見出しと1行目のセルの境界線、行見出しと1列目の境界線は、必ず境界線が引かれます。(線種類の変更はできません)

列見出し / 行見出しに罫線を引く場合は、以下のように行います。

テーブルフィールドを選択し、メニュー<テーブル>の列 / 行のそれぞれに設定されているヘダーのチェックをはずします。



各列の位置に合わせて、テキストフィールドなどで見出しを作成します。



テキストフィールドで作成

上記の作業を繰り返し、行見出し / 列見出しを作成します。
この方法を用いた場合、テーブルフィールドの行・列の境界線で設定された
内容とテキストフィールドなどの境界線の設定を合わせる必要があります。

行見出し / 列見出しの文字の白抜きについて

行見出し / 列見出しは前述したように境界線を指定できません。

行見出し / 列見出しの文字を白抜き、背景色を黒にすることにより、文字を際立たせることにより、境界線が無くとも、テーブルフィールドのレイアウトが行えます。FAX送信で使用する場合には効果的です。

列見出し / 行見出しを以下のように設定を行います。

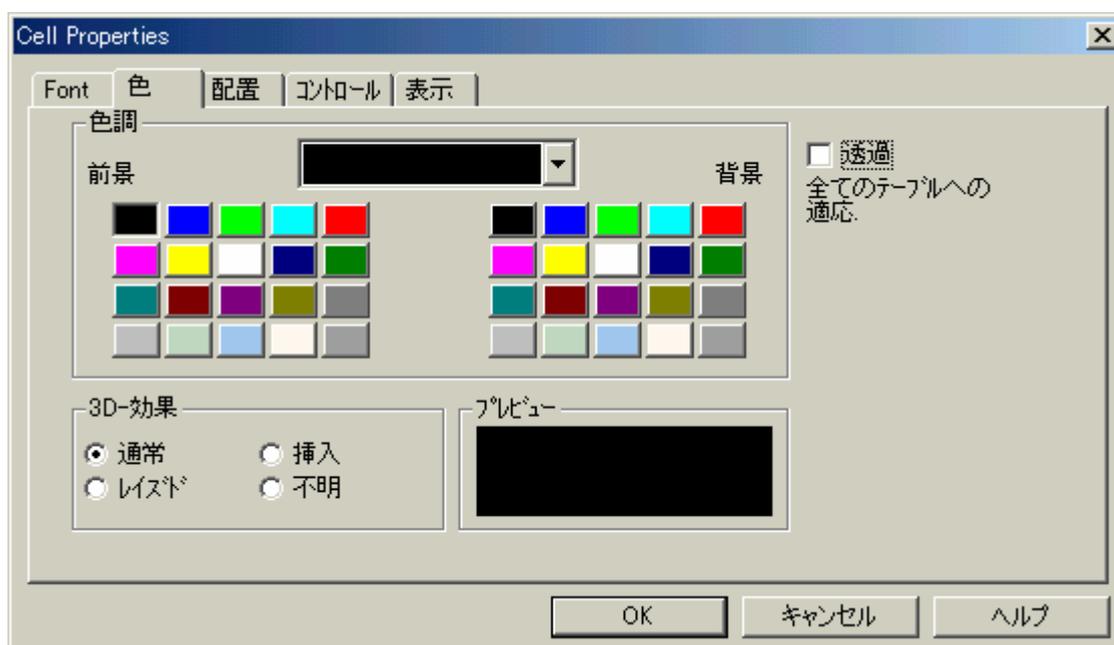
テーブルフィールドを選択し、見出しのプロパティ（Cell Properties）を表示します。（下記図は「見出し1」のプロパティ）



タブシート“Font”のTextcolorを白を選択します。

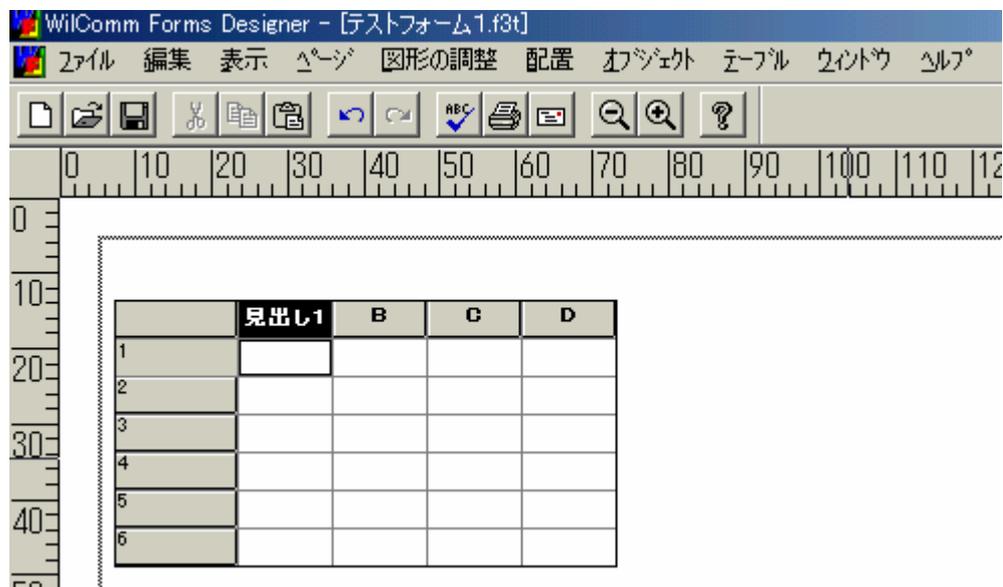


タブシート“色”の前景を黒に設定し、透過のチェックをはずします。



**注意：この透過のチェックはテーブルフィールド全体に影響します。
通常のセル（全列や全行に色をつける場合）に色を付ける場合も
この透過チェックをはずす必要があります。**

他のタブシートの設定（または確認）を行い [O K] を押します。

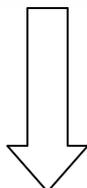


上記 ~ の作業を繰り返し、行見出し / 列見出しを作成します。

【列数について】

- テーブルフィールドを1列（列幅を最大）で定義し、スプールファイルから転送されるデータを印字（表示）することが可能です。
（例：スプールファイルの明細部分などを1列のテーブルフィールドで定義）
ですが、このような設定をすることはお勧めできません。何故なら、列に設定される文字フォント/サイズやスプールファイルデータにより、印字（表示）データの右端がズレる事があります。

明細部



1列でとるのではなく、手間はかかりますが明細項目単位または、区切りの良い箇所で区切った列数でデザインを行うことをお奨めします。

項目1	項目2	項目3	項目4	項目5

【行・列のグリッドラインについて】

- 行と列のグリッドラインを使用して罫線を印字（表示）させると、ディストリビューションウィザードで指定する「解像度」の指定や印刷を行うプリンタードライバーの影響により印字（表示）されないケースがありますので、必ず列全体や行全体のプロパティの境界線で罫線を指定するようにして下さい。

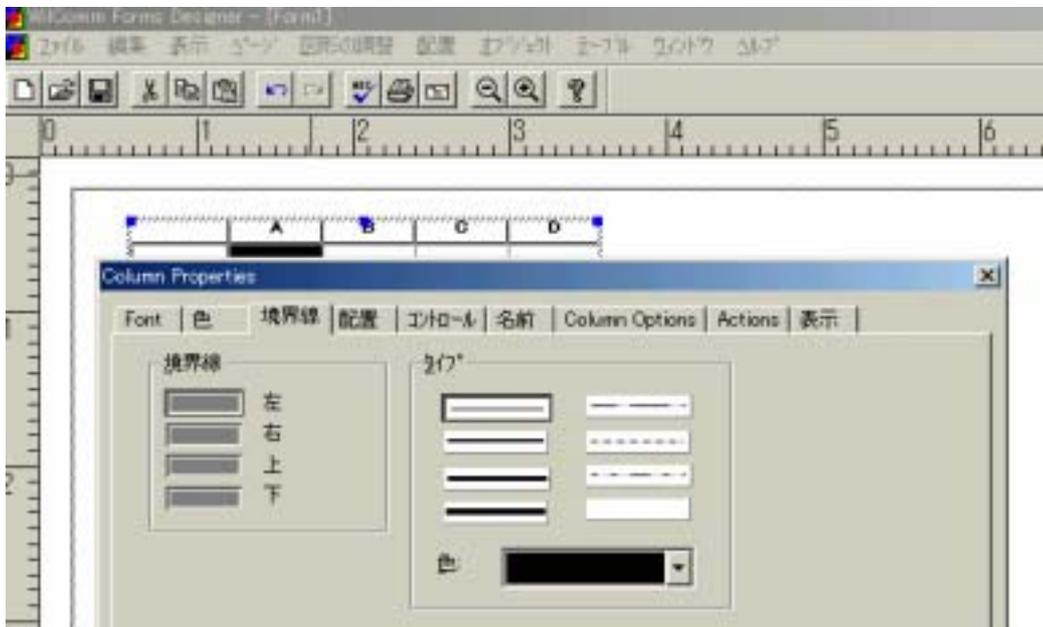
	A	B	C	D
1				
2				
3				
4				
5				
6				



グリッドラインは使用しない。

グリッドラインの設定はメニュー<テーブル>。

列全体または行全体のプロパティの境界線で指定する。



注意：列全体または行全体で境界線を指定する時、線が重なる箇所には注意してください。罫線の印字（表示）結果が指定した線種類よりも太くなります。

6 - 6 . 作成フォームの保管 / 印刷

フォームデザイナーでは以下の画面モードがあります。

デザインモード : レイアウト作成 / フィールド作成のデザインを行うモードです。



画面下部に  のアイコンが表示されている時がデザインモードです。

フィルターモード : デザインされたレイアウト / フィールドを実際の印字（表示）位置で確認を行うモードです。



画面上部に  のアイコンが表示されている時がフィルターモードです。

フィルターモード時のメニュー / アイコンについては、前述2「フォームデザイナー・メニュー / アイコンの説明」を参照してください。

【作成フォームの保管】

作成された（作成途中）のフォームを保管する場合は、必ず「デザインモード」で行います。

デザインモードで保管されたフォームは、指定（入力）されたフォーム名に拡張子“ f 3 t ”が付けられ保管されます。

フィラーモードでフォームの保管を行うと、保管されるファイルの拡張子が“ f 3 v ”となります。

フィラーモードで保管を行ってしまうと、作成（修正）したフォームのが、フォームファイル（拡張子が“ f 3 t ”）に保管されないため、作成（修正）内容が実際の印字（表示）に反映されません。

逆に拡張子“ f 3 v ”を開き、この状態からデザインモードにしても、作成（修正）された内容は、デザインモードに反映されない事に注意してください。

フォームの保管を行い場合は、必ず“デザインモード”で行います。

【作成フォームの印刷】

フォーム作成のコツは、ある程度のレイアウト作成やフィールド作成が、できたら、実際にプリンターへ出力し、確認することにあります。

印刷する場合は、必ず「フィラーモード」で行います。

デザインモードから印刷をした場合と、フィラーモードから印刷をした場合では印刷結果が異なる事に注意してください。

Wi IComm は処理に必要なフォームを、自動でフィラーモードでフォームを開き、そこで開かれたフォームが、実際の印刷や送信処理に使用されます。



フィラーモードからの印刷結果がWi IComm で処理され印刷、送信された状態です。

注意：このフィラーモードで印刷をするプリンターのプリンタードライバーによって多少の位置ズレが発生します。Wi IComm を使用して印刷処理を行う場合は、予め印刷処理で使用されるプリンターを印刷設定し、印刷 / 確認をするようにしてください。

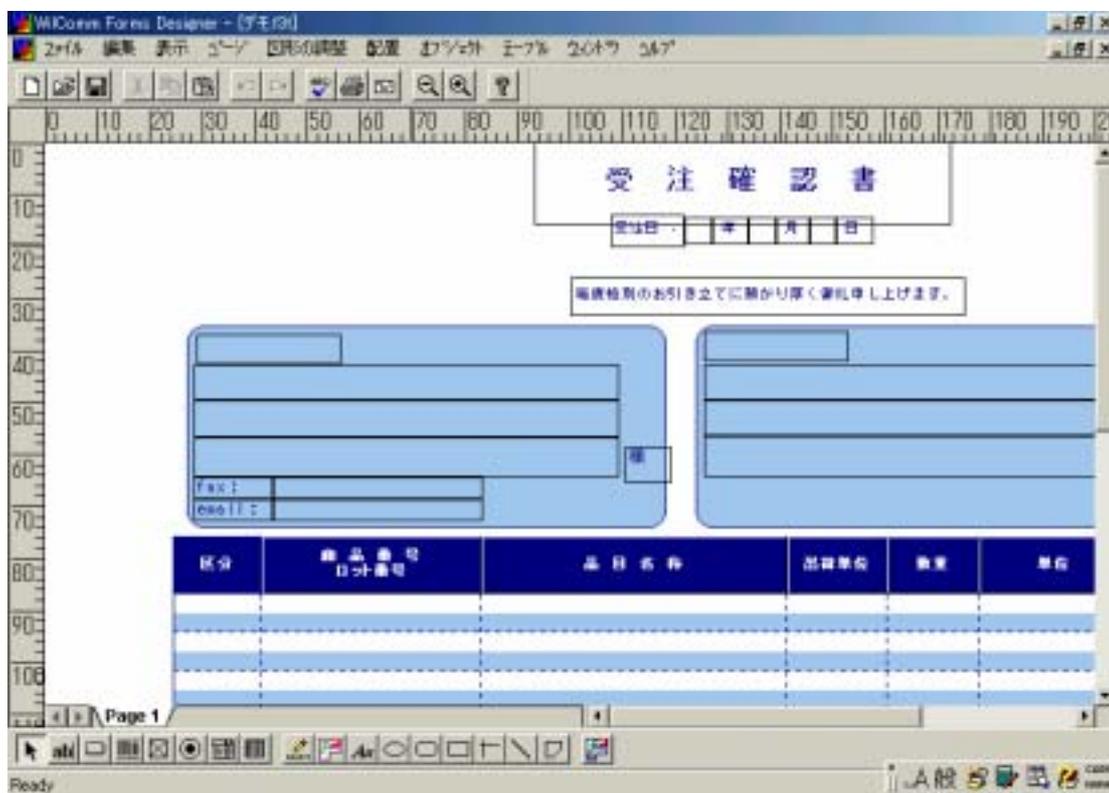
フォームの印刷を行う場合は、必ず“フィラーモード”で行います。

6 - 7 . W i l C o m mからの出力イメージの確認

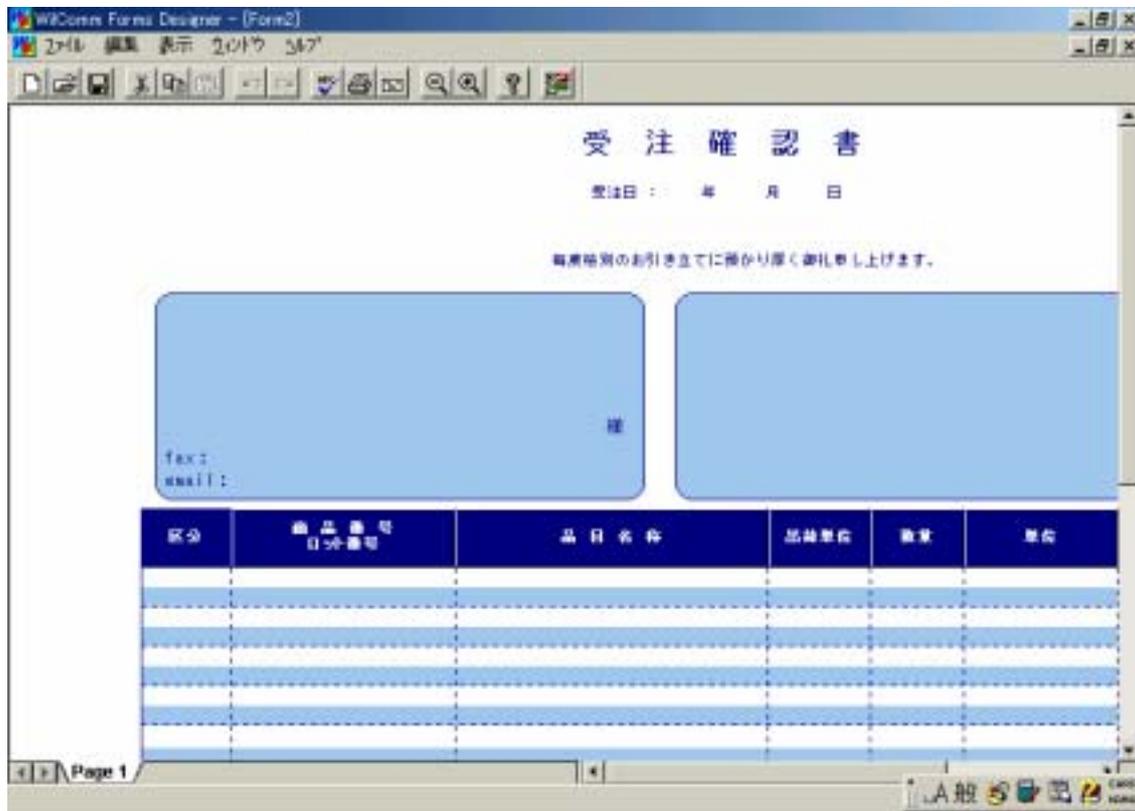
単一フィールド、テーブルフィールドに設定されて文字のフォント/サイズ、配置等は前述6 - 6「作成フォームの保管/印刷」で説明した、デザインモードでは確認できません。

実際の出力された時の文字のフォント/サイズ、配置などはフィラーモードにて確認を行うことが可能です。

【出力イメージの確認：手入力】



デザインモードで  アイコンをクリックし、フィルターモードにします。



WForms Designer - [Form2]
2016 編集 表示 2017 347

受注確認書

受注日： 年 月 日

毎票単位のお引き立てに際し厚く御礼申し上げます。

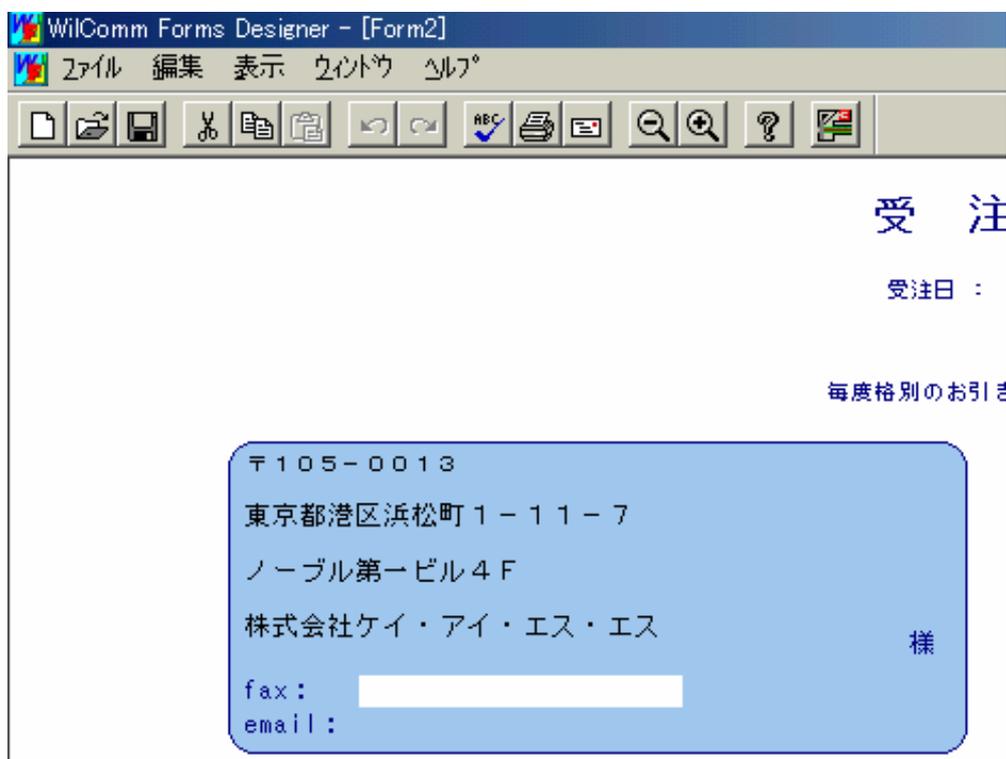
fax:
email:

区分	商品番号 日付番号	品目名称	品目単位	数量	単価

Page 1

全般

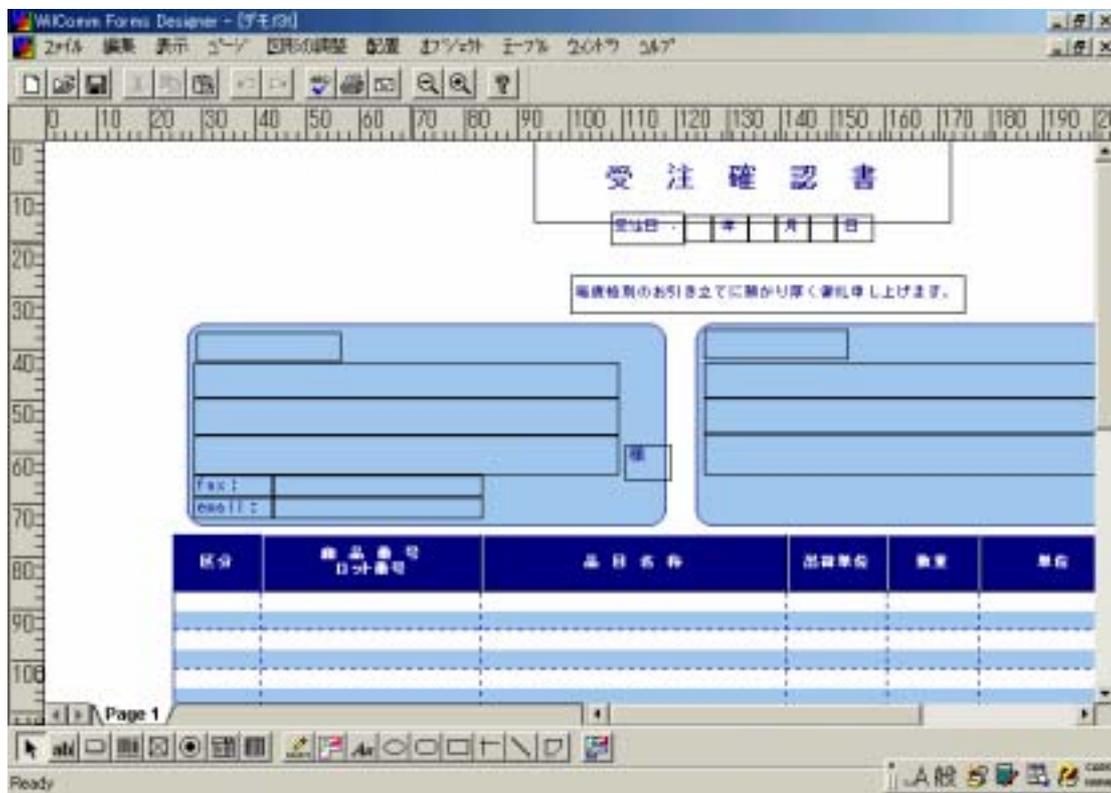
スプールファイルからデータが転送されるフィールドを選択（クリック）し、テストデータを直接入力します。



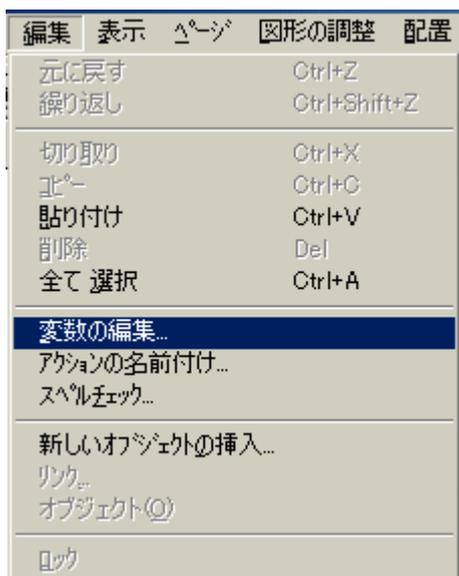
直接入力する事で、スプールファイルから転送されるデータの文字のフォント/サイズ、配置等を確認することができます。

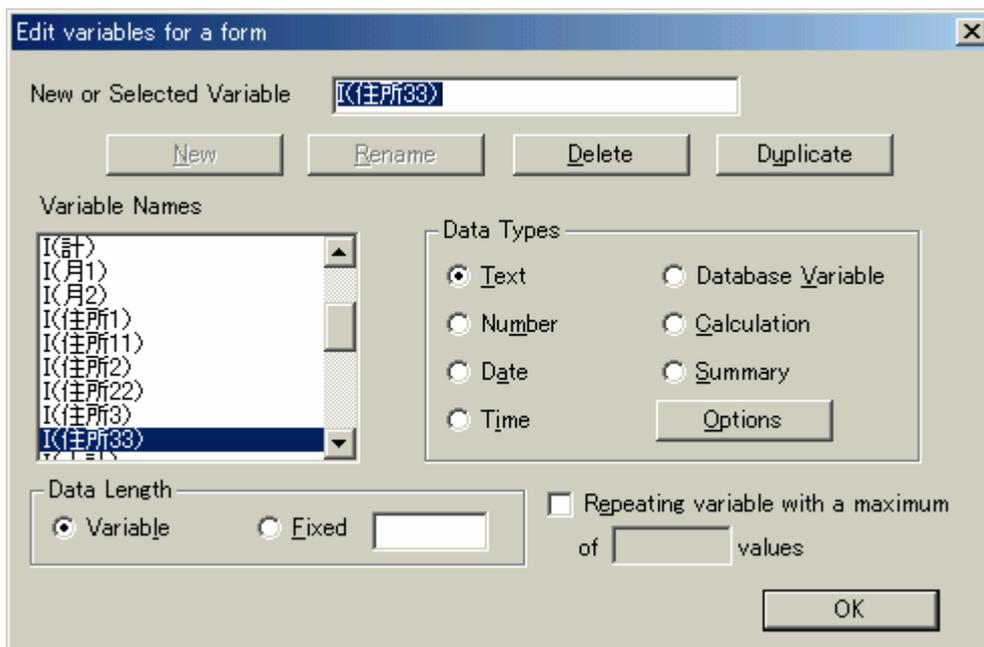
フィルターモードで  アイコンをクリックし、デザインモードに戻り、再度、フィルターモードを実行すると、以前に入力された値はクリアされます。

【出カイメージの確認：自動入力】

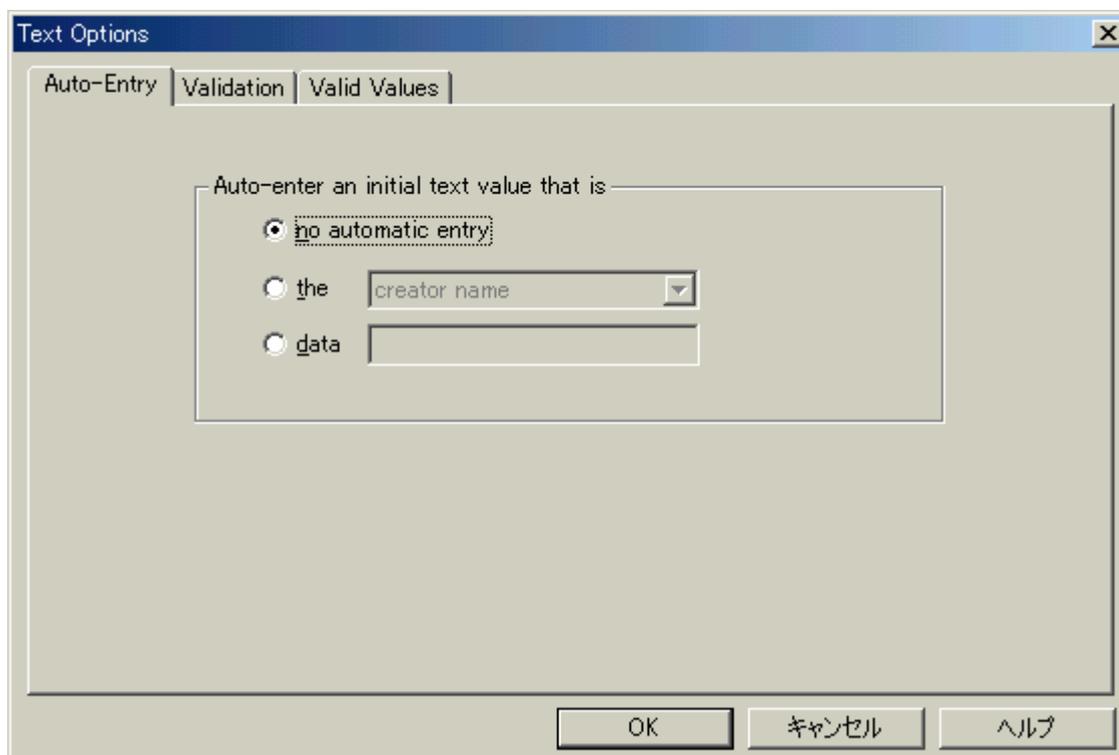


メニュー< 編集 >の「変数の編集」を実行します。

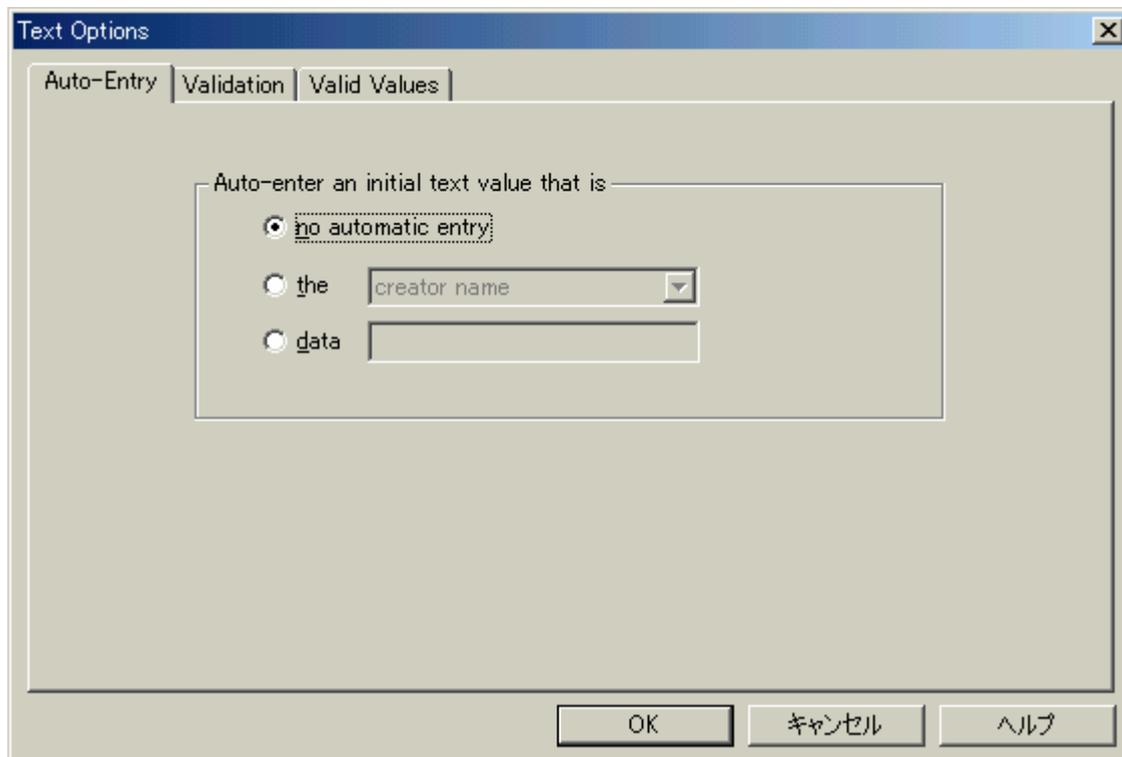




自動入力を行う変数（スプールファイルから転送されてくるデータの受け渡しフィールド）を、Variable Names の一覧から選択（クリック）し、Data Types の [Options] ボタンを押します。



タブシート “ Auto - Entry ”



- no automatic entry

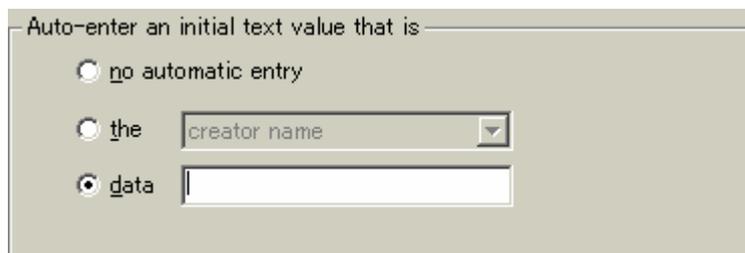
- ・ここにチェックがある場合は、自動入力されません。

- the

- ・将来機能拡張用です。現時点では機能しません。

- data

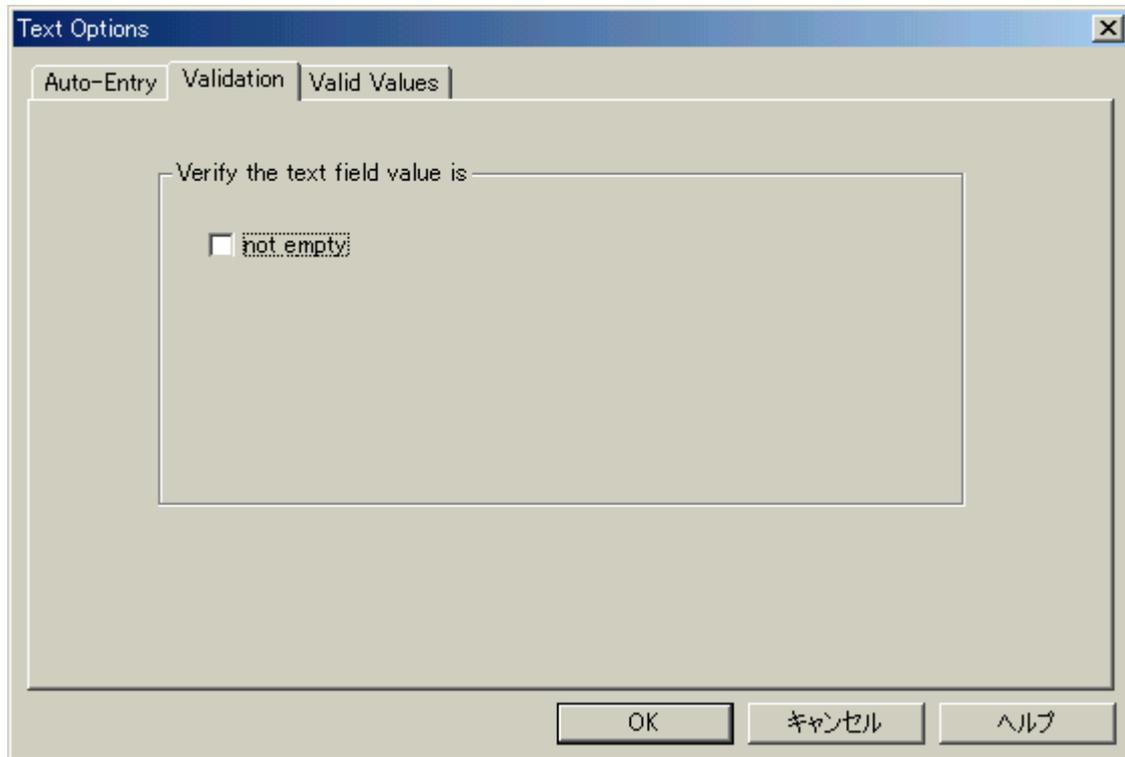
- ・自動入力する場合は、ここにチェックします。



チェックをすると入力欄が現れます。ここにデータを入力します。

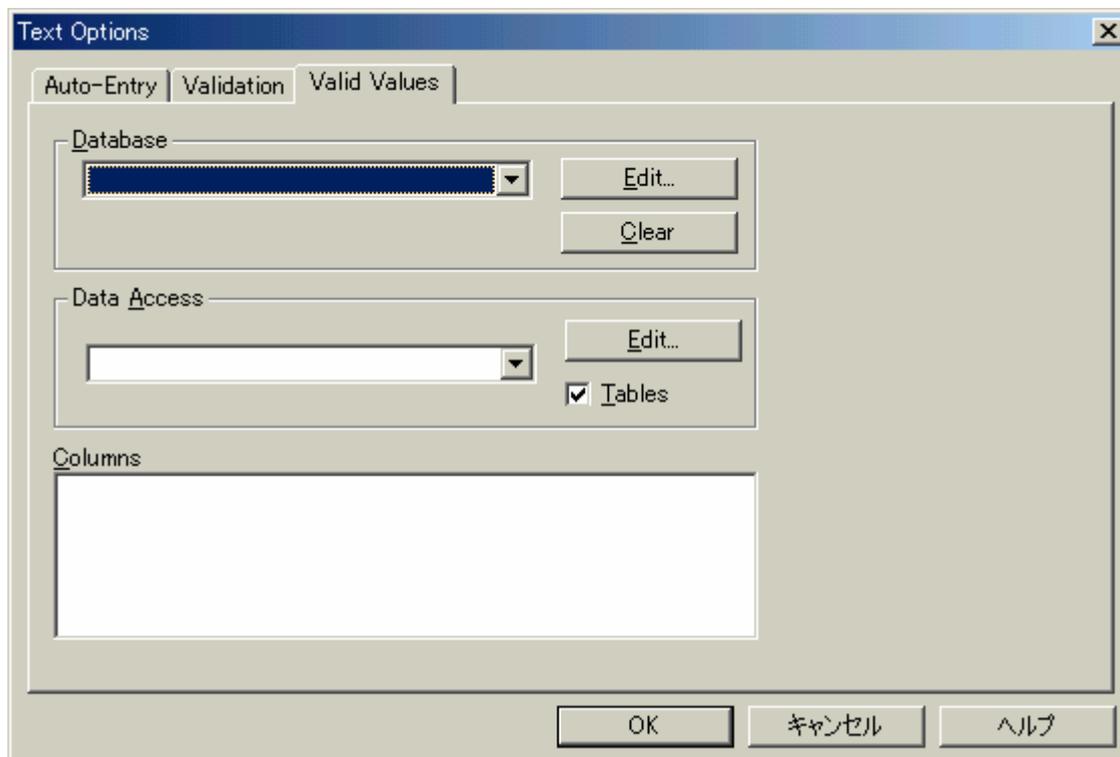
タブシート“Validation”

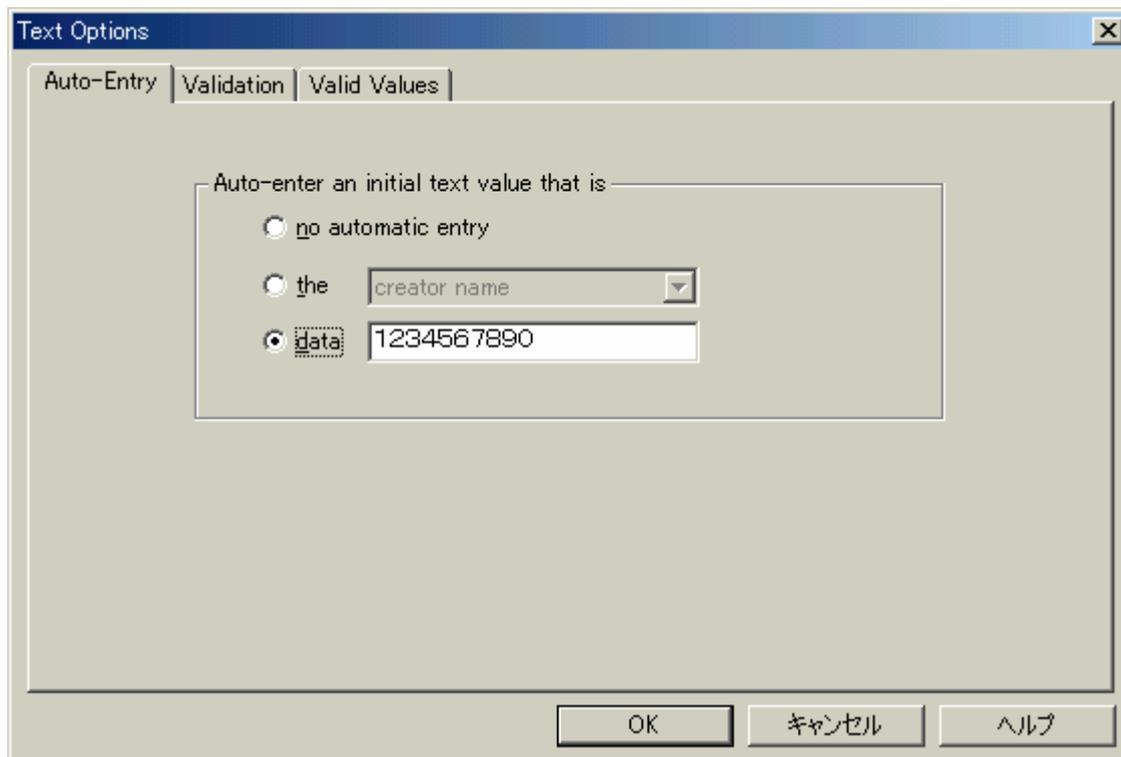
- 将来機能拡張用です。現時点では機能しません。



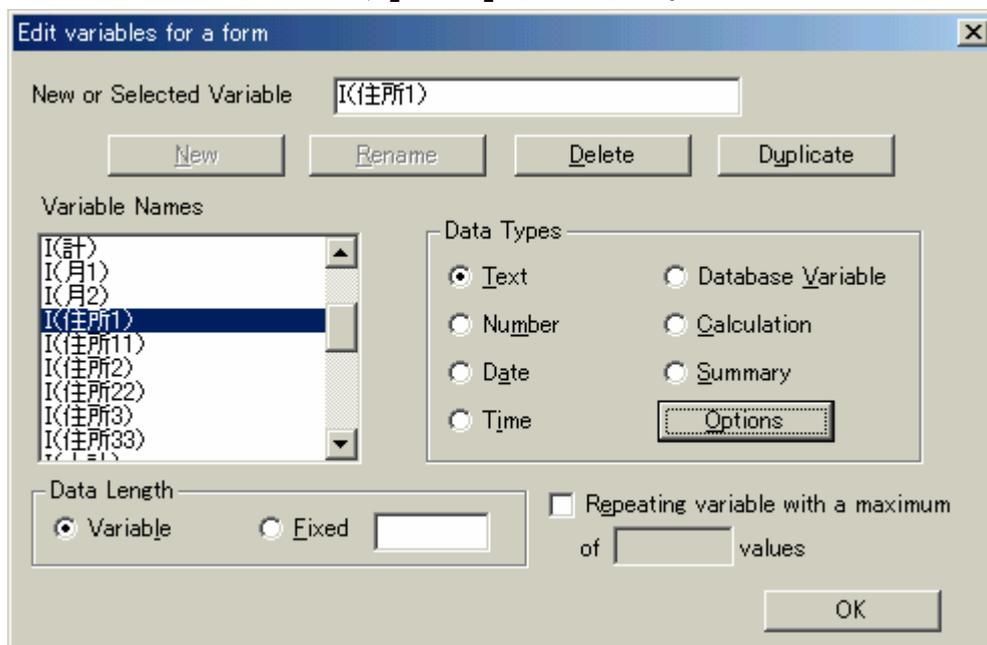
タブシート“Valid Values”

- 将来機能拡張用です。現時点では機能しません。





自動入力データを入力し、[OK] を押します。



[OK] を押します。

デザインモードで  アイコンをクリックし、フィラーモードにします。



☰

5

毎度格

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

上記で設定された自動入力値が表示されます。

自動入力を用いた場合は、デザインモードに戻り、再度フィラーモードを実行しても、設定されている自動入力値が表示されます。

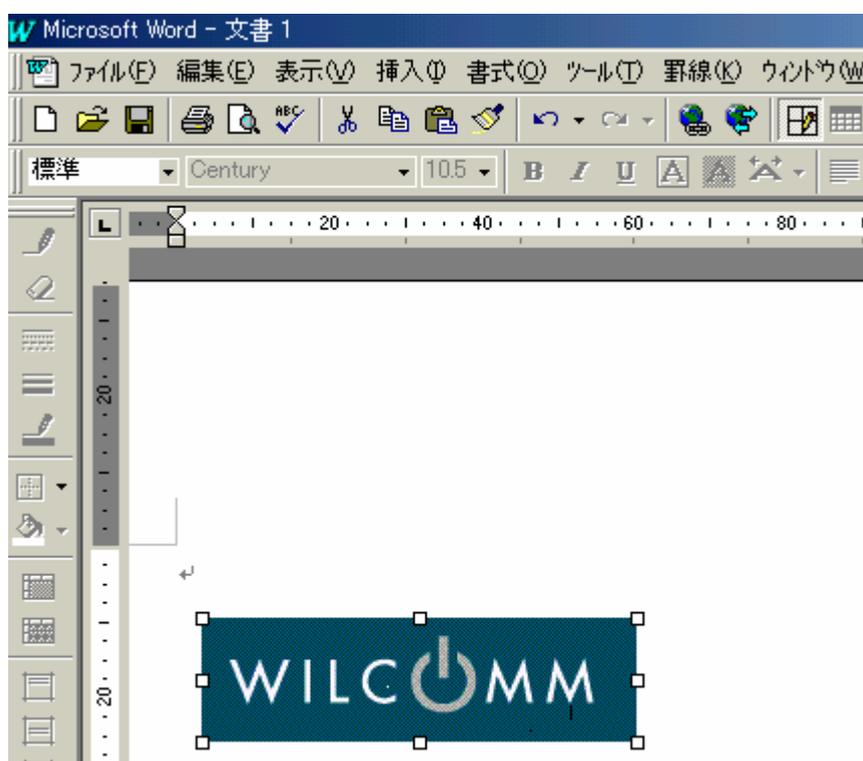
**注意：自動入力の設定は、実際にWilCommで処理する場合も、自動でフォームに印字（表示）されます。
フォーム作成（レイアウト確認）が完了したら、必ず、上記で説明したタブシート“Auto-Entry”の「data」からチェックを外し、「no automatic entry」にチェックをし直してください。**

6 - 8 . ロゴの挿入

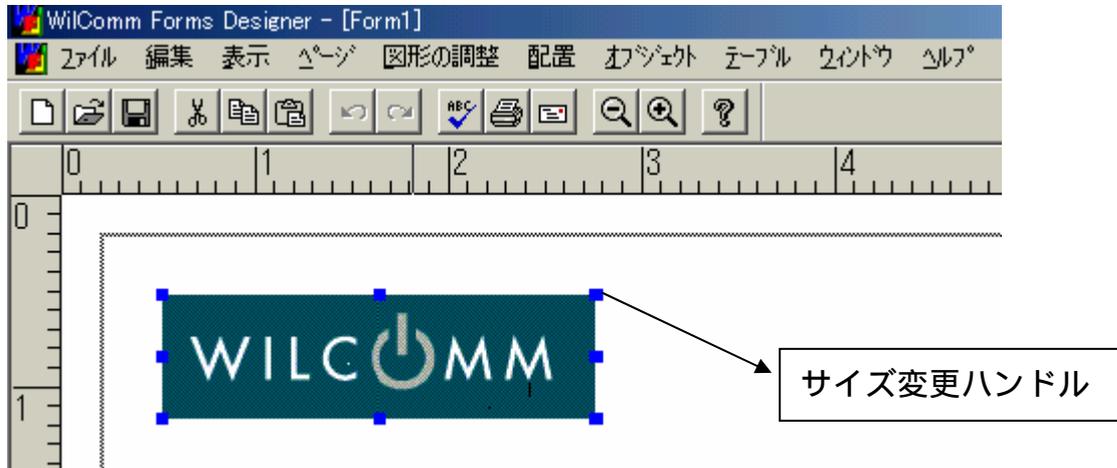
フォームデザイナーでは、簡単に会社のロゴや社印を Windows の Cut&Paste の機能を使用して、取込むことができます。

【会社のロゴや社印などの取込み】

会社のロゴや社印などを、一旦 Microsoft Word を使用し、Word 上に取込みを行います。(Word への取込み方法は、Microsoft が提供しているマニュアルを参照してください)



Windows の Cut&Paste の機能を使用して、フォームデザイナーへ貼り付けます。



貼り付けられた位置を変える場合は、ロゴを選択（クリック）し上記画面のような状態にし、マウス・ドラッグを行い位置を動かします。

**注意：会社のロゴなどは縦／横の比率が決まっていると思います。
フォームデザイナーは、貼り付けられたロゴなどのサイズを変更する場合、サイズ変更ハンドルを使用してサイズ変更を行います。
このサイズ変更ハンドルによるサイズ変更は、縦／横の比率を計算し、同比率のサイズ変更はできません。
そのため、一旦 Microsoft Word に取込み、サイズ変更を行った後にフォームデザイナーへ貼り付けるようにしてください。**

6 - 9 . バーコードの作成

フォームデザイナーでは、スプールファイルに印字されているデータを使用してそのデータをバーコードに変換することができます。

注意：制御文字をもつようなバーコードに変換する場合は、その制御文字もスプールファイルに印字されている必要があります。

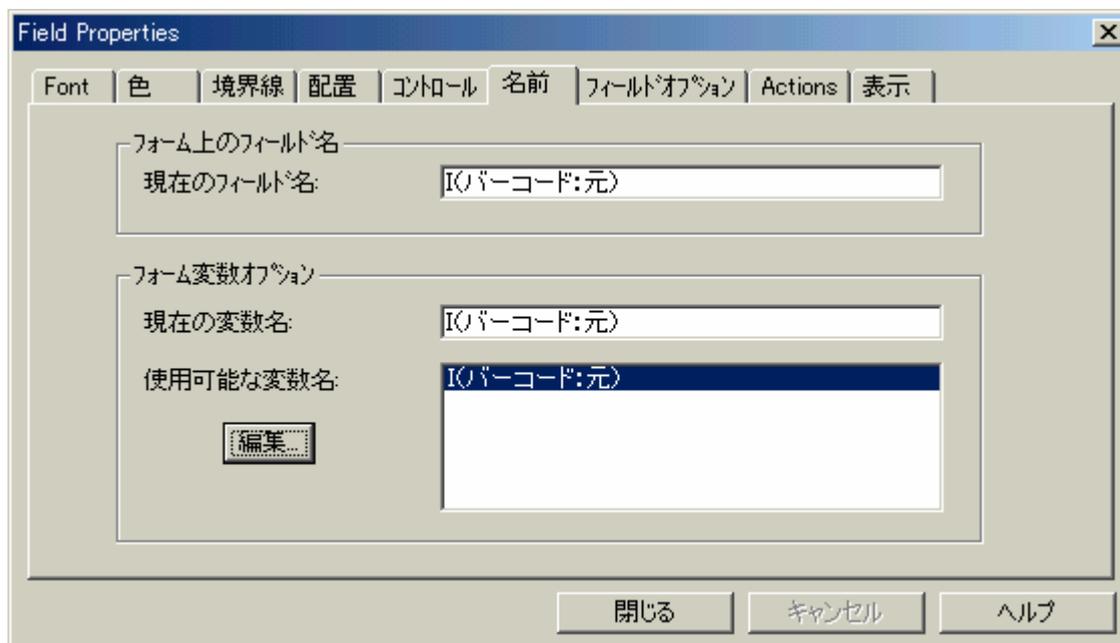
【バーコードフィールドの作成】

バーコードに変換する元の単一フィールドを作成します。

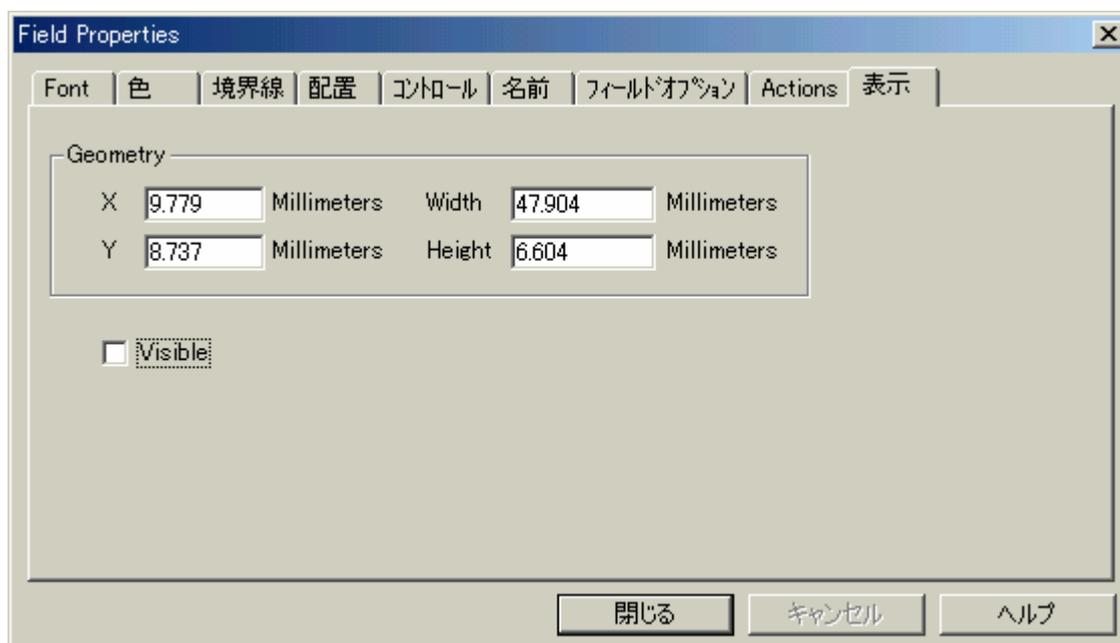
単一フィールドを作成します。作成方法は前述5「フィールドの作成」を参照してください。



プロパティを表示し、フィールドに名称及び変数名を設定します。



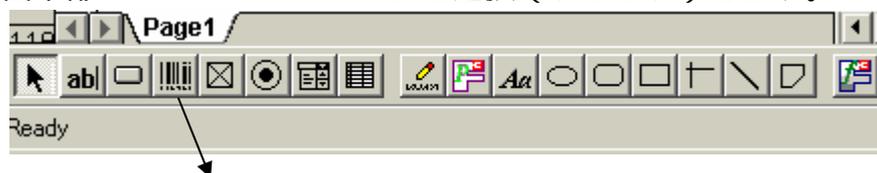
仮に、バーコード元のフィールドを印字（表示）しない場合は、タブシート“表示”の「Visible」（表示）のチェックを外します。



[OK] を押して、バーコード元の単一フィールドを作成します。

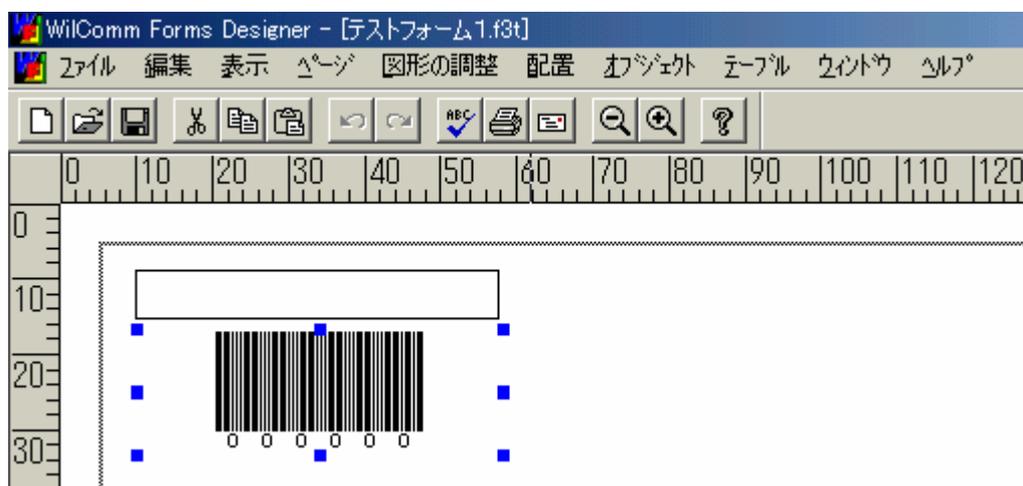
バーコード・フィールドを作成します。

画面下部のバーコードアイコンを選択（クリック）します。



バーコード・アイコン

バーコードを印字（表示）させる位置にカーソルを合わせ、ドラッグしバーコードフィールドを作成します。



バーコードフィールドのプロパティを表示します。



タブシート“バーコードオプション”

- バーコードタイプ : 矢印ボタンを押して、使用するバーコードタイプを選択します。
- 水平方向 / 垂直方向 : バーコードフィールド領域のバーコードの配置位置をチェックします。
- 追加データ [数式] : **将来機能拡張用です。現時点では機能しません。**
- メッセージ [数式] : **将来機能拡張用です。現時点では機能しません。**
- バー : **必ず、UPCフォントをチェックします。(初期状態のままにしてください。)**

- テキスト

: バーコードと一緒に、バーコードテキストの表示 / 非表示を設定します。

- ・上揃え ... バーコードの上にテキスト表示
- ・下揃え ... バーコードの下にテキスト表示
- ・非表示 ... テキストは表示しません。
- ・ストレッチテキストをチェックしない場合



- ・ストレッチテキストをチェックしない場合



- ・コード39の表示は必ずチェックします。

- 変形 (角度) : バーコードの向きを指定します。



< 変形 (角度): 0 を選択 >



< 変形 (角度): 180 を選択 >



< 変形 (角度): 270 を選択 >



< 変形 (角度): 90 を選択 >



タブシート “ Font ”

- バーコードのテキストに対する情報を設定します。
テキストフィールドなどのプロパティと同様です。
詳細は前述 4 「レイアウトの作成」を参照してください。

タブシート “ 色 ”

- バーコードの背景色に対する情報を設定します。
テキストフィールドなどのプロパティと同様です。
詳細は前述 4 「レイアウトの作成」を参照してください。

タブシート “ 名前 ”

The screenshot shows the 'Properties' dialog box with the 'Name' tab selected. The 'Form Field Name' section has a text box containing 'I(バーコード)'. The 'Form Variable Name' section has a text box containing 'I(バーコード:元)'. Below it, a list box for 'Usable Variable Name' contains 'I(バーコード:元)'. An 'Edit...' button is located below the list box. The dialog has 'OK', 'キャンセル', and 'ヘルプ' buttons at the bottom.

現在のフィールド名には、バーコードフィールドの名前を付け、入力します。

現在の変数名には、上記 で定義した、バーコードに変換する元の単一フィールドを指定します。

WilComm の処理では、一旦、バーコードに変換する元の単一フィールドにスプールファイルからのデータを展開し、フォームデザイナーが展開されたデータを基にバーコード変換を行います。

タブシート “ 表示 ”

- バーコードフィールド領域に対する情報を設定します。
テキストフィールドなどのプロパティと同様です。
詳細は前述 4 「レイアウトの作成」を参照してください。

7. マッピング作業事前準備

前述までで、フォーム（専用帳票）の作成が完了したら、次にスプールファイルと作成されたフォーム（専用帳票）の重ね合わせ（マッピング）を定義するために、フィールド名（転送されてくるデータの受け渡しフィールド（変数）、フォームデザイナー上では、「現在の変数名」）の抽出処理を行ないます。

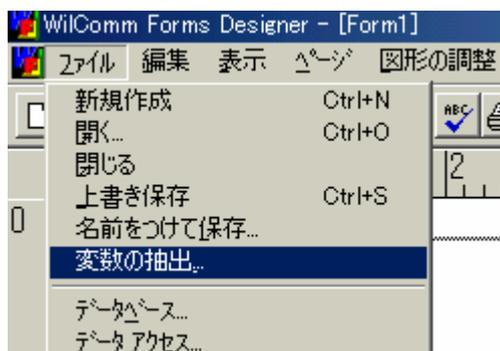
注意：この作業は、マッピング作業が可能なPC（原則 WiIComm が導入されている PC Server）で行ってください。

WiIComm が導入されている PC Server へのフォーム（専用帳票）のコピー方法は、前述 2 「フォームデザイナー・メニュー/アイコンの説明」の“名前をつけて保存”の箇所を参照してください。

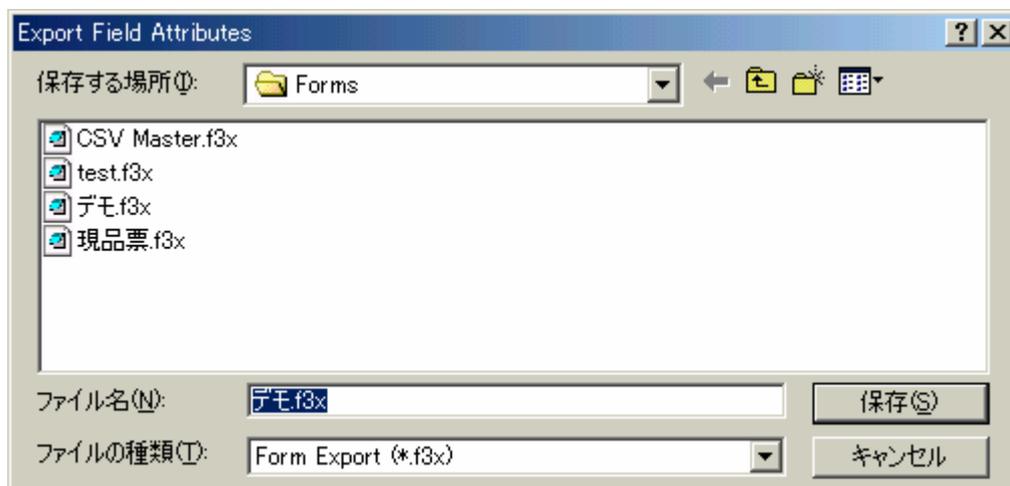
WiIComm が導入されている PC Server にフォーム（専用帳票）をコピーした後に、WiIComm が導入されている PC Server でフォームデザイナーを実行します。

該当フォーム（専用帳票）を開きます。

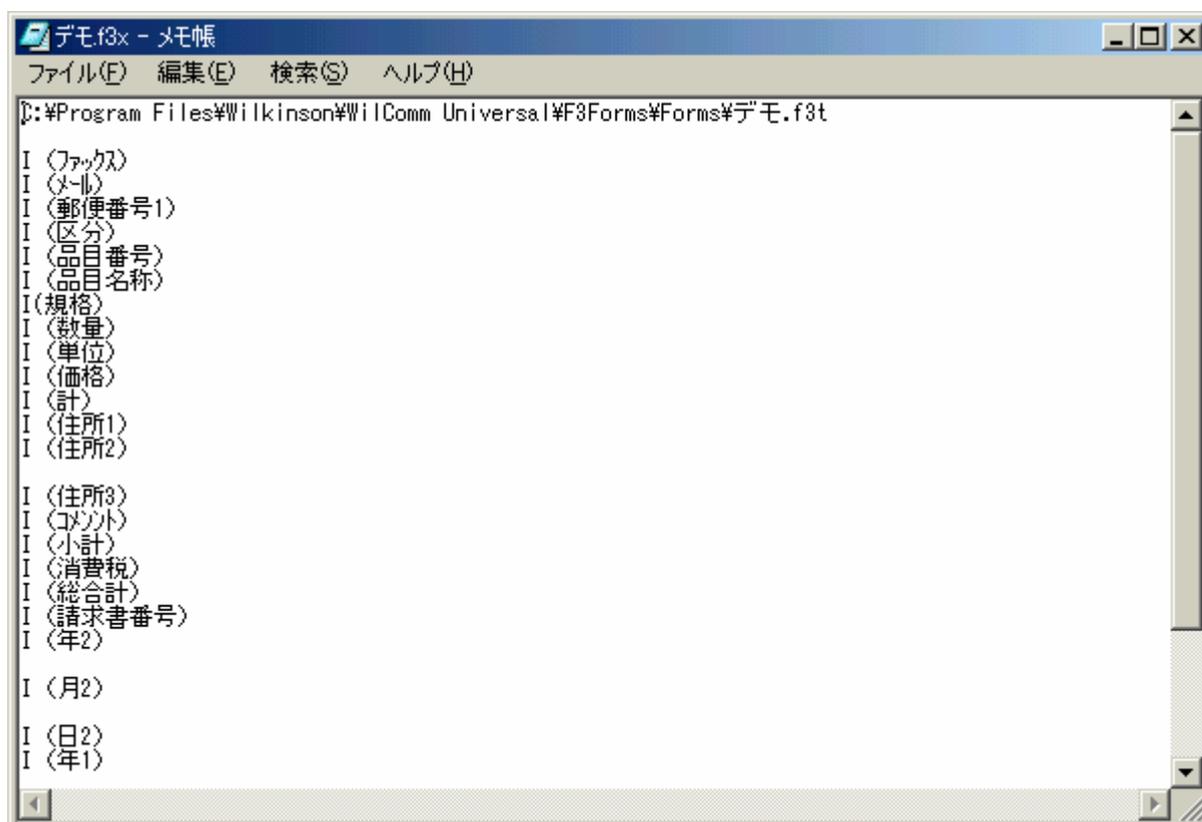
メニュー<ファイル>の「変数の抽出」を実行します。



ファイル名を変えずに、[保存] ボタンを押します。



保存する場所は、必ずフォーム（拡張子が f 3 t ）と同一の場所にしてください。
[保存] ボタンを押すと、拡張子が f 3 x が作成されます。このファイルはテキストファイルなので、メモ帳で開き内容を確認が可能です。（下記参照）



以上でフォーム（専用帳票）の作成は終了です。

ここまでの作業で、フォームレイアウト情報を含む f 3 t ファイルと、フィールド名を含む f 3 x が作成されます。

この2つのファイルは次のステップのフィールドマッパーで使用されます。

フィールドマッパーでは、フォーム上に作成したフィールドと、スプールファイル上の項目の関連を定義作成します。

詳細については、マニュアル「フィールドマッパー操作ガイド」を参照してください。